

考ヲ申上ゲタノデアリマスガ、ソコデ今回
ノ修正案ハ、本法施行ノ際ニ直グニ勅令ヲ
ナカッタナラバ、將來事業ヲ指定スル際ニ法
律ヲ以テ指定スルヤウニシタラドウカ、決
シテ將來ノ擴張ヲ妨ゲ、或ハ擴張ヲ非トシ、
或ハ擴張ヲ阻ムト云フ意味デハナイガ、併
シ今ハ勅令ハ要ラヌカラ、ソレナラ削ヅテ置
カウト云フヤウナコトデ、此ノ修正案ガ此
ノ點ニ付テ起キタヤウデアリマス、大體第
一條ハ今ノヤウニ、此ノ三十人ト云フコト、
適用ノ事業ニ關スルコトト云フヤウナコ
トデ、是ハモウ非常ニ澤山ノ議論ガゴザイ
マシタノデアリマス、第一條ニ付テハ以上
ノヤウナ次第デアリマスガ、次ニ第五條ニ
付キマシテ、是ハ又非常ニ議論ガアリマシ
テ、最近軍需工業等ノ發達ニ伴ヒマシテ、
臨時工ナルモノガ非常ニ多イ、サウシテ臨
時工ノ非常ニ困ツタコトヘ、其ノ待遇ガ悪
イ、退職ノ際ニ手當ナドヲ貰ヘナイト云フ點
ガ、臨時工トシテハ非常ニ氣ノ毒ナ事情ニ
在ル、ドウカシテ此ノ臨時工ト云フモノハ、
何トカ是ハ取締ツテ貰ハナケレバナラヌ、臨
時工ト云ツテモ常備工ト同ジ仕事ヲサシテ
置イテ、殆ド常備工ト變ラヌニ拘ラズ、臨

ノ待遇ヲ悪クスルト云フコトハ非常ニイケヌ
ナイト云フ議論ガ盛デアリマシテ、此ノ點
ニ付キマシテハ、本法デヘ臨時工ニ付テヘ、
第五條ニ六箇月以上ニ亘レバモウ臨時工ト
看做サナイデ、退職手當ヘ支給スルノダ、ソ
レカラ季節事業ニ付テモ矢張リ是ハ臨時
ノモノデアリマスガ、若シ是ガ一箇年繼續シ
テ使用シマスト、矢張リ是モ退職手當ヲヤ
ルト云フコトニ、第五條ニ致シテアリマスガ、
併シコンナコトデハイカヌ、六箇月ト云フ
コトハ是ハ三箇月ニシナケレバナラヌ、一
年ト云フノヘ六箇月ニシテ貰ヒタイ、サウ
シテ臨時工ト云フモノヘ出來ルダケ是ハ少
クシテ、取締ツテ貰ハナケレバナラヌ、サウ
シナケレバ労働者ノ退職ノ際ノ取扱ト云フ
コトガ非常ニ氣ノ毒ナ事情ニアルカラト云
フヤウナ議論ガ、相當強カツタノデアリマス、
ソレカラ次ヘ第十條ニ於キマシテ、此ノ法
律ハ政府ノ事業ニハ之ヲ適用致シマセヌ、
云フコトニ致シテ居リマス、政府ノ事業ニ
適用ニ付テ勅令ヲ以テ別段ノ定メヲスルト
ソレカラ公共團體ノ事業ニ付テヘ、本法ノ
本法ヲ適用シナイトハドウ云フ譯カ、此ノ
點ニ付テモ隨分議論ガゴザイマシタ、政府
ノ事業ニ適用ヲ致シマセヌ理由ハ、此ノ法
律ハ御覽ノ通リニ、退職手當ノ積立ト云フ

コトガ此ノ法律ヲ要點デアリマス、殆ド大
部分ト申シテモ宜カラウト思ヒマスガ、退
職手當ノ積立ヲスルト云フコトガ要點デア
リマス、此ノ積立ヲシテ置キ、サウシテ將
來ノ支拂ヲ準備シテ置イテ、將來ノ支拂ニ
間違ナカラシメ、將來ノ支拂ヲ確保スル、
平素ヨリ準備ヲ致シテ置キマシテ、サウシ
テ退職ノ際ニ之ヲ出シテヤル、其ノ支拂ヲ
確實ニシテ置クト云フコトガ、此ノ法律ノ
本旨デアリマス、實際非常ナ大量ニ人ヲ解
雇スルヤウナ場合ニハ、豫メ準備ヲ致シテ
置キマセヌト、唯契約トシテハ退職手當ヲ
ヤルコトニナツテ居リマシテ、實際金ガ無
イト云フヤウナコトガアリ得ルノデアリマ
スカラ、平素ヨリ準備ヲシテ置キマシテ、
積立ヲ致シテ置キマシテ、サウシテ事有ツタ
時ニ之ヲ支拂フ、之ノ確實ヲ期スルト云フ
コトガ、本法ノ建前デアリマス、併シナガ
ラ是ハ民間ノ事業ニ付テハサウデアリマス
ルガ、政府ノ事業ニ付テ考ヘテ見マスルト
云フト、政府ノ大キナ力ヲ以テ、政府ノ信
用ヲ以テ、又政府ノ豫算ヲ以テスル場合ニ
於テハ、是ハ豫メ積立ヲスルト云フコトハ、
政府トシテハ必要ノナイコトデアリマス、
サウ云フ事情デアリマスノデ、政府トシテ
ハ何時デモ豫算デ以テ、必要ガアレバ取り

ト云フヤウナ必要ハアリマセヌノデ、此ノ法律ノ要點ニ付テ、政府ノ事業ニ付テハ適用ノ必要ヲ見ナイノデアリマス、ソレデアリマスノト、ソレカラ尙其ノ外ニ、此ノ官業ノ待遇ニ付キマシテハドウカト申シマス、官業ノ待遇ハ相當ニ宜シイノデアリマシテ、本法ノ施行ヲ致シマシタ場合ニ於キマシテモ、待遇ニ付キマシテハ、本法ノ以下ニナルヤウナコトハナイノデアリマス、併シ偶ニハ小サイモノデ本法ノ待遇ヨリモ悪イモノガアリマスノデ、之ニ付キマシテハ大藏省當局ト打合セラ致シマシテ、大藏省當局ニ於テ、本法ヨリモ待遇ノ惡イモノニ付キマシテハ、之ヲ改善シテ行クト云フコトニ話ガ定マッテ居ルノデアリマス、サウニ付テモ決シテ本法ノ以下ニナルト云フトハ、官業ニ於テハナイノデアリマス、ソトハ、官業ニ於テハナインデアリマス、ソレカラ尙官業ニ於キマシテハ、勅令ニ基キマシテソレバ、共濟組合等ノ規定ガアリマシテ、サウシテ勅令ニ依ル共濟組合ナドニ依ッテ、ソレバ立派ニ此ノ待遇ニ關スル方法ガ立ツテ居リマス、ソレデアリマスカラ、ソレニ本法ヲ又適用致シマスト云フト、色内部デ出來テ居ル制度ニ對シテ、混亂ヲ

來スヤウナコトモアリマスノデ、本法ヲ適用シナイト云フコトニ致シマシタ、即ち積立ノ必要ガ政府ノ事業ニ無イ、ソレカラ又政府ノ方ノ待遇ト云フモノハ相當ニ好クナッテ居ルノデ、強ヒテ本法ノ適用ヲ必要トシナイト云フ建前デアリマスカラ、政府ノ事業ニハ適用ヲ致サナイコトニ致シテ居リマス、ソレカラ次ニ第二項ノ公共團體ノコトニ付キマシテハ、本法ハ適用シマスガ、全部ノ適用ハ致シマセヌノデ、或程度ノ適用ヲ致シテ居ル、之ニ付キマシテハ矢張リ積立ト云フヤウナコトハ必要ハ無イト思ヒマス、唯併シ此ノ退職手當ノ支給規程等ニ付キマシテハ、矢張リ規定ヲ設ケシメテ、サシテ行政官廳ノ認可ヲ受ケサシテ取扱ツテ行クト云フコトヲ、勅令デ定メテ行カウト思ツテ居リマス、相當ナ監督ヲ致シテ行カウト思ツテ居リマスガ、民間ノ事業トハ自ラ異ル所ガアツテ宜シイト思ツテ居リマス、大體第十條ハサウ云フヤウナコトデアリマス、ソレカラ第二章ノ第十一條デゴザイマスガ、此ノ退職積立金、是ハ労働者ノ賃金ヲ事業主ノ方デ世話ラシテ、サウシテ労働者ノ名ニ於テ積立テ置クト云フノデアリマス、之ニ付テノ議論ハ、是ハ非常ニ労働者ニ對シテ負擔ガ重クハナイカ、ソレカラ又餘リ

強制的デハナイカト云フヤウナ御議論モアリマシタ、併シ此ノ制度ヲ採リマシタノヘ、勞働者ニ積立ヲ強制スルト云フヤウナ制度ヲ採リマシタノハ、十分道徳的ニ考へマシテ斯ウ云フ制度ヲ設ケマシタノデアリマシテ、事業主ガ労働者ノ爲ニ退職手當ノ積立ヲスル、サウシテソレハ強制的ニ付キマシテハ、事業主ガ労働者ノ爲ニ法律上ノ義務トシテ、労働者ノ爲ニ積立ヲスルト云フ位迄ニ、事業主ガ労働者ノ爲ニ法律ニ依ツテ義務ヲ負ウテ迄ヤルト云フ時ニ、労働者ト雖モ、自ラノ如何ニ貢献ト云フヤウナコトハ必要ハ無イト思ヒマス、唯併シ此ノ退職手當ノ支給規程等ニ付キマシテハ、矢張リ規定ヲ設ケシメテ、サシテ行政官廳ノ認可ヲ受ケサシテ取扱ツテ行クト云フコトヲ、勅令デ定メテ行カウト思ツテ居リマス、相當ナ監督ヲ致シテ行カウト思ツテ居リマスガ、民間ノ事業トハ自ラ異ル所ガアツテ宜シイト思ツテ居リマス、大體第十條ハサウ云フヤウナコトデアリマスガ、此ノ退職積立金、是ハ労働者ノ賃金ヲ事業主ノ方デ世話ラシテ、サウシテ労働者ノ名ニ於テ積立テ置クト云フノデアリマス、之ニ付テノ議論ハ、是ハ非常ニ労働者ニ對シテ負擔ガ重クハナイカ、ソレカラ又餘リ

場合ニハ、現在ハ健康保険ト云フ制度ガアリマシテ、矢張リ病氣中ハ其ノ療養モヤッテ貰ヘルシ、ソレノミナラズ、病氣中ニ付テ休業中ノ手當ヲ貰ヘルト云フコトニナッテ居ルノデアリマスカラ、矢張リ貯金ノ方テ居ルノコトヲヤッタ所デ、マニア付テハ、此ノ位ノコトヲヤッタ所デ、マニア付キマシテ、矢張リ規定ヲ設ケシメテ、サシテ行政官廳ノ認可ヲ受ケサシテ取扱ツテ行クト云フコトヲ、勅令デ定メテ行カウト思ツテ居リマス、相當ナ監督ヲ致シテ行カウト思ツテ居リマスガ、民間ノ事業トハ自ラ異ル所ガアツテ宜シイト思ツテ居リマス、大體第十條ハサウ云フヤウナコトデアリマスガ、此ノ退職積立金、是ハ労働者ノ賃金ヲ事業主ノ方デ世話ラシテ、サウシテ労働者ノ名ニ於テ積立テ置クト云フノデアリマス、之ニ付テノ議論ハ、是ハ非常ニ労働者ニ對シテ負擔ガ重クハナイカ、ソレカラ又餘リ

場合ニハ、現在ハ健康保険ト云フ制度ガアリマシテ、矢張リ病氣中ハ其ノ療養モヤッテ貰ヘルシ、ソレノミナラズ、病氣中ニ付テ休業中ノ手當ヲ貰ヘルト云フコトニナッテ居ルノコトヲヤッタ所デ、マニア付テハ、少クトモ百分ノ二ト云フ文字ガゴザイマス、此ノ「少クトモ」ト云フ文字ニ付テノ議論ガ非常ニ多カツタノデアリマシテ、少クトモ百分ノ二トアリマスノデ是ハ確定率ニナッテ居ラナイ、確定率ニナッテ居ラナイカラ、矢張リ論議ノ種ニナッテ争議ヲ惹起スヤウナ憂ガアル、ト云フコトヲ御心配ニナッタ御議論ガアツクノデアリマス、ソレデ今回此ノ點ハサウ云フ御心配カラ、衆議院トシテハ之ヲ修正ヲ致シマシタノデアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ、當局ト致シマシテ此ノ「少クトモ」ト云フ文字ヲ入レマシタノハ、百分ノ二ガ法律上ノ義務デアル、此ノ法律上ノ義務トシテハ百分ノ二デアルガ、百分ノ二以上ニ積立テマシタ場合ニ於テモ、ソレハ任意ノ積立デハアリマスガ、併シナガラ「少クトモ」ト云フ文字ガアレバ、百分ノ二以上ヲ積立テタノ以上ノ分モ、本法ニ依ル積立ニナルノデアリマス、即チ百分ノ二以上積立テル任意ノ積立デアリマシテモ、「少クトモ」ト云フ文字ガ

アリマスト云フト、ソレハ本法ニ依ル積立ニナルノデアリマス、ソコデ本法ニ依ル積立ニナルト云フコトハ、此ノ法律ニ於テハ意義ガ相當ニ持ツテ居リマス、ソレハ何處ニ意義ガアルカト申シマスト云フト、二十二條竝ニ二十三條ニ於テソレハ意義ヲ生ジテ來ルノデアリマス、本法ニ依ル積立ニナリマスト云フト、ソレハ一面ニ於テハ二十二條ニ依ツテハ詰リ免稅ノ取扱ヲ受ケルシ、二十三條ニ依ツテ差押禁止ト云フヤウナ取扱ヲ受ケルノデアリマス、ソコデ矢張リ本法ニ依ル積立ニシテ置イテ、免稅ニシタリ或ハ取扱トシテ差押禁止ヲシテ置クト云フコトニ、矢張リ意義ガアルノデアリマスカラ、ソコデ「少クトモ」ト云フ文字ヲ、當局ト致シマシテハ入レタノデアリマス、別ニ他ニ意思ガアル譯デハアリマセヌガ、斯ウ云フ意味デ入レタノデアリマス、入レタノデアリマスガ、是ガ色々問題ノ種ヲ起シタノハ、非常ニ遺憾ニ思ツテ居リマス、ソコデ此ノ問題トニ、當局ト致シマシテハ、免稅或ハ差押禁相關聯シマシテ、色々ナ議論ガアリマシテ、此ノ「少クトモ」ト云フ文字ハサウ云フ工合

云フ文字ガナケレバ駄目ナノデス、若シ此
テ誰カ茲ニ或事業主ガ百分ノ二半積立テタ
ト致シマシテモ、其ノ半ニ對シテハ、ドウ
シテモ本法ノ積立ニナラナイノデアリマス、
免稅トカ或ハ差押禁止ノ取扱ハ出來ナイト
云フコトニナルノデアリマス、百分ノ二ダ
ケハ出來ルガアトハ出來ナイト云フコトニ
ナリマスカラ、「少クトモ」ト云フ文字ヲ入
レマシテ、斯ウ云フ工合ニ同ジヤウニ取扱ッ
テ行キタイト云フ心持カラ致シタノデアリ
マスガ、矢張リ色々御心配ニナレバ、或ハ
是ガ不確定率ノ如クナリマシテ、サウンテ
労働争議ノ所以ニナル虞ガアルト云フヤウ
ナ御議論ガ非常ニ盛デアリマシテ、マアサ
ウ云フ御心配カラ修正セラレルコトニナツ
タノデアリマス、ソレカラ此ノ條文ニ相關
聯シテ一應申上ゲタイト思フノハ、第三十
條デアリマス、第三十條ト云フ條文
ハ、本法ノ上ニ十六條及十七條……十六條
十七條ト申シマスト、退職手當ノ根本規定
デアリマス、詰リ十六條ノ方ハドノ工場デ
モ一律一體ニ百分ノ二ヲ積マナケレバナラ
ヌ、ゾレカラ十七條ノ方ハ、原案ノ方デ申
シマスト云フト……原案デモ修正案デモ同

ジデアリマスガ、百分ノ三……利益ガアツテ
負擔能力ガアツタ場合ニハ、百分ノ三以内ヲ
積立テロト云フコトデアリマス、ソレデア
リマスカラ甲ト云フ工場ハ必ず百分ノ二ヲ
積立テナケレバナラヌ、ソレト同時ニ其ノ
甲ト云フ工場ガ若シ相當ナ利益ガアルナラ
バ、矢張リ百分ノ三以内ヲ積立テナケレバ
ナラヌト云フコトニナル譯デアリマスガ、
斯ウ云フ十六條十七條ニ代ツテ第三十條ト
云フ別ノ條文ガ置イテアルノデアリマス、
第三十條ヘドウ云フ條文カト申シマスト、
是ハ事業主ガ十六條十七條ニ依ラナイデ、
サウシテ自分ガ退職手當ノ規定ヲ持ヘテ、
サウシテ積立金モ自分ガ制度ヲ持ヘ是ダケ
積立テル、斯ウ云フ退職手當ノ規定ニ對シ
テ、是ダケ自分ノ所ハ積立テルト云フ規定
ヲ持ヘマシテ、サウシテソレヲ行政官廳
ノ許可ヲ受ケルノデアリマス、十六條十七
條ノ方トハ事情ガ違フノデアリマシテ、十
六條十七條ヘ豫メ率ガ決ツテ居ルノデアリ
マス、此ノ三十條ノ方ハ豫メ十六條十七條
ノヤウナ計算ニ依ル率ハナイノデアリマス、
ソコデ自分で手當ノ規定ヲ作り、之ニ對ス
ル積立金ノ規定ヲ作りマシテ行政官廳ノ許
可ヲ受ケテ、サウシテ唯其ノ際ニ於テ三十
條ニ於テハ必ズ……第三項ヲ御覽ヲ願フト

何デアリマスガ「事業主ハ第一項ノ規定ニ至リタルトキハ少クトモ」……是ガ又問題ノ所デアリマスガ「少クトモ勤續一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當ヲ支給スペシト云フコトニナッテ居リマス、此ノ三十條ニ於テハ、一ツノ義務トシテ、少クトモ勤續一年ニ付テ十二日分、其ノ他ノコトモアリマスガ、サウ云フヤウナコトデ支給ヲシナクチヤナラヌト云フ一ツノ義務ガアリマス、併シ此ノ三十條ノ規定ニ依リ自ラ規定ヲ作ッテ、サウシテ準備積立金ヲスルコトニシテ、サウシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケマスト、十六條十七條ノ規定ニ依ル積立金ヘセヌデモ宜シイ、三十條ノ第一項ガソレデアリマスガ「事業主退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得」ト云フ規定ニナッテ居リマスガ、三十條ハ、十六條十七條ニ代ッテ致シマスル規定デアリマシテ、此ノ三十條ニモ此ノ「少クトモ」ト云フ文字ガアルノハサウ云フ意味デアリマス、此ノ條文ノ中デアリマス、此ノ「少クトモ」ト云フ文字ガ

賃金十二日分ニ相當スル退職手當ヲ支給ス
ベシ」ト云フコトニナツテ居リマス、矢張リ此
ノ「少クトモ」ニ付テハ餘リ御議論ガサウ非
常ニ澤山デモナカツタノデアリマスガ、十六
條ホドノコトハナイノデアリマス、此ノ點
ニ付テハ關聯ガアルカラ御話ヲ申上ゲテ置
キタイト思ヒマス、此ノ少クトモ勤續一年
ニ付テ標準賃金ノ十二日分ト云フコトヲ書
キマシタ、此ノ「少クトモ」ノ法律的ノ意義
ハ、全ク十六條ト同ジデアリマス、併シ此
ノ場合ハ少シ事情ガ違ツテ居リマスト申シ
マスノハ、十六條ノ場合ニハ、御覽ヲ願フ
ト分リマスガ、十六條ノ場合ニハ少クトモ
百分ノ二ニ相當スル金額ヲ退職手當準備金
トシテ遲滞ナク積立ツベシト云フコトニ
ナツテ居リマシテ、此處ニハ行政官廳ノ許可
トカ認可トカ云フ問題ハ無イノデアリマ
ス、十六條ノ一項ニハ無イノデアリマス、
併シ三十條ノ方ヲ御覽ヲ願ヒタク、三十條
ノ方デハ自ラ事業主ガ退職積立金ノ規定ヲ
設ケテ、之ニ對シ行政官廳ノ許可ヲ受ケ
ル、其ノ時ノ内容ニ少クトモ十二日分ヲ支
給スルト云フヤウナコトガ定メラレテアリ
マシテ、即チ行政官廳ガ之ニ承認ヲ與ヘテ
居ルコトニナルノデアリマスガ、規定ニ依ツ

テスウ云フコトヲハツキリ定メラレタ、サウシテ是は行政官廳ガ承認ヲ與ヘテ居ルト云
フコトニナルノデアリマシテ、少シク其處
ノ事情ガ違ツテ居ルノデアリマス、併シ是ハ
労働争議等ノ憂ガアルト云フヤウナ建前力
ヲ申シマスト、行政官廳ガ豫メ承認シテ居
ルト云フコトハ重大ナコトデアル譯デア
ルト思ヒマフガ、從ヒマシテ此ノ外ニモ實
質上ノ理由ハアリマスガ、第十六條ノ方ハ
衆議院ニ於テ削ッタノデアリマス、コチラノ
方ハ是ハソレ程労働争議ノ虞ヘ無イト云フ
コトニ御認メニナッテ……又實質上ニモ必
要ガアリマス、此ノ實質上ノ必要ト云フコ
トハ別ニ改メテ、必要ガアレバ申上ゲマス
ガ、サウ云フ意味デ此ノ點ハ……三十條ノ
方ハ削ラナイデ、十六條ノ方ヲ削ッタノデア
リマス、サウ云フコトニナッテ居リマス、十
六條ノ方ニ戻リマシテ、十六條ノ「少クト
モ」ト云フ文字ヲ削リマシタノハ、斯ウ云
フ文字ガアルト矢張リ爭議ノ起ル虞ガアル
デアリマス、マアソレハサウ云フコトニナ
リマスト、任意ニ百分ノ二以上ヲ積立テル
カラト云フコトデ、衆議院トシテハ削ッタノ
フダケデアリマスカラ、是ハマア忍ビ得ナ
イコトハナイト思ヒマス、百分ノ二デモヤッ

テ行ケルモノト我々思ツテ居リマス、ソレカ
ラ次ハ最モ重要ナ條文デアリマス、此ノ十
七條デアリマス、十七條ニ付キマシテハ、
是ハ最モ議論ガ多カッタノデアリマスガ、此
ノ條文ハ、趣旨ハ兎モ角トシテ、ドウモ利潤
潤分配ノヤウニ解セラレル憂ガアル、ドウ
モ其ノ點ニ付テ、利潤分配ノヤウニ考ヘラ
レルモノガ法律ノ上ニ現レテ規定サレテハ
困ル、ト云フヤウナ御議論ガアッタノデアリ
マス、ソレカラ又斯ウ云フヤウナ規定ヲシ
テ置クト云フト、労働者ガ企業ニ參加スル
ト云フヤウナ形ニナリ易イ、詰リ經營ノ方
法ガ宜イトカ惡イトカ、或ハ物ノ買方
ガ安イトカ高イトカ云フコトニナリ、
ドウモ労働者ガ經營ノ内容ニ立入ル虞ガ
アル、サウ云フコトハ經營上非常ニ困難
ヲ來ス、ノミナラズ、又労働争議ガ起ル
虞ガアル、此ノ心配ガアル、是ハ非常ニ重
要ナコトデアリマスガ、サウ云フコトガ
非常ニ論議サレマシタ、ソレカラ又はハ手
續ガ煩瑣デアル、斯ウ云フコトモ論議サレ
マシタ、當局ト致シマシテハ、私共ノ考ハ、
此ノ十七條デ色々ナ細カイ規定ガ書イテア
リマスガ、是ハ矢張リ負擔ノ能力ヲ測定スル
標準ヲ定メタモノト解シテ居ルノデアリマ
ス、十六條ノ方ハ、一律一體ニ總テノ工場

ニ、同ジ割合ヲ以テ、同ジ率テ以テ積立ヲ
サセルノデアリマス、サウ云フコトニナリ
マスト、負擔ノ能力ノ有ル工場モ無イ工場
リマスカラ、負擔ノ能力ノアル所ノ事業ニ
對シテ、其ノ負擔ノ能力ニ應ゼシメタイト
云フノガ、此ノ條文ノ趣旨デアリマス、ソ
コデ負擔ノ能力ニ應ゼシムル標準トシテ、
一號及二號ノヤウナコトヲ認メルヨリ仕方
ガナイト云フノデ、斯ウ云フ工合ニ決メラ
レタノデアリマスガ、矢張リ之ヲ他面カラ
學問的ニ論議セラレテ、利潤分配ト云フコ
トニナル虞ガアルト云フヤウニ見ラレル、
利潤分配ト見ラレル虞ガアルト云フヤウナ
御議論ガアリ、ソレガ法律化スルコトハ妥
當デナイト云フヤウナ御議論ガアツタノデ
アリマス、ソレカラ又先程申上ゲマシタヤ
ガ論議サレマシタノデ、ソコデソレ等ノ御
趣旨カラ、衆議院ニ於テハ、矢張リ此ノ一
號ニ二號ヲ削リマシテ、サウシテ何トカシテ
労働爭議ノ起キナイヤウナ、労働爭議ノ發
スル虞ノナイヤウナ方法ヲ決メヨウウヂヤ
ナイカト云フ御意見ノヤウニ拜スルノデア
リマス、此ノ條文ニ付テハ非常ニ修正ガ加ヘ
ラレマシテ、今回ノ修正ニ付テハ、修正ノ

點竝ニ衆議院ノ決議ノ趣旨ハ、速記録ニ依ツテモ明カデアリマスガ、大體此ノ修正セラレマシタ十七條ハ、是ハ事業主ニ於テ相當ノ利益ガアツテ負擔ノ能力ガアル場合ニ於テノミアル……、負擔ノ能力ガアル場合ニ於テ積立金ヲ積立テシムル趣旨デアル、従ツテ相當ノ利益ノナイ場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ヲ受ケテ、積立ヲシナイデモ宜イト云フコトガ説明セラレテ居リマス、サウ云フ趣旨デ修正セラレタノデアリマス、ソレデアリマスカラ、十七條ノ取扱ト致シマシテハ、私共ノ伺ヅテ居ル所ハ、又將來心掛ケナケレバナラヌ所ハ、十七條ノ取扱ニ付テハ勞働争議ノ發スル虞ノナイヤウニ、是等ノ取扱規程ヲ定メテ行カナケレバナラヌ、ソレカラ又同時ニ能ク負擔能力ニ應ゼシムルヤウナ方法ヲ執ツテ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウナコトガ本法ノ修正セラレタ所以デアリ、本法ノ修正セラレタ事項ヲ執行スルソレガ根本ニナルモノデアルト思フノデアリマス、十七條ハ大體ソンナヤウナコトデスルコトデアリマスガ、運用ニ付テハ、運用サ上ダマス、是ハ退職手當ノ積立金運用ニ關

セナ一方ガ宜トイ云フ御議論モアリマシタ、併シ確實ナル方法ヲ定メテ置キマスレバ、ソレハ運用シテモ宜シイデハナイカト思フノデアリマス、併シ此ノ點ニ相關聯シマシテ、附帶決議ニ金庫ノ問題ガアリマスガ、金庫ヲ考ヘタラドウカト云フヤウナコトガ附帶決議ニアリマス、附帶決議ノ一ニ「本法ニ依ル積立金運用ニ付テハ特別ニ金庫ヲ設クル等」云々ト云フコトガアリマス、ソレデハ一應讀ミマス、附帶決議ノ第二ハ「本法ニ依ル積立金ノ運用ニ就テハ特別ノ金庫ヲ設クル等中小工業者及關係労働者ニ對シ金融其ノ他ノ利便ヲ計リ以テ其ノ福祉ヲ増進スベシ」、モウ一遍讀ミマス、「本法ニ依ル積立金ノ運用ニ就テハ特別ノ金庫ヲ設クル等中小工業者及關係労働者ニ對シ金融其ノ他ノ利便ヲ計リ以テ其ノ福祉ヲ増進スベシ」、實ハ非常ニ恐縮デゴザイマスガ、今サウ云フコトニナリマシタノハ、衆議院ニ於キマシテ、委員長ガ報告ノ際ニ附帶決議ヲ忘レタノデアリマス、其ノ爲ニ先ノ印刷ニハナイノダラウト思フノデゴザイマス、後デ委員長ガ追加報告ヲ致シマシタ、其ノ結果後カラクツニ申譯ナイト思ヒマス、サウ云フヤウナ運用金ノ問題ニ付キマシテハ、運用サセタラド

ウカ、矢張リサセルノハ危險ヂヤナイカト
云フ議論デ、今ノヤウニ金庫ヲ設ケテ置イ
タラ非常ニ都合ガ宜イノヂヤナイカ、積立金
ハ相當ナ大キナ金ニ段々ナリマスカラ、是
ハ矢張リ中央ニ金庫ヲ設ケマシテ、サウシ
テソレヲ旨ク利用スルコトハ考ヘラレナイ
問題デハナイノデアリマス、社會局ニ於テ
モ相當研究シタ問題デゴザイマスケレドモ、
マダ何シロ實施シタ後デナケレバ、金庫ヲ
設ケルニ致シマシテモ法律ヲ要シマスルシ、
又ナカヽ色々ナ點ヲ考ヘナケレバナリマ
セヌノデ、行政費モ考ヘナケレバナラヌシ、
色々ナコトガアリマスノデ、是ハモウ少シ
研究サセテ貴ヒタイト云フノガ、社會局ノ
考デアリマス、ソレデアリマスカラ、從ヒ
マシテ現在ニ於キマシテハ、相當ナ矢張リ
擔保ヲ以テ二十一條ニ依ツテ運用シテ行カ
ウト云フ、斯ウ云フヤウナ積リデゴザイマ
ス、ソレカラ第二十四條ヲ次ニ申上ゲマス、
是ハ退職手當ヲ貴フ場合ノ規定デアリマス、
労働者ガ退職手當ヲ貴フノハ、退職スル場
合、ソレカラ其ノ他ノ事由ト書イテアリマ
スガ、是ハ例ヘバ從來労働者デアッタ者ガ昇
進ヲシマシテ職員ニナックト云フヤウナコ
トモ起キマスルシ、ソレカラ從來労働者デ
アッタ者ガ別ノ仕事、例ヘバ小使ニナックト

云フヤウナコトニナルト、又違フダラウト
思ヒマス、何レニシマシテモ、身分ノ變更
ガアツタ場合、又從來適用ヲ受ケテ居ツタ工
場ガズツト小サクナッテ、適用ヲ受ケナクナッ
テシマツダ、サウ云フ場合ニハ、其ノ他ノ事
由ニ入ルノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ
ハ勞働者ニ退職手當ヲヤルノデアリマスガ、
其ノ場合ニ但書ノ規定ガ非常ニ問題ニナル
ノデアリマス、但書ハ、「命令ノ定ムル所ニ
依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ全部
又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得」斯ウ云フ
ノデアリマスガ、是ハ内務省令ヲ以テ定メ
ヤウト思ツテ居リマス、併シ其ノ内容ノ大體
ハ、矢張リ衆議院ノ委員會ニ於テモ提出致
シタノデアリマスガ、ソレハ例ヘバ勞働者
ガ背信行爲……不信行爲、不都合ナ行爲ヲ
シタト云フヤウナ場合ニ於テハ、不都合ナ
行爲ヲ致シマシテ職ヲ退クト云フヤウナ場
合ハ、無論ヤラヌデモ宜イノデアリマス、
ソレカラ又御手許ノ参考書ノ中ニ入ツテ居
リマス背信行爲ガアツタ場合ニハソレハヤ
ラヌデモ宜シイ、ソレカラ勤續年限ガ短イ
ヤウナ場合、三年未滿ト云フヤウナ場合ニ
ハ、相當減ジテモ宜シイ、全部ヤラナイト
云フ所マデ行ツテモ宜シイ、無論多少ハ貰ツ
テモ宜イノデアリマスガ、全部ヤラナイト

云フ所マデ行ツテモ宜シイ、退職手當ノ全部
又ハ一部ヲ支給セザル場合ガアルノデアリ
マス、之ニ付キマシテハ労働者側カラ申シ
マスト、是ハ矢張リ非常ニ重要ナコトデア
リマスルノデ、之ニ付テハ相當ニ斯ウ云フ
規定ハ酷過ギルト云フ議論ガアリマシタ、
モット澤山貰ハナクチヤ困ル、斯ウ云フ折角
積立ツテ置イタモノヲ貰ヘナクチヤ困ルト
云フ議論ガ相當ニ強カッタノデアリマス、ソ
レカラ尙第二十六條ヲ申上ゲマス、第二十
六條ハ特別手當ノ支給ニ關スル規定デアリ
マシテ、退職致シマス場合、普通ノ退職手
當ノ外ニ特別退職手當ガアル譯デアリマス
ガ、二十六條ガソレデアリマス、之ニ付キ
マシテハ矢張リ此ノ規定ハ一年未満ノ者デ
者ニハ少シモヤラヌト云フコトニナッテ
居リマス、之ニ對シテ一年未満ノ者デ
モ二十日分貰ヒタイ、一年以上ノ者ニ
付テハ一律ニ三十五日分ヲ貰ヒタイト
云フ意見ガ、矢張リ勞働者ノ側カラノ意見
トシテ相當強ク主張セラレマシタノデアリ
マス、併シ是ハ矢張リ勤續ト云フコトヲ考
慮ニ入レナケレバナラヌノデアリマスルシ、
ソレカラ先程來申上ゲタノハ、労働者ノ矢
張リ勤續ト云フコト、ソレカラ或ハ労働者
ノ不徳ノ行爲ガアッタ場合ニハヽ或程度減ズ

ルト云フコトハ已ムヲ得ナイコトト我々ハ思ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ次ハ第三十三條デアリマス、此ノ罰則ガ非常ニ重過ギルト云フ御議論ガ非常ニ盛デアッタノデアリマス、今回ハ之ヲ一年以下ノ禁錮ト云フコトニ修正セラレテ居リマス、之ニ付キマシテハ罰則ガ非常ニ重過ギルト云フコトデアリマシタガ、斯ウ云フコトニ當局ト致シマシテ提案ヲ致シマシタノハ、是退職手當ノ積立金ト申シマスルモノハ、是ハナカ／＼大キナ金ニナリマス、サウシテ是ハ事業主ノ名前デ積立ツテハ置キマスケレドモ、將來労働者ニヤルコトニナッテ居ルモノデアリマシテ、法律ノ方カラ申シマスト云フト、而モ免稅トカ或ハ差押禁止トカ云フヤウナ色々ナ法律的ノ取扱ヲシテ、サウシテ積立ツテ居ルモノデアリマシテ、實質上カラ申シマスト云フト、將來労働者ニ與ヘルコトニ約束ヲシテ積立テ居ルモノデアリマス、之ヲ労働者ノ側カラ申シマスト、自分ガ長年勤續シタ其ノ苦辛ニ對シテ、將來アレダケノ金ガ貴ヘルト云フ非常ナ樂シミノモノデアリマス、ソレニ間違ガアッテハナラヌノデアリマシテ、而モサウ云フコトハマア萬々ナイノデアリマスケレドモ、萬一サウ云フコトガアルト甚ダ困ルノデア

リマシテ、ソレデ色々是ハ研究ヲ致シマシタガ、矢張リ相當ナ體刑ヲ以テ臨ンデ居ラヌト云フト、罰金ダケデハ、大キナ積立金ノコトデアリマスカラ、罰金ダケノ制裁デハ之ヲ逆モ完全ニ保護スル確信ガ付カナイマデ、ドウシテモ體刑ヲ加ヘナケレバナラヌト云フノデ、體刑ヲ以テ定メタノデアリマス、當時ノ御議論ハ矢張リ大體是ハ三年位ガ宜カラウト云フコトデ、三年ト云フトデ色々ナ方面ノ研究ヲ致シマシタ、三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ト云フコトニ致シマシテ、選擇刑ニ致シマシテ、ドチラデモ取レルヤウニ致シテ置キマスガ、矢張リ體刑ヲモ加ヘテ置ク、情狀ニ依ツテハ已ムヲ得ヌト云フコトニ致シタノデアリマスガ、併シ今回ハ之ヲ尙修正ヲ致シマシテ、斯ウ出來ルダケ低クスルト云フコトニ修正ヲサレテ居ルノデアリマス、ソレカラ其ノ次ニハ第四十三條ニ付テハ、是ハ「本法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更セラルルコトナシ」、是ト申シマスノハ此ノ法律ヲ適用致シマスト同時ニ、從來ノ……在來カラ大キナ工場ハ御承知ノヤウニ、皆退職手當ノ規程ガアルノデアリマス、是ガ全部本法ヲ適用シタラ變更セラレルト

云フヤウナコトデハナイノデアリマシテ、
其ノ儘無論前ノモノハ存續スルノデアリマ
ス、併シ茲ニ色々ナ疑義ヲ生ジマシテ、サ
ウ云フコトニナルト將來變更ガ出來ナイノ
カ、在來カラアル所ノ退職手當規程ハ、本
法施行後ニ於テハ、變更ガ出來ナイカト云
フ御心配モアリマシタガ、ソレハサウ云フ
コトデハナイノデアリマシテ、無論契約デ
退職手當ガ定ツテ居ルナラバ、本法施行後ニ
於テモ、退職手當規程ヲ御變ヘニナルコト
ハ隨意デアリマス、併シソレハ民事上ノ關
係デアリマシテ、公法上ノ此ノ法律ニ依ル
義務ハ免ル、コトガ出來ナイノデ、是ハド
ウシテモヤツテ戴カナケレバナラヌコトデ
アル、併シ在來カラアルモノヲ手ラ著ケテ
ハナラヌト云フコトハナイト、能ク御説明
ヲ申上ゲマシタ、ソレカラ尙但書ノ「本法適
用後ノ勤務ニ對シ本法ニ依ル退職手當ヲ支
給スル場合ニ於テハ從前ノ規程ニ依リ
支給スペキ退職手當ハ其ノ差額ヲ支給
スルヲ以テ足ル」、是ハチヨット何デアリマス
ガ、是ハ在來ノ規程が相當ニ大キイ退職手
當ノ規程デアル、サウシテ本法ノ退職手當
ノ規定ヨリモ大キヤウナ場合ニハ、在來
ノ規程ニ依ツテ支給スルモノハ民事上ノ關

ニ依ツテ支給スルモノノハ一種ノ公法上ノ義務ヲ負ツテ支給スルモノデアリマス、ソコデ矢張リサウ云フコトデアツテハ事業主ハ二重負担ニナリマスカラ、唯差額ダケヲ支給スレバ宜イ、即チ本法ニ依ツテ支給スル金額ノ方ガ在來ノ規程ニ依ル手當ノ金額ヨリ大キカツタナラバ、其ノ差ダケ、本法ノ規定ニ依ル差額ダケヲヤツテ戴キタイト云フノガ、此ノ規定ノ趣意デアリマス、サウ云フコトニ付テ解釋上ノ御質問等ガアリマシタ、以上大體條文ニ付テノ主ナル事項ハ御話申上ゲマシタガ、其ノ外ニ一般的ノ問題ト致シマシテ、此ノ本法ノ制定ニ依リマシテ、是カラ労働者ノ賃金ガ安クナルヤウナ變ガナイダラウカ、ソコデ最低賃金法ヲ定メテ貰ヒタイ、サウシナケレバ斯ウ云フ手當ノ規定ヲ設ケルト同時ニ、労働者ノ賃金ヲ安クセヤウナコトカラ、最低賃金法ヲ決メロト云フ御話ガアリマシタガ、此ノ最低賃金法ト云フコトハ非常ニ重大ナコトデアリマシテ、是ハ十分ニ研究ヲ致サナケレバナラヌノデアリマス、今ドウトモ申上げ兼ネルト云フコトデ參ツテ居リマス、ソレカラ尙一つ重大

ナル問題へ、本法ト失業保険トノ關係ハド
ウデアルカ、斯ウ云フ御議論デアリマス、
本法ト失業保険トノ關係ニ付キマシテハ、
本法ハ決シテ失業保険ノ代リニヤルモノデ
モナインデアリマス、本法ヲヤレバ失業保
険ヲヤラナイト云フヤウナ意味デモナイン
デアリマス、何等ソコニ關係ハナイノデア
リマシテ、從ツテ失業保険ノコトハ別ニ研究
ヲ致サナケレバナラヌ、我ガ國ニ於ケル失
業保険ノ問題ト云フモノハ、非常ニ重大ナ
ル問題デアリマシテ、此ノ問題ハ本法トハ
全然別個ニ切離シテ、サウシテ慎重ニ考究
ヲ致サナケレバ、容易ニ何トモ申上ゲ兼ネ
ルヤウナ事情ニナッテ居リマス、サウ云フヤ
ウナコトデ通ツテ參ッテ居リマス、取急ギマ
シテ大體申上ダマス、尙御質問ニ應ジマシ
テ……

シタ積立金法案ノ要綱ト云フモノノ中ニハ、
考デゴザイマシタガ、從前御研究ニナリマ
シタ積立金法案ノ要綱ト云フモノノ中ニハ、
勞働者ノ災害其ノ他已ムヲ得ザル事由ノ場
合ニ於キマシテハ、其ノ拂戻ヲ受クルコト
ヲ得ルト云フヤウナ條項ヲ御考慮ニナッタ
モノモアルヤウニ拜見シテ居リマスノデス
ガ、今日健康保險トカノ外ノ相當勞働者
ノ負擔モアル所ノ、自分ガ額ニ汗シテ得タ
ル所ノ賃金ノ中カラ又百分ノ一ヲ茲ニ積立
テマシテ、サウシテ是ガ退職セザル間ハ自
分ガ其ノ購買力ヲ使用スルコトガ嚴禁サレ
ルノデアリマシテ、少シク勞働者ニ對シテ
ハ氣ノ毒デハナイカ知ラヌト思ヒマス、其
ノ拂戻ニ付キマシテ適當ナル監督ヲ爲シテ
ヤツタナラバ、全部ガ全部其ノ退職金ヲ拂戻
スコトハナイノデハナイカ知ラヌト思ヒマ
スシ、其ノ點ニ付キマシテ何等カノ考慮ヲ
拂ツテ戴クコトガ、勞働者ノ福祉ヲ御考ヘニ
ナリマス御當局トシマシテハ當然ノコトデ
ハナイカ知ラヌト考ヘルノデアリマス、元
來ガ勞働者ノ福祉増進ノ目的ノ社會立法ナ
ノデゴザイマスルカラ、其ノ點ニ關シマシテ
何等カノ方法ヲ御考ヘニナル餘地ハナイモ

イト思ヒマス、從テ只今申上ダマシタヤウ
賃金ノ購買力ヲ退職スルマデ封鎖スルノデ
アリマスガ、其ノ金額ガ労働者個々ニ當リ
マスレバ、大シタコトデハアリマセヌ
ガ、全體ヲ集計シマスト、相當ノ金額
ニ上ルト思ハレマス、是ハ矢張リ社會
ニ於ケル購買力ヲ失ハシメル作用ヲ持ツ
テ居リマシテ、退職シタ場合ニハ貴
フカラ、同ジデハナイカト云フ議論モアリ
マスガ、實際上ハ拂戻ヲ受ケル金額ハ、積
立テル金額ノ三分ノニモ充タナイグラウ
ト思ヒマス、チヨット計算シテ見マシテモ、
退職ノ爲ニ拂戻ヲ受ケル金額ヲ差引キマシ
テモ、積立金ダケニ於キマシテモ約一千萬
圓近クノ差額ガ起ルヤウニ思ハレマス、是
ハ矢張リ世ノ中ガ不景氣ヲ招來スル一ツノ
原因トナルモノデアリマシテ、現在ノ日本
ノ産業生産物ノ捌ケ口ガ海外ニ於キマシテ
漸次縮小サレントシツ、アル現狀ニ於キマ
シテ、内務當局又ハ大藏當局トシテモ、多
少ソコニ御考慮ガアルベキモノデナイン
キマシテノ御觀察ヲ伺ヒタイト思フノデア
リマス、ソレカラ官廳ノ事業ニ之ヲ適用セ
ヌト云フコトニ付テノ御説明ハ豫算ヲ取ッ

デヤルカラ、其ノ心配ハナトイフ御説明
デゴザイマシタガ、豫算ノ決定スルマデノ相
サウスルト矢張リ失業シマシテモ、或ハ解
雇サレマシテモ、豫算ノ決定スルマデノ相
當ノ時日ノ間、是ハ貴ヘナイデ、待ツテ居ラ
シナイカト思ヒマスガ、是モ購買力ヲ或程
度ノ間御預ケサセルヤウナ事態ヲ起サセハ
シナイカト存ジマスガ、其ノ點ニ付キマシ
テハ、ドウ云フ御考デゴザイマスカ、承リ
タイト思ヒマス、ソレカラ第十一條ノ「災
害其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ事業
主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘
ラズ積立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコ
トヲ得」ト云フ條項ヘドウ云フコトヲ基準
ト致シマシテ、行政官廳ヘ御裁量ニナルノ
デアリマスカ、我々ニハチヨット分リマセヌ
ノデゴザイマスガ、御説明ヲ願ヒタイト思ヒ
マス、第十二條ニ付キマシテハ先程申シマ
シタヤウニ、労働者ノ負擔ヲモウ少シ輕減
スルヤウニ既得權ヲ尊重シテ其ノ購買力ヲ
發揮シ得ル場合ヲ考慮シテ戴クヤウナ風
ナコトヲ考ヘテ戴クコトガ必要ヂヤナイカ
知ラヌト思ヒマス、可ナリ是ハ労働者ガ負
擔ガ重ク、労働者ニ取りマシテ自分ノ失業
保険ヲ自營スルコトニナルノデアリマシテ、

是ガ失業保険ノ政府ノ政策ヲスル爲ニ自分
ガ百分ノ二ノ稅ヲ負擔シテヤツテ居ルト云
フヤウナ形ニモナリマスノデアリマシテ、
労働者自體ノ負擔トシテハ、自分ノ収益ガ少
イダケニ可ナリナ重稅ヲ受ケタヤウナ感ジ
ヲ労働者ニ與ヘハシナイカ、又サウ云フ感
ジヲ受ケタ労働者ハ矢張リ社會黨トカ、勞
働黨トカニ依リマシテ賃金ノ値上ヲ要求ス
ルト云フヤウナコトニ依ツテ、爭議ノ原因ニ
モナリハシナイカト思ヒマスルガ、是ノ已
ムヲ得ザル事由ニ依ル所ノ拂戻ノ制度ガア
リマシタナラバ、其ノ弊害ヲ除クコトヲガ出
來ルノデヤナイカト思ヒマス、其ノ點ニ付
キマシテ御答辯ヲ戴キタイト思ヒマス、ソ
レカラ第二十四條労働者ノ背信行爲ガアツ
タ場合ト云フコトハ主ニドウ云フコトヲ指
シマスカ、是モ御説明ヲ願ヒタイト存ジマ
ス、只今ソレダケ伺ヒタイト思ヒマス

ハ薄給ノ身デアリマシテ、サウシテ疾病等
ガアリマスルト隨分困ルノデアリマシテ、
從ヒマシテソレニ對シマシテヘ斯ウ云フヤ
ウナ規定ヲ設ケヨウト云フ考モ相當ニ社會
局ニ於テモ研究ヲ致シマシクノデアリマス、
併シ事情ハ誠ニ同情ヲ致スペキデアリマス
ガ、併シ此ノ場合ヲ考ヘマスト云フト事業
主側ガ、兎ニ角事業主側ハ此ノ百分ノ二ト
云フモノハドウアッテモ義務トシテ積立テ
ルト云フ建前ニナツテ居リマスカラ、矢張リ
是ト相對應シテ労働者ニモ苦シキナガラモ
之ヲ積立テサセルト云フノガ矢張リ宜イノ
デハナイダラウカ、マア幸ヒニ疾病等ニ
關シテハ今ノヤウナ健康保險ト云フモノガ
アリマスシ、ドウニカ是ハ忍ンデ行カセナ
クテハナラヌ、又サウデモ致シマセヌト、
ナカ／＼勞働者ノ將來ニ對スル積立或ハ節
約ト云フコトヲヤラセル譯ニ參ラヌ、
若シヤ此ノ已ムヲ得ザル事由ト云フヤ
ウナコトヲ勞働者側ノ事由ニ使ハレマスト、
結局色々ナ面倒ラシテ貯メマシテモ、又是
ガ使ハレテシマフト云フヤウナコトニナリ
マスノデ、ナカ／＼貯金ガ出來ナイト云フ
コトニナリハセヌカ、ト云フヤウナコトカ
ラ色々研究ノ結果、最初ノ委員會ノ意見ニ
ハアツタノデアリマスケレドモ、法案トシテ

ハ思切ッテ斯ウ云フヤウナコトニ致シマシ
タノデアリマス、ソレハドウモ重々苦シイ
點ハアラウト思ヒマスケレドモ、是ハ忍バ
ナケレバナラヌ、事業主側デモ法律上ノ義
務トシテ百分ノーヲ必ズ積立テルト云フヤ
ウナコトニ致シテ居ルノデアリマスカラ、
ドウシテモ其ノ位ノコトハヤツテ貰ハナケ
レバナラヌト云フヤウナ工合ニ考ヘテ居ル
ノデコザイマス、ソレカラ尙御説ノヤウニ
此ノ労働者ノ積立金ト云フモノモ集マリマ
スト云フト相當大キナ額ニナリマス、今回
ノ修正ノ五十人以上ト云フコトニ依ツテ考
ヘマシテモ、退職積立金ノ労働者ノ積立テ
ル金ダケデモ九百六十八萬六千圓ト云フ私
共ノ計算ニナツテ居リマス、一年ニ五十人以
上ノ適用工場、鑛山ニ於テ積立テラレマス
所ノ労働者ノ退職積立金ノ年額ハ九百六十
八萬六千圓ト云フ數字ニナツテ居ルノデア
リマスガ、相當ナ大キナ金デアリマス、相
當ナ大キナ金デアリマスルカラ、是ハ矢
張リ一般ノ産業界ニ影響ガアルトハ思ヒマ
スケレドモ、又是モ別ノ方カラ御覽ヲ願ヒ
マスト云フト、此ノ金ハ或ハ郵便貯金トナ
リ、或ハ銀行預金トナリ致シマシテ、ソレ
ゾレ銀行預金トシ、或ハ郵便局ヲ通ジテ郵
便貯金トナリマシテ、サウシテ是ハ郵便貯

金トナリマスレバ預金部ノ金トナツテ使ハ
レマスシ、銀行預金トナリマスレバ銀行ノ
資金トナツテ使ハレマシテ、社會的ニハ相當
ニ矢張リ有用ニ使ハレテ居ルノデアリマス
カラ、之ガ爲ニ一般產業界ニ非常ナ打擊ヲ
與ヘルト云フヤウナコトハ、大體避ケ得ラ
レルモノデハナイカト云フヤウナ工合ニ考
ヘテ居リマス、ソレカラ尙官廳ノ關係ノ事
業ニ付キマシテハ、豫算トノ關係ニ付テ困
ルコトガアリハセヌカト云フ御質問デアリ
マシテ、誠ニ御尤モデアリマスガ、大體官
廳ノ仕事ハサウ大變動キハナイヤウニ心得
マス、ト申シマスノハ矢張リ實業界、一般民
間ノ仕事ノヤウナ工合ニ經濟的ノミニ効イ
テ居ル仕事デハナイモノガ多イ爲ニ、サウ
非常ナ變化ハナイヤウニ思ヒマスノデ、大
體豫算ヲ以テ豫メ豫定ヲ付ケテ、サウシテ
仕事ヲ經營シテ行クノガ實情デアリマスカ
ラ、非常ナ豫算ノ關係デ退職ヲシタ者ガ所
謂退職金ガ得ラレナイト云フヤウナコトハ、
大體ニ於テナイモノト思ヒマスガ、
豫算ノ關係デ、ナイモノダトハ思ヒマスガ、
此ノ點ハ心配セヌデモ宜カラウカト斯ウ思
テ居ルノデアリマス、尙後ヘ他ノ政府委員
ヨリ申上ゲマス

○男爵安場保健君

ソレカラ第十一條ノ其

ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ」ト云フ
ノハ……

○政府委員(赤松小寅君) 私カラ御答へ致

シマス、十一條ノ災害其ノ他已ムヲ得ザル
事由ト申シマスノハ、勞働者自身ニ取リマ
シテ災害ヲ蒙リマシタ時、又ハサウ云フ災

害ニ類シマスヤウナ客觀的事情ガ生ジマシ
タ場合ヲ指スノデアリマス、具體的例ヲ以テ

申上ゲテ見マスルナラバ、例ヘバ或勞働者が
火災ニ遭ヅテ、其ノ爲ニ非常ニ生活上ニ不時
ノ出費ヲ要スルト云フヤウナ場合、或ハ又其

ノ他已ムヲ得ザル事由ト申シマスルナラバ、
ソレニ類シマシテノモノヲ考ヘテ見マスレ
バ、最モ考ヘ得ラレマス事情ハ、例ヘバ事
業主ノ方ニ災害ガ起リマシテ、其ノ爲ニ事
業ガ休止サレル、一月ノ内相當ノ日敷休ン
ダ爲ニ、賃金收入ガ極端ニ減タト云フヤウ
ナ場合ガ考ヘラレルノデアリマス、ザウ云
犯罪デハナクトモ、殆ドソレニ近イヤウナ
極メテ惡質ナル行爲ノ爲ニ、工場經營ニ非
常ナ惡イ影響ヲ興ヘマスヤウナ行爲ハ、是
ハ背信行爲ト見テモ差支ナイト考ヘルノデ
アリマス、何分ニモ此ノ問題ハ事實具體的
ナ問題デアリマスノデ、今カラ總テノ場合
ヲ豫測致シ兼ネマスノデアリマスルガ、今
日工場ニ於テ普通稱セラレテ居リマス所ノ
言葉ハ餘リ妥當デナイカト考ヘマスルガ、
ダシイモノハ此ノ中ニ含マレルカト考ヘマ

先ヅ賃金收入ガ三分ノ一以下位ニ減リマシ
タ場合ニハ、茲ニ已ムヲ得ザル事由トシテ
取扱ツテモ宜シイノデハナイカト云フコト
ヲ考ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フヤウ
ナ場合ヲ申シマス、ソレカラ尙二十四條ノ
但書ノ命令中、將來規定致サムト考ヘテ居リ

マスル退職手當ヲ支給シナイデモ宜イ場合
ト致シマシテ、背信行爲ニ依リマシテ解雇
セラレマスヤウ場合ヲ申上ゲタノデアリマ
スガ、此ノ背信行爲トハドンナ事デアルカ
ト申シマスレバ、色々具體的ニハアルダラ
ウト考ヘマスルガ、例ヘバ工場ノ物品ヲ盜
ンデ、其ノ爲ニ事業主ニ損害ヲ掛ケタト云
フヤウナコトガアリマスルナラバ、サウ云
犯罪ニ類シマスヤウナ事柄、或ハ嚴格ニ
犯罪デハナクトモ、殆ドソレニ近イヤウナ
極メテ惡質ナル行爲ノ爲ニ、工場經營ニ非
常ナ惡イ影響ヲ興ヘマスヤウナ行爲ハ、是
ハ背信行爲ト見テモ差支ナイト考ヘルノデ
アリマス、何分ニモ此ノ問題ハ事實具體的
ナ問題デアリマスノデ、今カラ總テノ場合
ヲ豫測致シ兼ネマスノデアリマスルガ、今
日工場ニ於テ普通稱セラレテ居リマス所ノ
言葉ハ餘リ妥當デナイカト考ヘマスルガ、
ダシイモノハ此ノ中ニ含マレルカト考ヘマ

ス、但シ現在實際ニ言ハレテ居リマス所ノ
懲戒解雇ノ種類ト云フモノハ、極メテ廣イ
範圍ニ及シ居リマスノデ、將來ハソレ等ニ
付キマシテハ十分ニ考究致シテ行ク必要ガ
アルダラウト考ヘテ居ルノデアリマス

○子爵岡部長景君 私モ此ノ問題ハ大キイ
問題小サイ問題、勿論色々ト順序不同デア
リマスガ、條文ニ依ツテ大體伺ツテ見タイト
ラ五十人、此ノ大體三十人ナラバドノ位ノ
ラ五十人、此ノ大體三十人ナラバドノ位ノ
資本、少シムツカシイ問題デアリマスガ、
平均ドノ位ノ資本ノ事業デアリ、五十人ノ
勞働者ヲ使フニハ大體ドノ位ノ資本ノ事業
デアリマスカ、斯ウ云フヤウナ點ヲ先づ
點、伺フコトヲズット申上ゲマスカ、ソレカ
ラ第三條ノ「適用ヲ受ケザルモノノ事業主
退職手當積立金」ト云フ規定ガアリマスガ、
是ハ政府トシテハ色々ノ方法ニ依ツテソレヲ
獎勵サレル御考デアリマスカ、唯モウ事業
主ノ任意ニ委カセルト云フ御考デアリマセ
ウカ、ソレカラ第六條ト第八條ノ意味ヲ一
用方法ニ付テ「勞働者ノ同意ヲ得タルトキ」
トアリマスガ、是ハ概括的ニ勞働者ノ何カ
代表機關トデモ相談サレルノデアリマセウ
カ、或ハ個々ニ同意ヲ得ルコトヘ到底出來

ルコトデナカラウカト思ヒマス、ドウ云フ
方法デ同意ヲ得ラレルノデアルカ、ソレカ
子ヲ附シタモノヲ支拂フト云フノデアリマ
スガ、其ノ利子ト云フモノハ十三條ナドニ
アルヤウニ利子ノ定率ヲ定メトアリマス
ガ、運用ニ依ツタ利益ヲ全部分配スルト云
フ譯デハナイノデアリマスカ、實際得タ利
益ノ平均額ヲ附シテ支拂ハウト云フ意味デ
ナイノデアリマスカ、ソコガ分ラナイノデ
アリマス、ソレカラ是ハ少シ根本ノ大キナ
問題デアリマスガ、十七條ノ衆議院ノ論議
ノ點ニ付テ政府ハドウ考ヘテ居ラレルノデ
アリマスカ、利潤分配ト解セラレル虞ガア
ル、原案ハ……ソレカラ尙勞働者ヲシテ企
業ニ干與セシメル虞ガアルト云フ懸念ヲ衆
議院デ持ツテ居ラレル方モアルト云フコト
デアリマス、是モ或ハ此ノ問題ニ付テ非常
ニ問題ノ解決ヲ紛糾サセル虞ガナイトハ言
ヘマセヌケレドモ、政府トシテ兎ニ角ドウ
云フ考ヲ持ツテ居ラレルノデアルカ、只今ノ
如ク勞働問題、十三條ノ問題ニ付テ、出來
レバ商工省ニ於テモドウ云フ考ヲ持ツテ居
ラレルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ、
ソレカラ第二十一條ノ先程御話ノ金庫ヲ設
ケルト云フ案、附帶決議ガアリマスガ、是

ハ労働者ノ利益ノ爲ニ考ヘラレタノデアリ
マスカ、事業主ノ利益ノ爲ニ考ヘラレタノ
ラ十四條、詰リ此ノ退職積立金ニ對スル利
子ヲ附シタモノヲ支拂フト云フノデアリマ
スガ、其ノ利子ト云フモノハ十三條ナドニ
アルヤウニ利子ノ定率ヲ定メトアリマス
ガ、運用ニ依ツタ利益ヲ全部分配スルト云
フ譯デハナイノデアリマスカ、實際得タ利
益ノ平均額ヲ附シテ支拂ハウト云フ意味デ
ナイノデアリマスカ、ソコガ分ラナイノデ
アリマス、ソレカラ是ハ少シ根本ノ大キナ
問題デアリマスガ、十七條ノ衆議院ノ論議
ノ點ニ付テ政府ハドウ考ヘテ居ラレルノデ
アリマスカ、利潤分配ト解セラレル虞ガア
ル、原案ハ……ソレカラ尙勞働者ヲシテ企
業ニ干與セシメル虞ガアルト云フ懸念ヲ衆
議院デ持ツテ居ラレル方モアルト云フコト
デアリマス、是モ或ハ此ノ問題ニ付テ非常
ニ問題ノ解決ヲ紛糾サセル虞ガナイトハ言
ヘマセヌケレドモ、政府トシテ兎ニ角ドウ
云フ考ヲ持ツテ居ラレルノデアルカ、只今ノ
如ク勞働問題、十三條ノ問題ニ付テ、出來
レバ商工省ニ於テモドウ云フ考ヲ持ツテ居
ラレルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ、
ソレカラ第二十一條ノ先程御話ノ金庫ヲ設
ケルト云フ案、附帶決議ガアリマスガ、是

○政府委員(廣瀬久忠君) 第一條ノ三十人
位ノ工場ハ一體ドノ位ノ資本デアルカト云
フコト、ソレカラ五十人ノ工場ハドノ位ノ
資本ニナルダラウカト云フヤウニ拜承致シ
マシタガ、ソレニ付キマシテニツバカリ統
計ガゴザイマス、頁數ヲ申上ゲマスト白イ
本デ、九十六頁ヲ御覽フ願ヒタイト思ヒマ
ス、九十六頁ニ「大都市ニ於ケル賃銀及利
益ニ關スル規模別調」、「一、東京市ニ於ケ
ル賃銀及利益ニ關スル規模別調」コヽデ此
ノ表ノ終リカラ三番目ニ五萬圓以上十
萬圓未滿ノ事業ト云フ所ガアリマスガ、
ソコニ一工場當リノ從業員、上カラ三行
目、一工場當リ從業員ト云フ所ヲ御覽
スガ、是ハ出來ル限リ實情ガ許スナラバ獎
勵ヲシテモ、段々進メテ行キタイト思ッテ居
リマス、サウシテ段々退職手當ノ制度ヲ擴
大シマスノハ一定ノ率ニ依ツテ積立テルノ
文字ガアリマスガ、此ノ十六條竝十七條等
ニ依リマシテ一定ノ率ニ依ツテ積立ッテ行ク
積立金デアリマス、ソレカラ準備積立金ト
申シマスノハ一定ノ率ニ依ツテ積立テルノ
トシテ積立テルト云フヤウナ意味ヲ以テ、
例ヘバ三十條ノ場合ニハ、勞働者ニ十二日
分ニ相當スル金額ヲ支拂ヒ得ルヤウニ準備
立テルノデハナイ、ソレカラ標準賃金

ハ入ル積リデ居リマス、ソレカラ標準賃金
別調」ヲ御覽ニナリマスト、五萬圓以上十萬
圓未滿ノ一工場當リノ從來人員ノ數ハ二十
人、十萬圓以上五十萬圓未滿ノ所デハ六
人ト云フコトニナツテ居リマス、是等ノ
ト云フ工場ハマア五萬圓以上十萬圓以内ノ
範圍内ニ入リマスルノデ、先ヅ六、七、八
位ノ工場ハ一體ドノ位ノ資本デアルカト云
フコト、ソレカラ五十人ノ工場ハドノ位ノ
資本ニナルダラウカト云フヤウニ拜承致シ
マシタガ、ソレニ付キマシテニツバカリ統
計ガゴザイマス、頁數ヲ申上ゲマスト白イ
本デ、九十六頁ヲ御覽フ願ヒタイト思ヒマ
ス、ソレカラ五十人ノ方ニナリマスト
十萬圓位ノ所ト見テモ宜イカト思ヒマス、
是ハハッキリシタ數デハアリマセヌガ、大
體之ニ依ツテ推定致シマスルト先ヅソンナ
所デハナイカト思ヒマス、ソレカラ尙第三
條ニ付キマシテ、第三條ニ於テ本法ノ適用
ヲ受ケナイヤウナ小サイ事業デモ事業主ガ
進シダヤウト云フ場合ニハ、本法ノ適用
ノ表ノ終リカラ三番目ニ五萬圓以上十
萬圓未滿ノ事業ト云フ所ガアリマスガ、
ソコニ一工場當リノ從業員、上カラ三行
目、一工場當リ從業員ト云フ所ヲ御覽
スガ、是ハ出來ル限リ實情ガ許スナラバ獎
勵ヲシテモ、段々進メテ行キタイト思ッテ居
リマス、サウシテ段々退職手當ノ制度ヲ擴
大シマスノハ一定ノ率ニ依ツテ積立テルノ
文字ガアリマスガ、此ノ十六條竝十七條等
ニ依リマシテ一定ノ率ニ依ツテ積立ッテ行ク
積立金デアリマス、ソレカラ準備積立金ト
申シマスノハ一定ノ率ニ依ツテ積立テルノ
トシテ積立テルト云フヤウナ意味ヲ以テ、
例ヘバ三十條ノ場合ニハ、勞働者ニ十二日
分ニ相當スル金額ヲ支拂ヒ得ルヤウニ準備
立テルノデハナイ、ソレカラ四十二條ニモ

矢張リ本法施行前ノ勤務ニ對シテ、本法施行後ニ於テ將來ノ支拂準備トシテ積立テルト云フヤウナ意味デ準備積立金ト云フノガアリマス、サウ云フヤウナ準備積立金及退職手當積立金ト云フモノハ、毎年ドノ程度マデ積立テレバ、ドノ程度迄ノ毎年ノ積立ヲ法律上本法ハ認メルカ、本法ノ保護ト申シマスカ、本法ニ於テ取扱ヲシテ認メルカト云フコトヲ定メタノデアリマス、即チ其ノ金額ハ百分ノ七迄ヲ認メヨウ、實ハ此ノ百分ノ七マデ積立テテ認メテ行カウ、是ハ面倒ナ事デアリマスガ、斯ウ云フ意味デアリマス、積立金ト申シマスノハ、一面ニ於テハ二十二條デ免稅ヲシテ、尙其ノ他ニ三條デ差押ヲ禁止ヲシテ特別ニ取扱ヲシテ居ル、サウ云フヤウナ關係カラ申シマシテ、此ノ積立金ハ法律上、矢張リ相當ニ取扱ヲ別ニ致シテ居ル譯デアリマス、ト申シマシテハ、矢張リ此ノ事業主ガ積立テル際ニ税金ヲ取ルヤウナコトデハ積立ガ出來ナイ、折角積立テ置キマシテモ、若シ債權者ガ横カラ來テ取ラレテシマフト云フヤウナコトデハ、勞働者ノ爲ニ、又事業主ノ爲ニ困ドウシテモ是へ保護シナケレバナラヌ、ソコデ是ハ矢張リ保護スルトスレバ、ドノ程度

迄ノモノヲ確實ニ保護シテ行クカト云フコトガ問題ニナルノデアリマシテ、事業主ガ勝手ニ積立テルモノヲ全部保護スルト云フコトハ出來ナイ、是ハ大藏省ノ方ノ關係カラ申シマスレバ、ソレダケ稅金ガ一時タリトモ減ルノデアルカラ、大藏省ノ方カラ言ヘバ、積立金 積立金ト言ッテ稅ヲ免レルト云フヤウナコトデハ困ルノデアリマス、ソレカラ又差押禁止ノ問題カラ申シマスト、此ノ金額ヲ非常ニ大キクスルト云フコトハ此ノ金額ハ非常ニ大キクスルト云フコトハ取引ノ不安ヲ來スノデアリマス、事業主ガヒタイト思ヒマスガ、第四十二條ニ於キガ分ルノデアリマス、第四十二條ヲ御覽願ヒタノハ、四十二條ヲ御覽ヲ願フト此ノ問題面倒ナ事デアリマスガ、斯ウ云フ意味デアリマス、積立金ト申シマスノハ、一面ニ於テハ二十二條デ免稅ヲシテ、尙其ノ他ニ二十條デ差押ヲ禁止ヲシテ特別ニ取扱ヲシテ居ル、サウ云フヤウナ關係カラ申シマシテ、此ノ積立金ハ法律上、矢張リ相當ニ取扱ヲ別ニ致シテ居ル譯デアリマス、ト申シマシテハ、矢張リ此ノ事業主ガ積立テル際ニ税金ヲ取ルヤウナコトデハ積立ガ出來ナイ、折角積立テ置キマシテモ、若シ債權者ガ横カラ來テ取ラレテシマフト云フヤウナコトデハ、勞働者ノ爲ニ、又事業主ノ爲ニ困ドウシテモ是へ保護シナケレバナラヌ、ソコデ是ハ矢張リ保護スルトスレバ、ドノ程度

ルノニ拘ラズ、百分ノ七ニナツカト云フコトガ問題ノ種ニナツテ居ルガ、是ハ斯ウ云フコトハ出來ナイ、是ハ大藏省ノ方ノ關係カラ申シマスレバ、ソレダケ稅金ガ一時タリトモ減ルノデアルカラ、大藏省ノ方カラ言ヘバ、積立金 積立金ト言ッテ稅ヲ免レルト云フヤウナコトデハ困ルノデアリマス、ソレカラ又差押禁止ノ問題カラ申シマスト、此ノ金額ヲ非常ニ大キクスルト云フコトハ此ノ金額ハ非常ニ大キクスルト云フコトハ取引ノ不安ヲ來スノデアリマス、事業主ガヒタイト思ヒマスガ、第四十二條ニ於キガ分ルノデアリマス、第四十二條ヲ御覽願ヒタノハ、四十二條ヲ御覽ヲ願フト此ノ問題面倒ナ事デアリマスガ、斯ウ云フ意味デアリマス、積立金ト申シマスノハ、一面ニ於テハ二十二條デ免稅ヲシテ、尙其ノ他ニ二十條デ差押ヲ禁止ヲシテ特別ニ取扱ヲシテ居ル、サウ云フヤウナ關係カラ申シマシテ、此ノ積立金ハ法律上、矢張リ相當ニ取扱ヲ別ニ致シテ居ル譯デアリマス、ト申シマシテハ、矢張リ此ノ事業主ガ積立テル際ニ税金ヲ取ルヤウナコトデハ積立ガ出來ナイ、折角積立テ置キマシテモ、若シ債權者ガ横カラ來テ取ラレテシマフト云フヤウナコトデハ、勞働者ノ爲ニ、又事業主ノ爲ニ困ドウシテモ是へ保護シナケレバナラヌ、ソコデ是ハ矢張リ保護スルトスレバ、ドノ程度

ルノニ拘ラズ、百分ノ七ニナツカト云フコトガ問題ノ種ニナツテ居ルガ、是ハ斯ウ云フコトハ出來ナイ、是ハ大藏省ノ方ノ關係カラ申シマスレバ、ソレダケ稅金ガ一時タリトモ減ルノデアルカラ、大藏省ノ方カラ言ヘバ、積立金 積立金ト言ッテ稅ヲ免レルト云フヤウナコトデハ困ルノデアリマス、ソレカラ又差押禁止ノ問題カラ申シマスト、此ノ金額ヲ非常ニ大キクスルト云フコトハ此ノ金額ハ非常ニ大キクスルト云フコトハ取引ノ不安ヲ來スノデアリマス、事業主ガヒタイト思ヒマスガ、第四十二條ニ於キガ分ルノデアリマス、第四十二條ヲ御覽願ヒタノハ、四十二條ヲ御覽ヲ願フト此ノ問題面倒ナ事デアリマスガ、斯ウ云フ意味デアリマス、積立金ト申シマスノハ、一面ニ於テハ二十二條デ免稅ヲシテ、尙其ノ他ニ二十條デ差押ヲ禁止ヲシテ特別ニ取扱ヲシテ居ル、サウ云フヤウナ關係カラ申シマシテ、此ノ積立金ハ法律上、矢張リ相當ニ取扱ヲ別ニ致シテ居ル譯デアリマス、ト申シマシテハ、矢張リ此ノ事業主ガ積立テル際ニ税金ヲ取ルヤウナコトデハ積立ガ出來ナイ、折角積立テ置キマシテモ、若シ債權者ガ横カラ來テ取ラレテシマフト云フヤウナコトデハ、勞働者ノ爲ニ、又事業主ノ爲ニ困ドウシテモ是へ保護シナケレバナラヌ、ソコデ是ハ矢張リ保護スルトスレバ、ドノ程度

利子ノ定率ガ定メラレルノデアリマシテ、
ソレハ退職積立金トシテ其ノ利子ヲ矢張リ
十四條デ退職積立金トシテ支拂フト云フコ
トニナルノデアリマス、ソレカラ十七條デ
アリマス、是ハ非常ニ重大ナ問題デアリマ
シテ、此ノ問題ニ付キマシテハ先程申上ゲ
マシタヤウナ……モウ一度改メテ申上ゲタ
イト思ヒマス、十七條ニ付キマシテハ修正
セラレタ理由ヲ申上ゲマシタガ、十七條ハ
原案ノ趣旨ト致シマシテハ、斯ウ云フヤウニ
規定ヲ致シマスコトハ十六條ノ關係、十六
條ダケデハドウシテモ畫一ノ弊ニ陥リマシ
テ、サウシテ負擔能力ニ能ク應ズルコトガ
出來ナイ、負擔ノ能力ニ能ク應ゼシムル爲
アリマス、ソコデ十七條トシテ負擔ノ能力
ニ應ゼシムル手段ト致シマシテ斯ウ云フ一
號、二號ト云フヤウナ負擔ノ能力ニ應ゼシ
ムル標準トシテ斯ウ云フヤウナ方法ヲ執ツ
タノデアリマス、サウシテスウ云フヤウナ方
法ヲ執リマシテモ、私共ノ考ハ此ノ十七條ノ
勅令ニ於キマシテ、事業主ニ於テ此ノ十七條
ノ規定ニ依ッテ積立ヲシタ其ノ積立ガ非常ニ
誤ヅテ居タカドウカト云フコトニ付テ、事業
主ノ積立ニ對スル監督ハ行政官廳ニ於テ施行
スルコトニ致シマシテ、行政官廳ガ最後ノ認

居ッタノデアリマス、サウ致シマスレバ假ニ何カソコニ問題ガアリマシテモ行政官廳ガ其ノ積立ヲ是ナリトスル、或ハ若シ非常ニ間違ツテ居レバソレヲ改メサセルコトモ勅令ノ上ニ書ク豫定デ居ッタノデアリマスガ、行政官廳ガ最後ノ認定ヲスルト云フ方法ヲ執レバ、サウスレバ問題ハ總テ行政官廳ニテ背負ツテヤルコトニナリマスノデ爭議等ハ我々ヘナイ、大體ニ於テナイモノダ、斯ウ心得テ提案致シタノデアリマス、即チスウ云フヤウナ標準ニ依ツテ事業主ハ豫メ計算ヲ致シマシテ、サウシテ其ノ報告ノ妥當ナリヤト連絡ヲ取リナガラ其ノ報告ノ妥當ナリヤ否ヤヲ見テ、非常ニ間違ガアッタラ之ヲ改メサセ、間違ガナケレバ其ノ儘之ヲ承認スルト云フ方法ヲ執ルナラバ問題ガアリマシテモ、行政官廳ガ労働者ニ對シテ色々ナリマス、考へカラ、此ノ提案ヲ致シタノデアリマス、ケレドモ此ノ點ニ付キマシテハ衆議院ニ於テ色々御議論ガアリ、是ハ私共ハ負擔ノ能力ヲ測定スル標準デアルト云フ主張デアリマスガ、之ニ對シテハ矢張リ利潤分配ノ一ツデアルト云フ御議論カラ、斯ウ云フコトヲ

シテ置クト、企業ニ労働者ガ喙ヲ容レル憂
ガアルト云フ御心配ガ相當ニ多カッタノデ
其ノ結果、今回斯ウ云フヤウニ修正セラレ
タ譯デアリマス、ソレデ修正セラレタ其ノ
趣旨トシテハ、矢張リ勞働爭議ヲ發生セシ
ムル虞ノナイ方法ヲ執ッテ貰ヒタイト云フ
コトガ、非常ニ重要ナ點デアルト思ヒマス、
私共モ亦サウ云フ虞ノナイ方法ヲ出來ルダ
ケ將來執ツテ行キタイト思ッテ居リマス、ソ
レカラ又同時ニ修正者ガ説明セラレテ居ル
ヤウニ相當ノ利益ガアッテ、相當ノ負擔能力
ノアル場合ニ於テノミ積立ヲサセルンダ、
其ノ點ニ付テモ私共モ修正ノ意見ト全ク同
ジデアリマシテ、相當ナ利益ガアッテ負擔能
力ノアル場合ニ於テノミ矢張リ十七條ノ積
立ヲサセテ行クベキデアルト思ヒマス、ソ
コデ尙研究スペキ問題ガアルト思ヒマスガ、
ソレ等ノ點ニ付キマシテハ其ノ大キイ根本
方針トシテ争議ノ虞ノナイ方法ヲ執ッテ行
クト云フコトト、ソレカラ相當ナ利益ガアッ
タ場合ニ於テノミソレニ對シテ積立ヲサセ
ルト云フ、此ノ二ツノ大キイ目安ヲ定メマ
シテ、其ノ目安ニ向シテ色々研究ヲ致シマシ
テ、其ノ目安ニ合フヤウナ方法ヲ執ッテ行ク
ナラバ修正案デモ立法ガ出來ルト思フノバデ

附イテ居リマシテ、矢張リ調査委員會ヲ設ケテ、權威アル調査機關ヲ設ケテ、サウシテ其ノ調査機關ニ意見ヲ聽キマシテ、色々詳細ナ事項ニ付テ十分御審議ヲ願ツテ、ソコデ初メテ決定ヲ致シタイ、サウ致シマスレバ此ノ労働爭議ノ發生ノ虞ノナイヤウニ、ソレカラ同時ニ負擔能力ニモ能ク應ジ得ルヤウナ案ガ出來得ルモノト私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、サウ云フコトニ進ンデ行キタイト思ツテ居リマス、ソレカラ次ニ第二十一條ノ金庫ニ關スル問題デゴザイマシタガ、金庫ニ付キマシテハ此ノ附帶決議ニ附イテ居リマスル金庫ノ意味ハ、矢張リ中小工業者竝ニ關係労働者ニ對シト云フコトガ書イテアリマスガ、金融ノ利便ヲ計リ福祉ノ増進ヲ計ルト云フドウモ一般的ト云フヨリモ此ノ種ノ金庫ガ出來マスレバ、其ノ金ハ矢張リ中小工業者竝ニ關係労働者ノ福祉増進ノ爲ニ使フノガ目的デナケレバナラヌカト思ツテ居リマス、大體御説明ヲ申上ゲマシテ尙御質問ガアリマスレバ……

○阿部房次郎君 私ハ先程段々御説明ノアリマシタ第十條ノ本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セズ、此ノ事ヲモウ少シク伺ッテ見タインデアリマス、先程御説明ニ依リマスト、本法ニ依レテ積立ヲスルノハ支拂ノ確保、詰リソレガ確カニ支拂ハレルト云フコトガ、大體ノ趣意デアルト云フ御説デアリマス、ソレデアリマスレバ、政府ノ事業ニ對シマシテハ無論其ノ支拂ノ確保ト云フコトニ付テハ、本法ヲ適用スル必要ハナイト思ヒマスガ、其ノ他ニ政府ニ於テヤッテ居ル只今ノ此ノ共濟組合或ハ其他ハ、現在民間デヤツテ居ルヨリハ以上ニ相當ニソレハ行ハレテ居ルカラ、政府ノ方デハ今ノ所差當ツテソレヲ施行スル必要ガナイト云フヤウナ風ノ御説明デゴザイマス、是ハ政府ノ方ノ只今施行サレテ居リマス所ノ共濟組合其ノ他詳シイ参考書類ヲ頂戴致シマシタケレドモ、能ク詳シク讀ム暇ガゴザイマセヌカラ、或ハ私ノ誤カモ知レマセヌガ、政府ニ於テモ、現在施行サレテ居リマスコトガ、必ズシモ民間ヨリハ宜イト云フコトバカリデヤナイト思フノデアリマス、現ニ鐵道員ノ如キ政府ノ施行サレテ居リマス細則ノ内ニハ宜シイノデアリマスガ、共濟組合ガ出來マシテ、

其ノ事モ私ハ詳シク承知致シマセヌケレド
組合ノ方デハ政府ノ方カラ五ヲ出シニナッ
テ居ル、ソレカラ労働者ノ方カラ七ナンボ
ト云フ數字ガ出テ、サウシテ共濟組合ガ出
來タヤウニ承知致シテ居リマス、是ハ健康
保険モ其ノ間ニ含マレテ居リマス、又其ノ
他色々障碍、色々ナ事ニ付テノ事モ含マレテ
居リマス、此ノ法律ヲ施行致シマスト、民間デ
ハ労働者ノ方デニヲ積立テ、其ノ他利益ノアッ
タ場合ニハ百分ノ三ヲ積立テル斯ウ云フコ
トニナリマス、最高百分ノ五マデ行カナケレ
バイカヌ、サウシテ民間ハ其ノ上ニ健康保険
ニ依ツテ百分ノ一ト云フモノガ課セラレテ
居ルノデアリマス、百分ノ七マデ民間デヘ、
或程度ニ行カナケレバナラスト云フヤウナ
結果ガ生ズルノデアリマス、サウシマスト、
ソコララ見マスト、必ズシモ今日官業ノヤッ
テオ出デニナルノガ必ズシモ民間ヨリハ良
イ、斯ウ云フ事ハ餘り言ヘナイカト思フノ
デアリマス、此ノ官業ニ於キマシテモ只今
ノ鐵道組合ヨリマダ待遇ノ悪イノガ澤山ニ
アリマスヤウニ承知致シテ居リマス、ソレ
カラ又此ノ頂戴シタ表デ伺ヒマスト、此ノ
官業ニ多イノデアリマス、其ノ率ハ民業
臨時トアリマス日傭或ハ臨時工ト云フモノ

ヨリハ官業ノ方ガ遙カニ多イノデアリマス、是等ニ對シテモ先程カラ段々色々議論ガアルヤウニ伺ツテ居リマスガ、サウ致シマスト云フト、先ヅ官業ノ方カラサウ云フ事モ改メテ行カナケレバナラヌノデアリマスト云フヤウナ氣持ガ致シマスノデアリマス、私共、ガ見マスト民業ノ方ニ於テモ或ハ御調べニナツテ居リマスカラ分リマセウト思ヒマスガ、私ハ承知致シマセヌケレドモ、此ノ規則ノ施行前ニ退職手當ノ規則ヲ施行シテ居リマス會社ガ、其ノ規則ニ依ツテ労働者ガ或ハ解雇サレタ時ニ支拂ハレタ云フヤウナ所ガ最近ニ於キマシテハ餘り餘計ハナイカト思ヒマス、其ノ數字ハ私ハ承知致シマセヌ、又大會社ニ於キマスレバ、此ノ支拂能カ力ハ官業ニ劣ラヌ程度ニ於テ十分持ツテ居ラウト思フノデアリマス、サウスルト茲ニ於テ官業ハ要ラヌノダ、民業ダケハサウ云フ不確實ノ所ガアルカラ、之ヲ施行スルノデアルト云フコトハドウモ先程ノ御説明ニ依リマシテ、少シ私承知ガ出來兼ネマスガ、其ノ點ヲモウ一層詳シク一つ御説明願ヒタヽイ、ソレカラ其ノ次ニハ、先程ノ是モ御説明ニアリマシタ第十一條、勞働者ノ賃金ノ中ヨリ百分ノ二ヲ積立テル、一應ノ御説明

是へ労働者其ノモノカラ見マスト云フト、
乏シイ賃金ノ中カラ百分ノニヲ積立テルト
云フコトハ、相當ナ苦痛デアラウト思フノ
デアリマス、現ニ我ガ國ニ於キマシテモ、
過去ニ於キマシテハ、各會社ガ皆此ノ労働
者ノ賃金ヲ積立テサセルト云フ制度ハアッタ
ノデアリマス、盡クトハ申シマセヌケレド
モ、大體慣例ニナツテ居タノデアリマス、所
ガ其ノ制度ガ行ハレテ居リマス時ニ見マス
ト、労働者ハ如何ニモ僅カナ賃金ノ中カラ
月々積立テルト云フコトハ、非常ニ苦痛デ
アル、ソレデ其ノ賃金ヲ積立テマス目的ハ、
労働者ガ餘リ其ノ出入ヲシナイ、餘リ仕事
ヲ變ラナイヤウニスルト云フ、一ツサウ云
フヤウナ目的ガアルノデアリマス、又彼等
ノ不幸ナ時ニハ、ソレニ依ッテ彼等ヲ救濟ス
ルト云フ目的デアッタノデアリマス、デ無論
過去ニ於キマス時ニハ、若シ彼等ガ或ハ病
氣ニナルトカ、或ハ家内ガ産ヲスルトカ、
特別ナ時ニハ、其ノ積立金ヘ引摺リ出シタ
モノデアリマス、其ノ以外ニハ成ルベク其
ノ積立ノ性質ニ依ッテ、其ノ積立金ヲ出サヌ
ヤウニ、其ノ使用者ガ監督シテ居タモノデ
アリマス、所ガ労働者ノ身分ニナリマスト、其
少シソレガ積立ノ金ガ殖エテ參リマスト、其
ノ金ガ目ニ著クノデス、ドウカ其ノ金ヲ出

シテ吳レ、斯ウ云フコトノ、頗リニウルサ
イ程要求ガアルノデアリマスケレドモ、事
業主ガソレハ、此ノ金ハ、斯ウ云フ事以外
ニハ出セヌノデアルカラト言ツテ、ソレヲ拒
ムト云フト、労働者ハ仕方ナシニ其ノ金ガ
貰ヒタイガ爲ニ、其ノ會社ヲ辭職スルデス、
辭職シタ時ニハ、已ムヲ得ズ之ヲ出サナク
チヤナラヌ、サウ云フコトデ、折角熟練ヲ
得タ職工ガ、其ノ金ガ欲シイガ爲ニ途中デ
其ノ辭職スル場合ガ多イノデアリマス、事
業ノ上ニモ非常ニ支障ヲ及ボス場合ガ多イ
ノデアリマス、ソコデ此ノ積立金ト云フモ
ノハ、殆ド又今日デハヤッテ居ル會社ハアリ
マスマイ、斯様ニ労働者ノ賃金ノ中カラ積
立テルト云フコトハ廢シタ、前ニ著シイ實
例ガアルノデアリマス、デ私之ヲ若シ施行サレマ
スト云フト、恐ラクハサウ云フヤウナ労働者ノ
出入ガ頻繁ニナリマシテ、サウシテサウ云フヤ
ウナ弊害ガ茲ニ生ジテ來ヤシナイカト云フ
コトヲ私深ク憂ヘルノデアリマス、ソレト
又半面ニハ労働者ノ賃金ノ中カラ此ノ百分
ノ一ヲ積ムト云フコトハ、隨分苦痛デアリ
マス、健康保險法ノ施行サレマス其ノ實績
カラ見マスト、是ハ労働者ノ賃金カラ積ム
ノデナクシテ、資本家カラソレダケ所謂増

ナケレバナラヌト云フヤウナ結果ニ平面ハ
ナルノデヤナイカト云フコトヲ私茲ニ考ヘ
ラレルノデアリマス、先ヅ其ノ二點ニ付テ
一ツ伺ッテ見タイ

府ノ事業ニ於キマシテ色々ノ事ヲヤッテ居リマス
共濟組合ヲ止メマシテ、此ノ本法ニ全部
ヤラセマスコトハ却テ労働者ノ福利ノ増進
ヲ圖リマス上ニ惡イ結果ヲ來ス虞ガアルト

シテ、本法ガ支拂確保ノ目的ヲ以テ準備制度ヲ採ツタノデアルカラシテ、政府ニハ其ノ準備制度ヲスル必要ガナイト云フ考ヘ方ヨリ申上ゲタノデアリマスルガ、ソレニ伴ヒ

○政府委員(赤松小寅君) 私が御答へ致シ
マス、官業ニ關シマス點デアリマスガ、御
說ノ如ク政府ノ事業ニ於キマシテヘ、共濟
組合ガゴザイマシテ、御手許ニ差上ゲマシ
タ表ノ如ク大體ニ於キマシテ賃金ノ百分ノ
四ハ共濟組合ノ爲ニ政府カラ給與致シテ居
ルノデアリマス、而シテ其ノ事業ニ付キマ
シテハ、色々ナ事柄ヲ行ッテ居リマシテ、敢
テ本法ダケノ目的デ、マア同一目的ダケデ
ヤツテ居ル譯デハゴザイマセヌガ、併シ本法
ニ關シマスル限リニ於キマシテモ、矢張リ
共濟組合ノ給與金ノ割合ダケヲ政府ガ負擔
致シテ居ルト見ルコトガ出來ルト思フノデ
アリマス、其ノ外ニ尙共濟組合以外カラ退
職手當ト致シマシテ豫算、別個ノ豫算カラ
支給致シテ居リマスモノモアリマスノデ、
兩者併セマシテ見マスレバ、少クモ本法ト
同程度以上ノ待遇ハ大體ニ於テ與ヘテ居ル
ト見ルコトガ出來ルト思ヒマス、殊ニ共濟
組合ニ於キマシテハ省ニ依リマシテ多少違
ヒモゴザイマスルガ、年金制度ヲ持ッテ居リ
マスノモアリマスノデ、此ノ際強ヒテ此ノ政

事實ニ適合致スト考ヘテ居ルノデアリマス、尙概論ト致シマシテハ、只今申上ダマシタ事ガ言ヒ得ルト思フノデアリマスガ、又御説ノ如ク省ニ依リマシテハ必ズシモ本法ノ要求致シテアリマス程度以上ニ總テガ行ッテ居ルト申上ガ兼ネル場合モアルノデゴザイマス、ソレハ極ク、大體總體カラシマスレバ少數デハアルト思ヒマスルガ、少クモサウ云フモノハ多少存在致シテ居ル疑ガアリマス、ソレニ付キマシテハ本法施行ト同時ニ少クモ本法ヲ下ラザル程度ノ待遇ヲ與ヘマスコトハ内定致シテ居リマス、尙臨時工ノ問題デアリマスルガ、是亦政府事業ノ内ニ於キマシテモ、臨時工ガ今日相當ノ數存在致シテ居リマス、ソレハ特ニ海軍省關係ニ存在致シテ居ルノデアリマス、是モ本法施行後ニ於キマシテハ、是等ニ對シマシテモ本法ノ要求致シマス退職手當ノ程度ヲ下ラナイ待遇ヲ致スコトニ内定致シテ居ルノデアリマス、ソレカラ尙次ニ政府事業ニ之ヲ適用シナ一ツノ理由ト致シマス

シテ大キナ會社ニ、資產ノ充實致シテ居ラバ、マス所ノ會社ニ對シマシテ其ノ積立金制庫ヲ設ケサセル必要ハナイデハナイカト云コトガ當ヲ得テ居ラヌヤウニモ見エルガト三ツ御議論ガアリ、寧ロソレト權衡ヲ取ル考ラバ、政府事業ニ之ヲ適用シナイト云フコトニ御説モゴザイマシタガ、此ノ一般民間会社ニ對シマシテハ一應本法ヲ適用致シマヒトヲ個々ノ問題ニ付キマシテ、一々ドノ会社ハ積立金ヲセヌデモ宜シトイ云フ風ニ致シマスコトハ極メテ其ノ判断ニモ苦シミニシコトデアリマシテ、殊ニソコノ所ニ假ノ如何ヤウニ大キナ資力ノ充實致シマシタガト致シマシテモ、國ノ事業トハ根本的其ノ性質ヲ異ニシテ居ルト見ルコトガ出来マスノデ、理窟ノ上カラ申シマシタナラバ別ノ取扱ヲ致スクトモ敢テ不適當デナイト者ヘテ居ル、但シ御説ノ如ク、大キナ會社デアリマスレバ、資力ガ充實致シテ居リマスルナベ、敢テ十六條、十七條ノ如キ方法ニ依リマシテ全額ノ準備金ヲ、積立金ヲ設ケテ墨ク必要ハ毛頭ナイト考ヘテ居リマス、幸ト

ニ致シマシテ、從來サウ云フ大キナ會社ニ
於キマシテハ本法ノ要求致シマス所ノ程度
以上ノ退職手當制度ヲ持ッテ居ルモノガ非
ハ第三十條ニ依リマシテ、從來ノ規定ヲ其
ノ儘本法ノ上ニ活カシテ行キマス途ヲ講ジ
テ居リマスノデ、全額ノ準備金ヲ持チマセ
ヌデ、適度ナ準備金ヲ持チマス方法ヲ此ノ
三十條ニ於テ講ズルコトガ出來マスノデ、
御說ノ如キ無駄ナル積立金ヲ資力豊富ナル
會社ニ供與スル必要ハナイデハナイカト云
フ御疑問ニ對シテハ、略此ノ三十條ヲ活
用シマスコトニ於テ免レルコトハ出來ヤセ
ヌカト考ヘテ居リマス、ソレカラ第一ニ御
質問ニナリマシタ十一條ノ勞働者ノ積立金
ガ、却テ勞働者ノ出入ヲ頻繁ナラシメル虞
ガアリハシナイカト云フ仰セガアリマシタ、
過去ノ實例カラ申シマシテ必ズシモ絶無ト
ハ申上げ兼ネルノデアリマスガ、併シナガ
ラ本法ガ此ノ制度ヲ採リマシタ其ノ趣意其
ノモノガ、敢テ事業主ノ行爲ニノミ依ラズ
シテ、自分モ出來ルダケ生活ノ合理化ヲ圖ッ
テヤツテ行クヤウニサセタイト云フ思想ヲ
トノ弊害ヲ免レルヤウニ致シタイト考ヘテ
強調スルコトニ依リ出來ルダケサウ云フコ

心配ノ點モアルカト思ヒマスガ、或ハ多少サウ云フ傾向ヲ招カナイトハ必ズシモ斷言テハ相當ノ貯金ヲ預ッテ居リマス、金額ニ致シマシテ約六千萬圓バカリノ工場ノ職工ノ貯金ヲ持ッテ居リマス、本邦ニ於キマス積立金八年額約一千萬圓前後ニナリマスノデ、過去ノ實例ニ於キマシテモ、サウ云フ事ハ勿論多少アリマシタデセウケレドモ、又今日職工貯金ガ相當アリマスヤウナ實績カラ見マシテモ、先づサウ云フコトヲ防イデ行クコトガ出來ハセヌカト考ヘテ居ルノデアリマス

若シ聽達ヘデゴザイマシタナラバ御容赦ヲ
マシタ、然ルニ只今労働部長ノ御説明ヲ承
レバ官業ノ待遇必ズシモ民間ヨリハ宜イト
ハ言ハヌト、民間ヨリ惡イモノモアルケレ
ドモ、是ハ訂正シテ民間ト同ジニスル積リ
グカラ、其ノ積立金云々ノ事ハ別論ト致シ
マシテ云フヤウニ聞エマシタ、ソコデ私
ハ政府カラ御配付ニナリマシタ書類ニ依リ
マシテ調べテ見マスト、此ノ調モ咄嗟ノ間
ニ調べマシタモノデアリマスカラ、最モ間
違ガアツカラ御訂正ヲ願ヒマスガ、政府ノ御
答辯ハドウモ社會局長官ノ御説明ト、労働
部長ノ御説明ト必ズシモ一致シテ居ルヤウ
ニ見エマセヌノデ、其ノ點ヲ明カニ致シタ
イノガ一ツト、ソレカラ其ノ次ニデスネ、
只今政府カラ御配付ニナリマシタ、官業ノ
共濟組合及退職手當支給狀況調ト云フ書類
ニ付テ調べテ見マスト云フト、鐵道省ニ於
テハ事業主ガ五ヲ負擔シテ居リマス、是
ハ只今阿部サンノ御話ノ通リデアリマス、印
刷局ハ事業主ガ四ヲ負擔シテ居リマス、陸軍
省ハ二・七、遞信省ハ四・四造幣局ハ四、專賣
局ハ四・五、海軍省ハ四、内務省土木局ハ四、
斯ウ云フ風ニナツテ居リマス、サウシテ此ノ
中カラ失業保險ノ支拂ヲ一負擔シテ居リマス

業主ノ負擔ガ二デアリマス、陸軍省ハ〇・七、遞信省ハ二・四ニナルノデアリマス、造幣局ハ事海軍省ハ二ニナリマス、内務省土木局モニニナリマス、事業主ノ方ハ、本法ノ施行ニ依リマシテ、先刻阿部サンノ御話ノ通リニ、最高五ニナリマスノデアリマス、平均致シマシテモ三以上ニナリマス、先ヅ最高五マデハ事業主ガ負擔シナケレバナラヌノデアリマス、甚ダシク民間ノ事業主ノ負擔ト、官業ノ政府ノ負擔トノ間ニ差ガアルヤウニ思フ、是ハ今ノ御説明ト、ソレカラ御対応ニナリマシタ書類ニ於テノ數字ノ間ニ、非常ナ差ガアルヤウニ思ヒマシテ、私共チヨット承服ハ出来兼ネマスカラ、此ノ數字ノ違ヒヲハツキリト御説明ヲ願ヒタイト思ヒス、マダ續イテ御尋ネ申上ゲタイコトガアリマスガ、取敢ズ是ダケ……

○政府委員(廣瀬久忠君) 私ノ言葉ガ或ハ不十分デアッタカト思ヒマスガ、私ノ申上ゲマシタ意味モ、労働部長ト全く同ジ事ヲ由上ゲタ積リデアリマスガ、或ハ言ヒ廻シノ關係デ過チガアルトイケヌカラ申上ゲマスガ、私モ官業ノ方カラ幾ラト云フヤウニ申上ゲタノデハナイ積リデ居リマス、官業

體ニ於テナイガ、下ルモノニ付テハ大藏省ニ於テ下ラナイヤウト協定ヲシテ、大藏省ニ於テ下ラナイヤウニ致スニ……本法ノ待遇ヨリ下ラナイヤウニ致スコトニナツテ居ルト云フ御説明ヲ申上ゲタクシリデアリマシテ、労働部長ノ申上ゲマシタノト同ジ積リデアリマスカラ、ドウゾ左様御承知置ヲ願ヒタイト思ヒマス

従ヒマシテ、私共ノ解釋致シテ居リマス所ニ依リマスレバ、此ノ共濟組合ノ給與金中、退職手當ニ該當スル所ノ給與金中ニハ政府ノ負擔割合、勞働者ノ負擔割合ヘ各同ジヤウナ割合ヲ以テ、其ノ中ニ含マレテ居ルト見ルノガ妥當デハナイカト考ヘテ居リマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、今退職手當ニ該當致シマスル所ノ給與ニ付テ、政

勤續一年ニ付テ十二日分ト云フコトニ致シテ居リマス、ソコラ邊ガ先ヅ妥當ナル標準デハナイカト考ヘマス、コヽラヲ考ヘテ目マスト、大體官業ハ先ヅ之ニ下ラナイダノ待遇ヲ致シテ居ル、尙足リナイ所ニ付キマシテハ、適當ニ修正ヲ致シテ參リマス確定デアルト云フコトヲ申上ゲタイト思ヒ一
ス

致シマセヌ、一般豫算ノ中カラ不足分ヲ幾
ラカ出シテ居ルカラ、ソレデ民間ノ事業主
ノ負擔ニ對シテ官業ガ劣ラナイト云フ、斯
ウ云フ御説明デアリマシタナラバ、一般豫
算カラ幾ラ、共濟組合カラ幾ラ出シテ居ル、
ソレ故ニ民間ニ劣ラナイ、斯ウ云フコトヲ
リマスノト、ソレカラ時間ガゴザイマセヌ

○政府委員(赤松小寅君) 尚私カラ附ケ加
ヘテ御答へ致シテ置キマス、只今ノ御手許
ニ差上ゲマシタ表ニ依リマシテ、一應共濟
組合ニ關シマシテハ政府ノ負擔ノ部分ガ、
陸軍省ハ別デアリマスガ、賃金ノ約百分ノ
四以上ニ相成ツテ居ルト云フコトヲ申上げ
タノデアリマス、共濟組合ハ御承知ノ如ク
労働者ト事業主トガ渾然一體ヲナシマシテ、
色々々ノ事業ヲ致シテ居リマスノデ、個々ノ給
與金ニ付キマシテ見マシタナラバ、ドレガ
労働者ノ負擔部分ノ金デアルカ、事業主ノ
金デアルカ當然分ラナイ譯デアリマスガ、
之ヲ全體トシテ考ヘテ見マシタナラバ、要
スルニ各個ノ給與ニ於キマシテモ、政府ノ
負擔部分ト労働者ノ負擔部分トガ、其ノ割
合ガ同ジ割合ニ於テ其ノ中ニ含マレテ居ル
ト見マスノガ、妥當デハナイカト考ヘマス、
ソレヲ均ラシテ見マシテ、三十條ニ於テハ、
リマシタ場合ニ百分ノ五ニナリマスノデ、
退職手當ノ最高ノ場合ハ、賃銀ノ百分ノ五
ニナッテ居リマス、併シナガラ是ハ利益ノア
モニテ居リマス、併シナガラ是ハ利益ノア

○藤原銀次郎君　其ノ只今ノ御説明ニ付キ
マシテ、甚ダ申上ゲニクイコトデヘゴザニ
マスケレドモ、此ノ私ガ頂戴シテ居リマツ
資料ヲ一應拜見致シマスト云フト、ドウシニ
モ官業ノ方ガ民業ノ方ト同ジヤウニナル
云フ風ニハ拜見ガ出來兼不マス、詰リ民四
ノ方ハ、健康保険ハマア別ニ致シマシテ、五
分ノ五マデ負擔スル、陸軍ノ分ナドハ若ビ
此ノ中カラ健康保険ヲ差引クト〇・七ニナ
テシマフト云フヤウニ見エマス、其ノ不口
分ハ果シテ政府ガ普通ノ一般豫算デソレ
ケノモノヲ御支給ニナッテ居リマシタナニ
バ、其ノ一般豫算ノ中カラドレダケ御支給
ニナッテ居ルト云フコトヲ御分リノ筈デマ
リマスカラ、其ノ一般豫算ノ中カラ幾ラ山
シ、共濟組合ノ方カラ幾ラ出シタト云フ、
斯ウ云フ金額ヲ承ルコトヲ私ハ要求致シ
イト存ジマス、御説明ガサウシナイト徹底

カラ、此ノ御配付ニナリマシタ材料ダケニ
依ッテ見ルト、先刻私ガ申上ガタヤウニ、官
業ノ方ガ甚ダシク劣ッテ居ルヤウニ見エル
ノデアリマス、ダカラソレヲ徹底スルヤウ
ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、其ノ次ニ
ハ此ノ先刻阿部サンノ御質問ノ臨時工ノ問
題ニ付テ、海軍省ノ方ハ稍、民間ヨリ多イ
ケレドモ、其ノ外ハ大シタ臨時工ヲ民間ヨ
リ餘計使ツテ居ルト云フヤウナコトハアリ
マセヌ、即チ其ノ劣悪ノ勞働工ヲ餘計ニ使
用シテ居ルト云フコトハ、政府事業ニ付テ
ハナイト云フ勞働部長ノ御説明デアリマシ
タガ、現ニ茲ニ御配付ヲ願ツテ居ル、我々ノ
所ニ頂戴シテ居ル所ノ表ニ依リマシテモ、
海軍ハ約三十五「パーセント」ニナツテ居ル、
臨時工ガ陸軍ノ方ハ五十一「パーセント」ニ
ナツテ居ル、海軍ヨリ陸軍ノ方ガ臨時工ヲ餘
計御使ヒニナツテ居ル、之ニ反シテ民間ノ方

ハ先づ百人以上ノ工場ニ付テ見マスト云フ
ト、一六・七位ナモノニナルスウ云フノデ
ゴザイマス、其ノ一六・七ト云フノハ政府ノ
御調デナイカモ知レマセヌ、我々民間ノ方
ノ調デアルカモ知レマセヌガ、サウ云フ工
合ニ此ノ御説明ト、ソレカラ御配付ニナッテ
居ル書類トノ間ニ非常ニ相違ガアルヤウニ
存ジマスカラ、其ノ邊モ材料ノ方ガ確カデ
アルカ又御説明ノ方ガ確カデアルカ、ドチ
ラガ確カデアルカト云フコトヲツ社会局
長官デモ労働部長デモ、ドチラデモ宜シウ
ゴザイマスカラハツキリ承リタイ

○政府委員(赤松小寅君) チヨット失禮デ
御覽ニナツタノデアリマセウカチヨット伺ヒ
タイ、實ハ私ガ整理ガ惡イノカ知リマセヌ
ガ、ドウ云フ書類ヲ御手許ニ差上ゲテ居リ
マスカ、チヨット……

○藤原銀次郎君 參考ト云フ表デゴザイマ
ス

○政府委員(赤松小寅君) 私ノ方カラ差上
ゲマシタ書類デハナイト思フノデアリマス、
私共ノ調べニ依リマスレバ……

○藤原銀次郎君 只今ノ説明ヲ少シ訂正致
シマス、私ハ此ノ政府カラ御配付ニナリマ
シタ参考書類ト申シマシタノハ全部政府カ

ラ御提出ニナツタ書類ト云フコトデハナイ
ノデアリマス、是ハ民間ノ事業ニ於テ先刻
申上ゲマシタ臨時工ノ使用ガ一六、七デア
ルト云フコトハ、是ハ社會局ノ調査デゴザ
イマス、ソレカラシテ又海軍省ニ於テ三十
五「パーセント」、陸軍省ニ於テ五十一「パー
セント」デアルト云フコトハ、是ハ政府カ
ラ御配付ニナツタモノデハアリマセヌ、併シ
ナガラ是ハ相當ニ信用ノアル所カラ配付セ
ラレタ參考資料デアリマスカラ、私ハ此處
デ改メテ陸軍ノ工廠ト、海軍ノ工廠ノ此ノ
臨時工ノ數ト普通職工ノ數トノ比較ヲ政府
ニオ出シニナリマスコトヲ要求致シマス、
ソレデ私ノ調べマシタ所ニ依リマスト、陸
軍工廠ノ方ハ五十一「パーセント」、海軍ノ
方ハ三十五「パーセント」、民間ノ方ハ之ニ
反シテ僅カニ十六「パーセント」デゴザイマ
ス、ソレデアリマスカラ此ノ點ニ於キマシ
テモ官業ガ必ズシモ民業ヨリハ良イト云フ
コトハ申サレナイト思ヒマス、ソレ故ニ若
シ政府デ私ノ申上ゲマシタ數字ニ御信頼ガ
ゴザイマセヌナラバ、改メテ政府ノ方カラ
此ノ數字ヲオ出シラ願ヒタイ

○政府委員(赤松小寅君) 今チヨット數字
ヲ割出シテ見マシテ御答ヘ致シマス、後デ
御知ラセ致シマス

○藤原銀次郎君 政府ノ御調查ニナツテ居
ル間ニ、私カラモウ一點質問致シタイト存
ジマス、先刻安場男爵カラノ御質問ガアリ、
又阿部サンカラモ御質問ガアリマシタガ、
本法ハ労働者ノ利益ヲ圖ル爲ニト云フ御趣
意デ御提出ニナツタノデアリマスコトハ能ク
了解致シマシタガ、此ノ労働者ノ賃金ノ中
カラ百分ノ二ヲ強制的ニ積立ヲサセテ、サ
シテ其ノ金額ヲ強制的ニ郵便貯金ニシヨ

常備工ト別個ノ取扱ヲ致シテ居リマス労働
者ノ數ハ、海軍ニ於キマシテ十年五月一日
現在ニ於テ男二萬五千三百四十五人、女一
千三百六十九人、合計二萬六千七百十四人、
造幣局ニ於キマシテ九十七人、斯ウ云フコ
トニ實ハ相成ツテ居ルノデアリマス、之ガ退
職手當ニ付キマシテ一般職工ト異リマシタ
取扱ヲ致シテ居リマス労働者ノ數ニ相成ツ
テ居リマス

○藤原銀次郎君 サウ致シマスト海軍ノ二
萬六千六百人ト云フコトハ私共ノ數字ト同
ジテアリマスカラ、サウスルト海軍ノ割合
ハ三十五「パーセント」ニナルト云フコトニ
承知致シテ宜シウゴザイマスカ

○政府委員(赤松小寅君) 今チヨット數字
ヲ割出シテ見マシテ御答ヘ致シマス、後デ
御知ラセ致シマス

○藤原銀次郎君 政府ノ御調查ニナツテ居
ル間ニ、私カラモウ一點質問致シタイト存
ジマス、先刻安場男爵カラノ御質問ガアリ、
又阿部サンカラモ御質問ガアリマシタガ、
本法ハ労働者ノ利益ヲ圖ル爲ニト云フ御趣
意デ御提出ニナツタノデアリマスコトハ能ク
了解致シマシタガ、此ノ労働者ノ賃金ノ中
カラ百分ノ二ヲ強制的ニ積立ヲサセテ、サ
シテ其ノ金額ヲ強制的ニ郵便貯金ニシヨ

ウト云フコトニ、原則トシテハナツテ居ル、
先刻政府當局ノ御説明ノ通りニ労働者ニ貯
金ヲ獎勵スル、成ルベク此ノ労働者ニ勤儉
貯蓄ノ美風ヲ養成シテ、サウシテ其ノ貯金
ヲ致サセルト云フコトハ結構ナ事デアルノ
デ、我ガ國ノ產業界ハ各自舉ツテ斯ウ云フ施
設ヲ行ヒマシテ、サウシテ此ノ貯金ヲ獎勵
致シテ居リマス、其ノ結果大概ノ事業主ハ、
此ノ貯金ニ對シテハ高イ利子ヲ拂ツテ居ル、
普通今日ノ金利ハ三分三厘トカ四分トカ安
イ利子デアリマスケレドモ、事業主ハ此ノ
労働者ノ貯金ニ對シテハ、六分トカ七分ト
カ、乃至ハ八分トカ云フヤウナ非常ニ高イ
利子ヲ拂ヒマシテ、サウシテ此ノ貯金ヲ獎
勵シテ居ルト云フノガ今日ノ現狀デゴザイ
マス、ソレデ事業主ノ方ハ是ダケ、詰リ其
ノ利子ノ差ダケヲ損ヲシテ、サウシテ労働
者ニ今日利益ヲ與ヘテ居ルノデゴザイマス、
然ルニ本法ニ於テハ事業主ノ方デ預カレバ
五分トカ、少クトモ五分カ六分カ七分カ、
恩恵的ニ利子ヲ拂ツテ、サウシテ之ヲ獎勵シ
テ居ル、其ノ金ヲ特ニ強制的ニ政府ノ郵便
貯金ニシテ三分三厘ニ之ヲ預ケル、領ケシメ
テ、労働者ニソレダケ利子ノ差ダケデモ損
ヲサセルト云フヤウナコトヲオヤリニナル
ノハドウ云フ御趣旨デゴザイマスカ、先刻

ノ御説明ニ依ルト一千萬圓ニ此ノ百分ノ二
ノ金額ガ上ボルト云フコトデアリマス、一
千萬圓ニ果シテ私モ上ボルト思ヒマス、サ
ウスルト假ニ事業主ノ方デ預ッテヤレバ、六
分三厘デ預ッテヤルト假定致シマスレバ、三
分ハ労働者ガ損ヲシテ居ルノデアリマスカ
ラ、此ノ一千萬圓ニ對シテ現ニ毎年三十萬
圓ヅツ各労働者ハ損ヲシナケレバナラヌ、
サウ云フ結果ニナルノデアリマス、ダカラ
思ヒマス、我々ノ方カラ見ルト、労働者ノ爲ト
思ツテオヤリニナル御處置ガ、事實上ニ於テ
ハ労働者ノ不利益ニナッテ居ルト斯ウ考ヘ
マス、其ノ點ハ如何……

○政府委員(廣瀬久忠君) 労働者ノ積立金

ニ付キマシテハ、省令案ヲ御手許ニ、勅令

案ヲ御手許ニ差上ガテアリマスガ、原則ト

致シマシテ、郵便貯金、或ハ郵便貯金ニ主

ニナリマセウガ、其ノ外貯蓄銀行預金ト云

フヤウナコトモ考ヘテ居リマス、又一般ノ

銀行預金ノコトモ考ヘテ居リマスガ、併シ

御説ノヤウニ此ノ種ノ預金ノ利子ハ安イノ

デアリマシテ、其ノ點ハ御説ノ通リダトハ

思ヒマスガ、併シ茲ニ第十三條ニ於キマシ

テ、運用ヲシテ貰フ規定ガ設ケアルノデ

アリマズ、サウ云フ事業主ガ、從來モ御話

ノヤウニ特ニ非常ナ同情ヲ以テ、好意ヲ以

テ労働者ノ爲ニ労働者ノ金ノ運用ヲ良クシ

テ、サウシテ利子ヲ澤山ヤルト云フコトニ

ナサツテ居ル、ソレハ御説ノ通リダト思ヒマ

ス、其ノ點ニ付キマシテハ、今回モ法ノ上

ニ於テ其ノ種ノ御好意ガアリマスル方ニ

ハ、是非此ノ十三條ヲ御利用下スツテ、サウ

シテ利子ヲ、相當ニ高イ利子ヲ附ケテヤル

ト云フコトヲ願ヒタイ、斯ウ思ツテ居ルノデ

アリマス、十三條ニ依リマシテ面倒ナ手續

ハアリマスケレドモ、併シ是非ソレヲ願ヒ

タ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリ

マスカラ、労働者ノ爲ニ高イ利子ヲ附ケテ

ヤルト云フ方法ニ付キマシテハ、此ノ手段

ヲ一つ御選ビラ願ヒタイ、斯ウ云フヤウナ

積リデ居リマス

○政府委員(赤松小寅君) 金ノ運用ノコトニ付

テ、勞働者ノ貯金ガ拂ヘナクナツタ、運用ガ

少シ極端ニ行キ過ギテ、遂ニ拂ヘナクナツテ、

大騒ギヲシタヤウナ實例モアリマスノデ、矢

張リ相當ナ面倒ナ手續ヲ執ラナケレバナラ

ヌカト思ヒマス、之ガ爲ニハ矢張リ或場合ニ

ハ國債ヲ供託シテ貰ハナケレバナラスカト

モ思ヒマスガ、併シ只今御話ノヤウナコト

ハ、社會局トシテハ考ヘテ居リマセヌノ

デ、判ヲ捺シテシマッテ、融通ヲ出來ナイヤ

シマシタガ、此ノ行政官廳ハ必要ト認ムル

額國債ヲ供託スペキコトヲ命ズルコトヲ得

ト云フコトニナツテ居リマシテ、サウシテ政

府ノ方ノ只今御説明ニナリマシテ……各所

ニ於テ御説明ニナツタ時ニハ、此ノ國債ハ退

職積立金ノ供託ノ國債デアルト云フコト

デ、判ヲ捺シテ、融通ヲ禁止スルト云フコ

トヲ御説明ナツテ居ルヤウデアリマスガ、サ

ウ云フ嚴重ナ國債供託ヲサセテ、其ノ國債

ハ融通ヲ禁止サセルト云フヤウナコト迄オ

ヤリニナツテ、サウシテ尙且高率ノ……規定

ノ利子以上ノ利子ヲ給與シロト云フ御趣意

デゴザイマスカ

○政府委員(廣瀬久忠君) 此ノ労働者ノ貯

金ノ運用ノコトニ付テ、甚ダ面倒ナコトニ

規定シテ居リマスガ、是ハ御承知ノ通リ長

野縣ノ製絲工場等ニ於テモ、色々ナ労働者

ノ貯金ニ付テ非常ニマヅイ問題ガアリマシ

テ、勞働者ノ貯金ガ拂ヘナクナツタ、運用ガ

合ニ依リマシテ色々違フト思ヒマス、中ニ

ハ先程御説明申上げマシタヤウニ、本法ヲ

施行スル爲ニ、勞働賃金ノ方ガ低下サレハ

シナイカ、寧ロ賃金其ノモノガ減リハセヌ

カト云フ御議論モ相當強クゴザイマシタ、

從ツテ又此ノ場合ニ於キマシテ、退職積立金

ガアリマスコトニ依リマシテ、今度ハ寧ロ

賃金ガ増額シハセヌカ、増額ノ結果ニナリ

ハセヌカト云フコトハ、是亦理窟トシテ考ヘラレル事柄ト思ヒマス、併シソレハ其時ノ情況如何ニ依リマシテ、果シテ積立金ガアルカラ賃金ガ増加ニナッタノデアルカ、或ハ又減ツタノデアルカト云フコトハ、非常ニ其ノ個々ノ事情ニ依リマシテ、時ノ經濟情況ニ依リマシテ、非常ニ違ヒハセヌカト思ツテ居リマス、私共ナドヘ、寧ロ日本ノ人口過剩ニ依リマシテ、勞働者ノ供給ガ非常ニ多イ今日ニ於キマシテハ、或ハ寧ロ所謂勞働者ノ賃金ニ轉嫁セラレハセヌカ、退職積立金及退職手當法ガアリマス爲ニ、轉嫁セラレハセヌカト云フコト寧ロ虞レテ居ル位デアリマス、マアサウ云フコトハ、ソレ程問題ニハナラヌカト思ヒマス、勿論事業主ノ非常ナ溫情的ナ御心持ヲ以チマシテ、氣ノ毒ダカラモットヤルト云フ方ガアリマスレバ、是ハ勿論有難イノデゴザイマスケレドモ、經濟的事情カラ申シマスレバ、大シタ憂フベキ問題デハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス

ルコトガ労働者ノ福社ノ増進ニナルカト云
フ仰セデゴザイマスガ、ソレハ御説ノヤウ
ニ、一時ハ是ダケノ積立ヲスルコトハ相當
ガ矢張リ將來ノ貯蓄トナツテ殘ルノデアリ
マシテ、其ノ爲ニ生活ノ安定モ得ラレルコト
トデヘアリマスルシ、其ノ一時ノ或程度ノ
苦痛ハ忍ンデモ、矢張リ全體ノ上カラ見マ
シテ、矢張リ幸福ヲ得ル所以デアリ、福利
ヲ増ス所以デアルト云フヤウナ工合ニ考へ
テ居ルノデゴザイマス

相當ノ事業ヲ起サレマシテ、其ノ事業ニ依リマシテ失業者ヲ救濟サレルヤウナ御考ハ内務當局ニハ無イモノデゴザイマセウカ、事業ガ起リサヘスレバ、失業對策ハ適當ノ方法ヲ以テスレバ、失業保險ヨリモモット有效ニ勞働者ノ失業ノ場合ノ保険ニナルノヂヤナイカト思ヒマス、殊ニ其ノ失業ヲ救濟スル事業ハ勞働者ノ最低ノ生活ヲ保障スル程度ノ賃銀ヲ以チマシテ使用シ得ルヤウナ事業ヲ、豫メ失業對策ノ爲ニ御定メ置キニナリマシテ、其ノ失業ノ情況ニ從ツテ漸次之ニ授職サセルヤウナコトヲナサレバ、別ニ失業保險ノヤウナコトヲナサラズト雖モ、失業對策トシテ方法ガ立ツモノデハナイカト考ヘマスガ、内務當局ニハサウ云フ御考ハゴザイマセヌカ

<p>シメマシテ、サウシテ其ノ失業救濟ノ實ヲ 舉Geテ居リマス、是ハモウ數年來ノコトデ アリマシテ、今日デモソレヲヤッテ居リマ ス、併シ此ノ法律ハ其ノ失業對策ト云F意 味ヨリモ、現在マデアリマスル所ノ退職手 當ノ制度ヲ法律化シテ、サウシテ生活ノ安 定ヲ得サシメヨウト云フコトデアリマン テ、ソレガ結果ニ於テ失業對策ノ一部ニモ ナリマスルケレドモ、寧ロ失業救濟ノ仕事 トシテハ、別ニ御話ノヤウニ失業對策トシ テ豫算ヲ以テ政府ヨリ補助ヲシテ、地方公 共團體ヲシテ土木事業其ノ他ヲ施行セシメ マシテ、授職ヲサセルト云フコトヲヤッテ 居ルノデアリマス</p> <p>○男爵安場保健君 只今ノ事業ヲヤッテオ イデニナリマスルガ、ソレニ付キマシテハ 最低ノ生活ヲ保障スルト云フ方法デナクシ テ、適當ナ事業ヲ、普通ノ事業ヲ施行スルト 同ジヤウナ方法ニ依ッテ、ヤッテオイデニナ ルヤウニ思ハレマスルガ、其ノ點如何デゴ ザイマスカ……最低ノ生活ヲ保障スル程度 ノ賃金ヲ支給スルト云フノデハナク、請負 トシテ或ヘ其他ノ、現在外ニ行ハレテ居ル 事業施行ト同ジ方法ニ依ッテ、サウ云フ事業 ヲヤッテオイデニナルノデヤアリマセヌカ</p> <p>○政府委員(廣瀬久忠君) 失業應急事業ト致 居リマスル此ノ政府ガ、失業應急事業ト致</p>	<p>シテ實行致シテ居ル事業ハ、原則トシテ公 共團體等ノ直營事業ト致シマシテ、サウシ テ失業者ハ職業紹介所カラ紹介ヲ受ケマシ テ、サウシテ何日目ニ一回……何回ト云フヤ ルト云F方針デ仕事ヲ致シテ居リマスカラ、 唯普通ノ事業ノヤウナ工合ニ致シテ居ル譯 デハアリマセヌ、職業紹介所ヲ利用シテ、 サウシテ失業者ヲ順番ニ適當ニ就勞サセ ル、サウシテ就勞シマスレバ、矢張リスル 仕事ハ普通ノ請負デハアリマセヌノデ、極 則トシテ居ルノデアリマス、サウ云Fヤウナ 事情ニナツテ居リマスカラ、普通事業ノヤリ 方トハ事情ハ違ツテ居ルノデアリマス</p> <p>○男爵安場保健君 市町村ニ於キマシテノ 請負ハ、市町村ニ委サレタル以上ハ、請負 業者ガヤッテ其ノ地方ノ者ヲ使ハナイデモ、 事業ノ完成ヲヤッテ居ルト云Fヤウナ例ガ アルヤウニ思ハレマスガ、サウ云Fモノノ 前ノ積立金法案要綱ノ中ニアルヤウナ條項 ヲ考ヘテ戴キタイト云Fコトガ、私ガ最モ 主張シタイ所デアルノデアリマス、又此ノ 法案ニ依リマスト、差押禁止其ノ他ノ條項</p>
<p>シマシテ補助ヲ致シテ居ル仕事ニ付テハ、 出來得ル限り其ノ地方ノ職業紹介所ヲ利用 シテヤッテ居ルト云Fコトニナツテ居リマ ス、勿論ソレハ多少ノ例外モアリマシテ、 ウナ工合ニ、大體失業者ニ就勞ノ機會ヲ與ヘ ルト云F方針デ仕事ヲ致シテ居ル譯 デハアリマセヌ、職業紹介所ヲ利用シテ、 サウシテ失業者ヲ順番ニ適當ニ就勞サセ ル、サウシテ就勞シマスレバ、矢張リスル 仕事ハ普通ノ請負デハアリマセヌノデ、極 則トシテ居ルノデアリマス、サウ云Fヤウナ リマスケレドモ、サウ云Fヤウナ建前デ進 ンデ居ルノデアリマス</p> <p>○男爵安場保健君 話ガ少シ横ニ入リマシ タガ、只今御話ノヤウニ、労働者ハ將來ソ レダケノ物ヲ貰フノデアルカラ、幸福ニナ ルト云F御考ノヤウニ承リマシタケレド モ、又一面カラハ、現在ノ積立ハ苦痛デア ルデアラウト云Fコトモ御認メノヤウデア リマスルガ、サウスルト「プラス、マイナス」 デ、ヤッテモヤラナクテモ宜イヤウナ感ジラ リマスルガ、サウスルト「プラス、マイナス」 致スノデアリマスガ、斯ウ云F立法ガサレ ルト云Fコトニ付テ、私ハ勿論贊成ナンデア リマスルカラ、結局此ノ點ニ關シマシテ、 之ヲ引出サセマス方法ハ相當考ヘタノデア リマス、併シナガラ之ヲ設ケマスルト云F ト、労働者ハ實際問題ト致シマシテ、少シ ク金ガ溜リマスト云Fト、直グニ色々ノ事 情ヲ申出デマシテ拂戻シヲ請求スルノガ今 日迄ノ實情デアルノデアリマス、其ノ爲ニ 本法ノ積立ヲサセルト云F目的ヲ全然失フ 虞レガアリマスノト同時ニ、實際側カラ申 シマスト、却テ其ノ爲ニ非常ニ手數ガ煩雜</p>	<p>シマシテ補助ヲ致シテ居ル仕事ニ付テハ、 出來得ル限り其ノ地方ノ職業紹介所ヲ利用 シテヤッテ居ルト云Fコトニナツテ居リマ ス、勿論ソレハ多少ノ例外モアリマシテ、 ウナ工合ニ、大體失業者ニ就勞ノ機會ヲ與ヘ ルト云F方針デ仕事ヲ致シテ居ル譯 デハアリマセヌ、職業紹介所ヲ利用シテ、 サウシテ失業者ヲ順番ニ適當ニ就勞サセ ル、サウシテ就勞シマスレバ、矢張リスル 仕事ハ普通ノ請負デハアリマセヌノデ、極 則トシテ居ルノデアリマス、サウ云Fヤウナ リマスケレドモ、サウ云Fヤウナ建前デ進 ンデ居ルノデアリマス</p> <p>○男爵安場保健君 話ガ少シ横ニ入リマシ タガ、只今御話ノヤウニ、労働者ハ將來ソ レダケノ物ヲ貰フノデアルカラ、幸福ニナ ルト云F御考ノヤウニ承リマシタケレド モ、又一面カラハ、現在ノ積立ハ苦痛デア ルデアラウト云Fコトモ御認メノヤウデア リマスルガ、サウスルト「プラス、マイナス」 デ、ヤッテモヤラナクテモ宜イヤウナ感ジラ リマスルガ、サウスルト「プラス、マイナス」 致スノデアリマスガ、斯ウ云F立法ガサレ ルト云Fコトニ付テ、私ハ勿論贊成ナンデア リマスルカラ、結局此ノ點ニ關シマシテ、 之ヲ引出サセマス方法ハ相當考ヘタノデア リマス、併シナガラ之ヲ設ケマスルト云F ト、労働者ハ實際問題ト致シマシテ、少シ ク金ガ溜リマスト云Fト、直グニ色々ノ事 情ヲ申出デマシテ拂戻シヲ請求スルノガ今 日迄ノ實情デアルノデアリマス、其ノ爲ニ 本法ノ積立ヲサセルト云F目的ヲ全然失フ 虞レガアリマスノト同時ニ、實際側カラ申 シマスト、却テ其ノ爲ニ非常ニ手數ガ煩雜</p>
<p>ガアリマスルカラシテ、普通ノ積立金ノ場 合ニ於テハソレヲ擔保物件トシテ、金ノ融通 止デアッテ見レバ、ソレヲ擔保ニ金ヲ借リル ト云Fコトモ出來ナイカト思ヒマス、ソレ デ衆議院ノ附帶決議ニアリマスル所ノ、労 働者ノ爲ニ金融ヲ圖ツテヤルト云Fヤウナ コトガ書イテアリマスルガ、サウ云F場合 ニ、労働者ノ返還ヲ目的トシテ金融スルノ デアリマスカ、唯信用デ貸スト云Fヤウナ 御考デアリマスカ、何カソコニサウ云Fコ トガ行ハレ得ルト、内務當局ハ御考ヘデゴ ザイマセウカ</p> <p>○政府委員(赤松小寅君) 十一條ノ労働者 ノ退職積立金ニ付キマシテ、失業對策委員 會ノ要項ニゴザイマシタヤウニ、此ノ労働 者ノ必要ニ應ジマシテ萬已ムヲ得ザル時ハ 之ヲ引出サセマス方法ハ相當考ヘタノデア リマス、併シナガラ之ヲ設ケマスルト云F ト、労働者ハ實際問題ト致シマシテ、少シ ク金ガ溜リマスト云Fト、直グニ色々ノ事 情ヲ申出デマシテ拂戻シヲ請求スルノガ今 日迄ノ實情デアルノデアリマス、其ノ爲ニ 本法ノ積立ヲサセルト云F目的ヲ全然失フ 虞レガアリマスノト同時ニ、實際側カラ申 シマスト、却テ其ノ爲ニ非常ニ手數ガ煩雜</p>	<p>ガアリマスルカラシテ、普通ノ積立金ノ場 合ニ於テハソレヲ擔保物件トシテ、金ノ融通 止デアッテ見レバ、ソレヲ擔保ニ金ヲ借リル ト云Fコトモ出來ナイカト思ヒマス、ソレ デ衆議院ノ附帶決議ニアリマスル所ノ、労 働者ノ爲ニ金融ヲ圖ツテヤルト云Fヤウナ コトガ書イテアリマスルガ、サウ云F場合 ニ、労働者ノ返還ヲ目的トシテ金融スルノ デアリマスカ、唯信用デ貸スト云Fヤウナ 御考デアリマスカ、何カソコニサウ云Fコ トガ行ハレ得ルト、内務當局ハ御考ヘデゴ ザイマセウカ</p> <p>○政府委員(赤松小寅君) 十一條ノ労働者 ノ退職積立金ニ付キマシテ、失業對策委員 會ノ要項ニゴザイマシタヤウニ、此ノ労働 者ノ必要ニ應ジマシテ萬已ムヲ得ザル時ハ 之ヲ引出サセマス方法ハ相當考ヘタノデア リマス、併シナガラ之ヲ設ケマスルト云F ト、労働者ハ實際問題ト致シマシテ、少シ ク金ガ溜リマスト云Fト、直グニ色々ノ事 情ヲ申出デマシテ拂戻シヲ請求スルノガ今 日迄ノ實情デアルノデアリマス、其ノ爲ニ 本法ノ積立ヲサセルト云F目的ヲ全然失フ 虞レガアリマスノト同時ニ、實際側カラ申 シマスト、却テ其ノ爲ニ非常ニ手數ガ煩雜</p>

デアリマシテ、貯金ノ出シレガ頻繁デアッ
テ、其ノ事由ガ法律デ規定サレテ居ルヤウ
ニ、已ムヲ得ザル事情ガアッテ出シニ來タ
ノデアルカ否ヤト云フコトヲ一々調べルコ
トガ出來マセヌシ、極メテ困難ナ事情ニ立
到リマスノデ、實際家ノ意見ト致シマシテ
モ、之ヲヤルナラバ寧ロ強制貯金ニ行カナ
ケレバ全然目的ヲ達セズ、實際上ニモ困ル
ト云フ意見ガ相當ニアリマシタ、ソコデ種
種考ヘマシタ末、本案制定ノ大キナ目的ノ
上カラ申シマシテ、労働者自身モ自助的ニ
自身ノ退職後ノ用意ヲシテ、成ルベク社會
ニ御迷惑ヲ掛ケルコトヲ自ラ少クスル心掛
チ致シテ行クト云フ、道徳的意味ヲ強調致
シマス必要上、多少ノコトハ我慢シテ貰ヒ
マシテモ、是ハ強制貯金デ參ルノガ妥當デ
アルト考ヘマシテ、斯ウ云フ風ニ致シタ譯
デアリマス、尙附帶決議ニゴザイマス金庫
ノコトニ付キマシテハ、先程他ノ政府委員
カラ本案立案ニ際シマシテ、多少考ヘナカッ
タノデモアリマセヌケレドモ、未ダ十分ニ其
ノ微細ニ入りマシテ迄考ヘテハ居リマセ
ヌ、從ヒマシテ今御質問ノ如ク付記事項ニ
付キマシテ、今日具體的ニ御説明致シマス
ル程考ガ熟シテ居リマセヌ、出來レバ何等
カノ方法ヲ以チマシテ、中小企業或ハ労働

○金岡又左衛門君 私ハ内務大臣ニ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、此ノ法案ノ立法ノ根本趣旨ハ、是ハ労働者ノ爲ニ労働者ノ生活ノ安定ヲ圖リ、労働者庇護ノ爲ニ是ガ立案ニナツタモノト承知サレルノデアリマス、社會政策上サウ云フ風ニ考フルノデアリマス、ト云フノハ民間事業家ハドウモ斯ウ云フ法律ヲ以テ拘束セナケレバ委シテ置ケナイ、退職積立金モ、手當金モ、斯ウ云フ法律ヲ突キ付ケナケレバ、委セラレナイト云フ御趣意デオ出シニナツタノデアラウト思ヒマスガ、ソレモ我々ハ是ハ時勢ノ流レデアルト覺悟シテ居リマスガ、労働者モ膏血ヲ搾ッテ、生命ノ危険ヲ冒シテ、勞力奉仕ヲシテ居ルノデアリマスカラソレハ宜ウゴザイマスガ、ト云フノハ昨日此ノ委員會ニ於テ内務大臣ノ御説明ノ中ニモ、不況ノ場合ニハ労働者ニ對シテノ手當ナリ、解傭手當ナリト云フヤウナコトハ、ドウモ思フヤウニ行カナイト云フヤウナコトモ現ニ御説明ニナツテ分將來ニ付テ研究ヲ重ネテ參リタイト思ヒマス、如何ニモムヅカシイ問題デアリマスノデ、今具體的ニ申上ゲルダケノ考ヲ持ツテ居リマセヌ

居ル、併シ不況ノ場合ノ反対ニ、好況ノ時ニイコトヲ忘レテシマッテ、惡イコトヲノミ不平ヲ言フト云フヤウナ譯デアリマス、政府事業ヘ此ノ手當ナリ、此ノ方法ヘ相當ナルコトニナツテ居ルカラ宜シイ、デアルカラ政府事業ヲ茲ニ適用シナイト云フコトデアル、民間ニ於テハ惡イ時ヘ惡イカモ知レマヌガ、好イ時ニハ相當以上ニモ支給シテ居ル、是マデ是ハ實際問題トシテアルノデアリマス、併シナガラニラ政府自ラガ、一面事業家ニ對シテ委シテ置ケナイ、不信任ノヤウナコトヲ此ノ法令ノ上ニ拍車ヲ掛ケテ現ハサレルト云フコトハ、ドウ云フモノカト思フノデアリマスガ、現ニ本法ハ政府事業ニ適用セズト云フコトハ、是ハ政府自ラ拍車ヲ掛ケテ民間事業家ニ斯ウ云フコトハ委シテ置ケナイト云フコトノヤウニモ思ハレルノデアリマス、此ノ法令ガ愈々實現致シマシタ時ニ、サウ云フコトニ於テ是ハ社會思想上、又國家產業トニ仲間入ヲセラレルヤウナ、サウ云フコアリマスガ、是ハ矢張リ政府モ斯ウ云フコトヲ此ノ法令ノ上ニ表示セラレルヤウナコトハ御考ニナリマセヌカ、私ハ内務大臣ニ

○國務大臣（潮惠之輔君）　御答へ致シマス、
無論此ノ法案ハ勞働者ノ生活安定、延ヒテ
ハ產業ノ發展、斯ウ云フコトヲ目的ニ致シ
テ居ルコトハ昨日來度々申上ゲタ通リデア
リマスガ、只今民間ニ委シテ置ケナイカラ
ト云フヤウナ御話デアリマスガ、ドウモソ
レハ非常ニ意味ガ廣ウゴザイマシテ、私共
ハ其ノ御言葉ニ對シテハチョット御答ヲ致
シ兼ネルノデアリマス、サウ云フ趣意ヂヤ
ナ、今日迄ハ慣行トシテ民間デ發達ヲシ
テ來タノデアリマスケレドモ、此ノ儘デ置
キマスト云フト、折角必要ナスウ云フ制度
モ普及ノ度ガ遅々トシテ居ル、普遍スルコ
トガ遅レル、ソレカラ又今日迄アル慣行ノ
上デ見マシテモ、色々ナ事情カラシテ往々
ニシテ紛争ヲ起スコトモアル、折角給與ノ
規定ガアリマシテモ、之ヲ運用スル上ニ於
テ測ラザル紛議ガ起ルコトモアル、サウ云
フコトデアルカラ成ルベク之ヲ普及サセ、
又成ルベク合理化ヲサセテ行カウト云フノ
ガ趣意デアリマスルノデ、決シテ民間ニ對
シテ、不信任ダノ、不信用ダノト云フヤウ
ナ考ヲ持ツテ居ルノデヤナイノデアリマス
カラ、此ノ點ヘドウゾ誤解下サラナイヤウ
ニ願ヒマス、サウシマシテソレナラバ斯ウ

ノカト云フ問題ニナルノダト思ヒマス、出
來ルダケ速カニ、今日迄デモ斯ウ云フ制度
アリマスケレドモ、其ノ時機ヲ得マセヌ、
今日ハ相當産業界モ活氣ガアル時デアリマ
ス、極ク不況ノ時代ナドニハ斯ウ云フコト
ヲ始メルノハ適當デナイ、今盛ナ時機デア
ルカラ、斯ウ云フ勞働者ニモ事業主ニモ、
法律ヲ以テ或程度ノ負擔ヲ願フト云フヤウ
ナコトハ、此時節ガ宜イ、サウシテ置イ
テ後日ニ備ヘルト云フコトガ相當デアラウ
ト云フヤウナ考デ、時機トシテハ今ヲ選ン
ダト云フコトニナッテ居ル譯デアリマス、ソ
レカラ又官業ニ對スルコトハ、先程カラ度
度御話モ出マシテ、政府委員ガ御説明申上
ゲタ通リデアリマス、官業ニ適用シナイト
云フコトニ付テハ色々御意見モゴザイマセ
シタト思ヒマスガ、要スルニ政府トシテハ
ウケレドモ、政府ノ考ヘテ居ル所ハ政府委
員ノ説明ノ通リデアリマス、大體御答ヲ申
是非斯ウ云フ法制ヲ立テ行クト云フコト
ガ、最モ必要ダト考ヘテ居ルコトダケ一言
附加ヘテ申上ゲテ置キマス

ス、私へ此ノ自分ノ意見ヲ先キニ申上ダマセ
ヌト誤解ヲ招ク虞ガアリマス、退職手當積
立金ト云フヤウナモノハ、「ヨーロッパ」ニハ
ナクテ、日本ニノミ特ニ發達シタ一ツノ家
族制度ノ現レデアルノデゴザイマスカラ、
是ハ實ニ日本獨特ノ一ツノ制度トシテ、勞
資ノ間ノ一ツノ協調的制度トシテ、之ヲ保
存致シタイト云フノガ私共ノ豫テヨリノ希
望ナノデアリマス、詰リ「ヨーロッパ」デ申
シマスト云フト、葉書一枚ヲヤレバ即日勞
働者ヲ解雇スルコトガ出來ル、又使用人ヲ
解雇スルコトガ出來ル、若シ解雇シタ時ニ
ハ、一文モ一錢モ解雇手當ト云フヤウナモ
ノヲヤラナイデ、其ノ儘デ宜イノデゴザイ
マス、「ヨーロッパ」ノ今日ノ勞働制度カラ
申シマスト……、日本ハ之ニ反シテ我々ガ
家庭デ女中ヲ雇ヒマシテモ、書生ヲ傭ヒマン
テモ、長ク勤メテ吳レタ、誠ニ辱イ、折角勤直
ニ、忠實ニ、働イテ吳レタケレドモ、家ノ都合
デオ前サンヲ寵メナケレバナラヌカラ、是ハ誠
ニ少イケレドモ是ダケヲ今迄ノ功勞トシテ、能
ク忠實ニ、働イテ吳レタカラ上ゲル、是デ家
ハマア暇ヲ出スガドウゾ宜シク、斯ウ云フ
ノデアリマスカラ、其ノ點ハ「ヨーロッパ」ノ勞
働制度ト日本ノ社會制度、家族制度ト云フ

モノハ非常ニ違ガアルノデアリマス、ソコ
デ其ノ家族制度ノ現レガ此ノ日本ノ産業ノ
中ニ織込マレテ、サウシテ此ノ職工ヤ其ノ
他使用人ヲ解雇シタリ、或ハ退職ノ場合ニ
幾ラカ恩惠的ト申シマスカ、謝禮的ト申シ
マスカ、感謝的ト申シマスカ、色々ノ意味
ヲ含ンデ、若干ノ包金ヲ出スト云フヤウナ
コトガ發達シテ、今日ノ此ノ社會ニ於テ退
職金制度ト云フモノガ生レタノデゴザイマ
ス、ソレデ先般社會局ニ於キマシテ失業對
策委員會ガゴザイマシテ、其ノ失業對策委
員會デ日本ニモ失業保険制度ヲ施行シタイ、
試ニ失業保険制度ヲ政府ガ補助金ヲヤッテ、
サウシテ共濟組合ノ内ニ失業保険制度ヲ設
ケサセテ、政府ハ之ヲ獎勵シテ實行シテ見
タイト云フ發案ガゴザイマシタ、是ハ政府
當局ノ方カラサウ云フヤウナ發案ガゴザイ
マシタ時ニ、私共ハ日本ニ此ノ失業保険制
度ヲ施行スルト云フコトハ、假令試驗的ト
雖モ宜シクナイ、日本ノ產業ナリ、日本ノ
社會ニ、「ヨーロッパ」デ散々ニ手古摺ツテ失
敗シテ居ル所ノ失業保険制度ナドヲ設ケル
ト云フコトデ、ソレニ反対ヲ致シタノデアリ
マス、其ノ反対ヲ致シマシタ理由ノ中デ主
ナル理由ハ、日本ニハ此ノ退職手當金制度

ガアルカラ、之ヲ助長シテ旨ク利用シ行
ケバ「ヨーロッパ」ノ失業保険制度ヨリハヨ
リ良キ效果ヲ現スグラウト思フカラ、之ヲ
發達助長セシメテ參リタイト云フコトヲ私
共ハ大イニ主張致シマシタ、ソコデ失業保
険制度ト云フモノハ大藏省ノ容ル、所トナ
ラズシテ、是ハ其ノ儘トナリマシタガ、其
ノ結果トシテ退職手當金制度ト云フモノヲ
今度法制化スルト云フコトニナリマシタ、
ソコデ失業對策委員會デ此ノ退職手當金制
度ト云フモノヲ、法律ヲ以テ設ケヨウト云
フ案ガ政府ノ方カラ提出サレマシテ、約二
年間バカリ之ヲ練リマシタ、ソコデ其ノ時
ニ當リマシテ私共ノ考ヘマシタノハ、是ハ
家族制度ノ一ツノ現レデアツテ、日本ノ一ツ
ノ美風デアツテ、溫情的ニ發達シタモノデア
ルカラ、之ヲ法律ニ定メテ、權利ト義務ニ
シテシマフト云フコトハ如何ニモ冷イ關係
ニナツテ、恰モ「ヨーロッパ」ノ產業制度ノヤ
ウナモノニ是ハナツテシマフ、少シモ温イ所
ガナイ、日本產業上ニ非常ニ重大ナ影響ヲ
及ボスカラ、之ヲ法制デ定メルト云フコト
ハイケナイ、例ヘバ女中ヲ解雇致シマス時
ニモ、二箇年ナリ、三箇年勤續シタカラ、
法律ヲ以テ帶ヲ一本給與シヨウト云フヤウ
ナコトヲ規定致シマシタナラバ、我ガ國ノ

家族制度ノ中ニ非常ニ弊害ガ起ツデヤリ切
制度ヲ設ケナイ方ガ宜シ、矢張リ飽ク迄
ガ宜シト云フノガ私共ノ意見デアッタノ
デアリマス、ソコデ段々ソレガヤカマシクナ
リマシテ、御承知ノ通リニ勞働者ニソレダ
ケノ権利ヲ與ヘテ行ク、即チ勞働者保護立
法ニ對シテ、資本家側ガ反對スルト云フコ
トハ不都合デアルト云フヤウナ議論モゴザ
イマシタケレドモ、我々ハ眞ニ此ノ勞働者
ノ爲ヲ思ヘバ、必ズシモソレニ屈從スル譯ニ
ハ行カヌ、却テ日本デハ成ルベク此ノ退職手
當金制度ト云フモノヲ、法律ニ依ラズシテ民
間ノ力デモウ少シ發達サセテ、サウシテ
勞働者ニ餘計ナ給與ヲ與ヘルヤウナ制度ヲ
考ヘヨウ、ソレガ一番我ガ國ノ利益デアル
ト云フコトヲ考ヘマシテ、之ヲ法制化スル
ト云フコトニ反対致シマシタ、サウシテ一
方デハ、團體保険制度ト云フヤウナモノヲ
設ケテ勞働者ノ生活ヲ保険スル、退職ノ手
當ヲ保険スルト云フヤウナコトヲ致シマシ
テ、法律以外ニ、我々事業主ノ力ヲ以テ此
ノ勞働者ノ退職ノ場合ニ救助スル所ノ一ツ
ノ組織ヲ作ツタリ、色々致シテ努力ヲ致シテ
居リマシタ、デ、今回ニナリマシテ、之ヲ

モ今日庶政一新ノ場合ニ、資本家側ガ勞働者ニ僅カノ利益ヲ與ヘル所ノ制度ニ反対スルコトハ宜クナイ、主義ハ如何デアラウトモ、實際ノ、實質上ニ於テ勞働者ガ、之ヲ希望スルナラバ、讓歩シテ此ノ制度ヲ立法化スルコトニ贊成ヲシヨウデヤナイカト云フコトニナリマシテ、之ニ大體ニ於テ贊成ヲ致シタノデアリマス、ソレガ私共ガ制度ノ法制化ト云フコトニ贊成シタ理由デアリマス、併シナガラ此ノ政府ノ御提案ニナッテ居ルヤウナ制度ニ私共ハ贊成ハ實ヘ致シテ居ルノデヤアリマセヌ、何トナレバ、此ノ制度ノ中ノ、此ノ政府ガ今度議會ニ御提出ニナッタ制度ノ中ノ一番ノ缺陷ト申シマスルモノヘ、私ノ見ル所ニ依リマスレバ、政府ハ、大資本家、大事業家ト、ソレカラ中小商工業者、之ヲ混同シテ居ル嫌ヒガゴザイマス、大資本家ノ方ハ、基礎モ確實デアリマスシ、ソレカラ相當ノ此ノ勞働者ノ待遇法モ完備致シテ居リマスカラ、斯ウ云フ制度ヲ御設ケニナリマシテモ實質ニ於テハ大シタ苦痛ハナインデアリマス、或ハ言ヒ方ニ依リマシテハ、殆ド苦痛ガナイト申シテモ差支ヘナイ、之ニ反シテ中小工業ノ方ハ、第一此ノ負擔ト云フモノガ殖エルト云フコ

トガ非常ナ苦痛デアリマス、其ノ次ニハ角ス、デ、中小工業ノ實例ヲ申上ゲルト云フコトハ、時間ガ掛リマスルカラ省略致シマスガ、此ノ中小工業ハ資力ニ於テモ貧弱デアリマスルシ、ソレカラシテ從ツテ今ノ組織ガ主ム人ガ職工デアリ、支配人デアリ帳簿方デアッテ、オカミサンガ賄方デアッテヤツテ居ルト云フヤウナノガ多イノデアリマスカラ、斯ウ云フムヅカシイ法律ヲ施行サレルト云フヨトニナルト其ノ手續ガ非常ニ苦シイ、其ノ二ツノ點ニ於テ中小工業ハ到底此ノ負擔ニ堪ヘナイト云フコトハ、是ハマア明カナンデアリマス、ソレデアリマスカラ之ヲ政府ガ若シ此ノ法律ヲ以テ御ヤリニナルナラバ、大工業ノ方ニ御ヤリニナツデ、中小工業ハ又別途ニ、中小工業ノ立行クヤウニ、労働者ノ立行クヤウニ、労働者ヲ保護シ、サウシテ中小工業モ立行クヤウナ、別途ノ方法ヲ御考ニナツテ、別々ノ法制ヲオ作リニナルナラバ、斯ウ云フヤウナムヅカシイ法律ヲオ作リニナラヌデ、コンナ難解ナ法律ヲ作ラヌデモ、相當ノ立法ガ私ハ出來ルト思フ、然ルニ資力ノ薄弱デアッテ、非常ニ困難シテ居ル所ノ中小工業ヲモ、相當ナ資力ガアッテ餘

裕綽々ト經營シテ居ル大工業モ皆一律一體ニ此ノ法律デ御ヤリニナリマセウトシマスカラ、斯ウ云フムヅカシイコトガ出來タノデアル、ダカラ先刻モ御話ガアリマシタガ、此ノ勞働者ノ積金ヲ資本家ニ預ケテ置ケバ六分ナリ七分ナリ高イ利息ガ貰ヘルモノ、此ノ郵便貯金ニ強ヒテ預ケテ、而モ一人一人ニ通帳ヲ渡スノデアリマスカラ、千人ノ職工ガアレバ毎月其ノ通帳ニ之ヲ記入シテ、千人分ヅ、毎日記入シテ行カナケレバナラスト云フヤウナ、ソンナ煩瑣ナコトヲシナイデモ、大資本家ナラ大資本家ガ預ッテ高イ利益ヲ支拂ッテヤレバ、手續モ省ケルシ、勞働者モ喜ブ、ソレガ出來ナイト云フノハ、諷訪ノ製絲工場デ退職積立金ヲ費消シテシマッテ支拂フコトガ出來ナカッタカラ、之ヲ防止スル爲ニ、斯ウ云フ煩瑣ナ手續ヲ設ケルト云フ御説明デアリマシテ、恐ラク立法ハサウ云フ御趣旨デアリマセウガ、サウ云フ小業家デソンナ束縛スル爲ニ、一般ノ大工業全部此ノ法律ノ中デ束縛シヨウト思フカラ、コンナ無理ガ起ルノデアル、デアルカラ本來ヲ申シマスト、此二ツヲ別々ニシテ、立法上デ御考ヘニナルト云フコトガ一番

ソレデ大臣ガ昨日モ本會議ニ於テ御説明ニナリマシタ、今日モ此ノ席上ニ於テ御説明ニナツテ、今日ノヤウニ此ノ産業ノ隆盛ナ時ニ、此ノ法律ヲ施行スルコトガ、宜シインダト云フ御説明ガアリマシタガ、是ハ社會局ノ失業對策委員會以來ノ問題ナンデス、此ノ産業ガ隆盛ダト云フノハ大工業ノコトナンデス、中小工業ハ決シテ隆盛デヤナイデス、若シ隆盛デアルトルナラバ、其ノ資料ヲ御提出ヲ願ヒタイ、私ハ社會局ノ此ノ失業對策委員會ニ於テ、政府カラ隆盛デアルト云フ資料ヲ頂戴シタ時ニ、段々調べテ見タラバ一割ノ配當ガ出來ルト云フコトデアッタカラ驚イテ、八分トカ一割ノ配當ガ出來ルト云フコトデアッタカラ驚イテ、ソニアニドウモ中小工業ハ利廻リガ良イ譯ハナイガ、何カ調査ノ間違ガアリハシナイカト云フコトヲ調べテ見タラバ、其ノ中小工業ノ主人、妻君、其ノ子女ノ勞働シテ居ル所ノ勞働賃金ヲ只ニ勘定シテ居ル、其ノ賃金イ計算ニナル、斯ウ云フヤウナコトヲ發見テ勘定スレバ非常ナ損ニナル、非常ニ苦シシテ驚イタコトガアルノデス、サウ云フノデ今其ノ中小工業ハ非常ニ困難シテ居ッテ、サウシテ少シモ之ヲ救濟スル途ハ立ツテ居ラヌノデアリマス、政黨ノ方デモ中小工業

トカ、農民ノ救濟ハ叫バレテ居リマスケレドモ、色々ノ案ガアルケレドモ實際上ノ適切ナ案ト云フモノハナイ、實行ノ可能ノ案ト云フモノハナイ、唯掛ケ聲デアリマス、ソレデアルカラ中小工業ハ之ヲ救濟スペキ今日ノ現状デハナインデアリマス、此ノ立法ニ依ルト中小工業ハ相當ノ彈壓ヲ受ケル譯ニナリマス、之ヲ此處デ明カニ申上ゲマス、大產業、大工業ニ於テハ是ハ此ノ法律ヲ施行セラレテモ大シタ苦痛ハゴザイマスマイ、ケレドモ中小工業ハ此ノ儘施行セラレマシタナラバ非常ナ苦痛ヲ蒙ッテ、非常ナ經濟上ノ打擊ト、手續上ノ打擊ト兩方カラ非常ナ彈壓ヲ加ヘラレルコトニナルト云フコトハ、私共ハ明カナコトト思フノデアリマシテ、ソレデアリマスカラ甚ダ大臣ノオマシテ、ソレデアリマスケレドモ、實際ニ於テハ前カラノ行掛リ上サウ云フ實情デアルノガ財界カラ購買力トシテ失ハレルノデアリマスガ、是ハ一面ニハ財界ノ不景氣ヲ齎シ、又一面ニハ職工ノ退職ト云フヤウナコトヲ助長スルヤウナ傾向ヲ持チマスヤウモゴザイマスケレドモ、時間ガ参リマシタイト思ヒマス、ソレデ色々申上ゲタイコトナ次第デアリマスガ、又考ヘ方ヲ變ヘマシテ、此ノ退職積立金積立ニ要シマスル金ハ、將來資本主ガソレラ負擔スルヤウニ轉嫁サレルト考ヘマスニシマシテモ、職工ノ額ニ汗シテ得タル賃金ノ中カラ、百分ノ二ヲ積立合員ノ掛金ト云フモノハ、約二十萬ノ從業

時ニドウゾ御出ヲ願ヒマス
午後零時十一分休憩

午後一時五十九分開會

○委員長(伯爵林博太郎君) 是ヨリ午前ニ

引續キマシテ、特別委員會ヲ開會致シマス、ソレデハドウゾ質問ヲ續行シテ戴キタ

イ、ソレデハ安場君ノ先程ノ御要求ニ關シマシテ、大藏當局ガ見エマシタカラ、ドウ

ソ……

○男爵安場保健君 大藏當局ガ見エマシタカラ、重ネテ御伺ヒ致シマスガ、今回ノ此

ノ退職積立金法案ニ依リマスルト云フト、結局職工ノ受ケマス賃金ノ中カラ積立テマス

退職積立金ガ、退職ヲセザレバ拂戻ヲ受ケマスニカラ、結局職工ノ購買力ガ、退職金ヲ

貰フノヲ差引イテモ、約一千萬圓近クノモ

マシタガ、大藏當局ト致シマシテ見ル所ニ

依リマスルト、退職積立金ト致シマシテ勞

働者ノ賃金カラ其ノ百分ノ二ヲ控除致シマスナレバ、ソレハソレダケ購買力ハ、理論的ニ考ヘマスルト云フト、削減セラレルコト

ハ仰セノ通リデアリマスケレドモ、既ニモ

ウ從來斯カル積立金ヲヤツテ居ル場合モ多

アリマスシ、殊ニ官業勞働ノ如キニ至リ

マスト云フト、國有鐵道ニ於テ、共濟組

合員ノ掛金ト云フモノハ、約二十萬ノ從業

保留スルト云フコトニナリマス結果ハ、生活ノ不安、家計ノ不如意ト云フコトノ極ク微細ナ所ニ影響ヲ齎シマシテ、社會不安ヲ増進シハシナイカト云フコトヲ疑フノデアリマスガ、之ニ關スル大藏當局ノ御觀察ヲ承リタイト思ヒマス

○政府委員(中島彌園次君) 只今安場男爵カラ御尋ノ點ニ付キマシテ御答辯申上ゲマス、退職積立金ト致シマシテ、賃金ノ中カラ其ノ百分ノ二ヲ控除シマシテ積立テル結果、ソレハ廳テ産業資金トナルコトハアリマセウガ、又勞働者ノ購買力ハソレダケ削減セラレルト云フトヲ申サレ、又是ガ經濟界ニ及ボシ、又生活ニモ影響シ、社會不安トナルコトハナイカト云フ御質問デアリマシタガ、大藏當局ト致シマシテ見ル所ニ依リマスルト、退職積立金ト致シマシテ勞働者ノ賃金カラ其ノ百分ノ二ヲ控除致シマスナレバ、ソレハソレダケ購買力ハ、理論的ニ考ヘマスルト云フト、削減セラレルコトハ仰セノ通リデアリマスケレドモ、既ニモウ從來斯カル積立金ヲヤツテ居ル場合モ多アリマスシ、殊ニ官業勞働ノ如キニ至リマスト云フト、國有鐵道ニ於テ、共濟組合員ノ掛金ト云フモノハ、約二十萬ノ從業

員ニ對シマシテ、是亦九百萬圓以上ニ上ボツテ居ルヤウナ狀態デアリマシテ、是等ト同ジヤウナ現象、狀態ガ多々アリマス次第デアリマシテ、且是等ノ積立テマシタ金額ト云フモノハ、全體ト致シマシテモ、今度ノ場合ハ、今安場男爵カラモ仰セラレマシタ如クニ、一千萬圓足ラズ、九百萬圓ソコノ金額デアリマシテ、實際ニ經濟界ニ影響スルコトハ殆ドナイト言ウテ宜シイノデアラウト思ヒマス、又此ノ積立金ハ、此ノ法律ニ依リマシテ確實ニ積立テマスル結果、產業資金トナリマシテ、間接ニ又購買力トナツテ參リマスノデ、產業資金ト勞働者ノ購買力トノ間ニハ、直グ勞働者ノ懷ロカラ直接消費トナツテ落チル場合ト、今ノ銀行預金或ヘ金錢信託、其ノ他郵便貯金或ヘ登録國債ト云フヤウナ、第二十條ニ依リテ規定シテアルヤウナ方面ニ積立テ得テ、間接ニ產業資金ニ變ツテ行ク場合トハ、ソレハ觀念的ニハ相違ラシテ來マスケレドモ、何十億ト云フ購買力ノ發生スル源トナル金融ノ動きカラ見マシタナレバ、殆ド微々タル影響デアリマシテ、經濟界ニ及ボスコトニ付キマシテハ、購買力ト云フ點カラ見レバ、又サホド心配スルニハ及バナイト考ヘル次第デゴザイマス、而シテ勞働者ノ賃金ノ

中カラ百分ノ二ヲ差引イタダケニ於テ、ソレガ生活ニ影響致シ、社會不安ノ原因トナルト云フコトニ付キマシテハ、内務當局カラ御答ヘスル方ガ本當デアラウト思ヒマスルガ、大藏當局ノ考ト致シマンテハ、百分ノ二ヲ直接ニ消費サセズニ、將來ノ積立金トシテ残スコトニナリマスカラ、却テ貯蓄心ノ養成トナリ、又不時ノ場合ニ於ケル、困ッタ時ノ備ニモナルト云フ考カラ致シマシテハ、百分ノ二ノ程度ニ於テハ、生活ノ脅威、或ハ社會不安ノ原因トナルト云フヤウニハ、私共考ヘテ居ナイノデアリマス、甚ダ簡単デアリマスガ、是ダケ御答へ致シマス

○男爵安場保健君 只今ノ御説明ヲ伺ヒマスルト、購買力ニハ餘リ影響ガナイト云フ御意見デゴザイマスガ、勞働者ノ懷ロノ中ニ入リマス金ノ中ノ一圓ナリ一圓ナリト云フモノハ、遠クカラ通ヒマス者ハ電車賃トナリ、或ハ又盆暮ニ於ケル所ノ多少ノ歡樂費トナリ、極ク零細ナル資金ヲ積立テル人ニハ、又ソレガ將來ノ資金トシテ此ノ法案ニ依シテ保護サレルヨリモ、ヨリ好キ利率ニシテハ、購買力ト云フ點カラ見レバ、又サホド心配スルニハ及バナイト考ヘル次第デゴザイマス、而シテ勞働者ノ賃金ノ

中カラ百分ノ二ヲ差引イタダケニ於テ、ソレガ生活ニ影響致シ、社會不安ノ原因トナルト云フコトニ付キマシテハ、内務當局カラ御答ヘスル方ガ本當デアラウト思ヒマスルガ、大藏當局ノ考ト致シマンテハ、百分ノ二ヲ直接ニ消費サセズニ、將來ノ積立金トシテ残スコトニナリマスカラ、却テ貯蓄心ノ養成トナリ、又不時ノ場合ニ於ケル、困ッタ時ノ備ニモナルト云フ考カラ致シマシテハ、百分ノ二ノ程度ニ於テハ、生活ノ脅威、或ハ社會不安ノ原因トナルト云フヤウニハ、私共考ヘテ居ナイノデアリマス、甚ダ簡単デアリマスガ、是ダケ御答ヘ致シマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 大藏關係ノモノハモウ宜シウゴザイマスカ

○男爵安場保健君 モウ宜シウゴザイマス

○政府委員(赤松小寅君) 私カラ御答ヘ致シマス、百分ノ二ノ程度ノ積立デアリマスルナラバ、先程御答ヘ致シマシタヤウニ、

○男爵安場保健君 只今御話ノヤウニ、貯金其ノ他ラシテ居ル所ガアルト云フ御話デゴザイマシタガ、是ハ只今ノ制度ニ於キマシテハ、大抵ハ拂戻ヲ受ケ得ル制度ノ下ニ貯金ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、今回ノ法案ノヤウニ、絶對ニ退職セザレバ拂戻スコトヲ得ズト云フ規定ノ下ニヤツテ居ルノデナイト思ヒマスガ、其ノ點如何デゴザイマスカ

○政府委員(赤松小寅君) 御説ノ通り任意貯金ノ方ガ、今正確ナ數ヲ承知シテ居リマヌガ、全體ト致シマシテハ多イノデアリマスガ、中ニハ工場ニ於キマスル強制貯金

中カラ百分ノ二ヲ差引イタダケニ於テ、ソレガ生活ニ影響致シ、社會不安ノ原因トナルト云フコトニ付キマシテハ、内務當局カラ御答ヘスル方ガ本當デアラウト思ヒマスルガ、大藏當局ノ考ト致シマンテハ、百分ノ二ヲ直接ニ消費サセズニ、將來ノ積立金トシテ残スコトニナリマスカラ、却テ貯蓄心ノ養成トナリ、又不時ノ場合ニ於ケル、困ッタ時ノ備ニモナルト云フ考カラ致シマシテハ、百分ノ二ノ程度ニ於テハ、生活ノ脅威、或ハ社會不安ノ原因トナルト云フヤウニハ、私共考ヘテ居ナイノデアリマス、甚ダ簡単デアリマスガ、是ダケ御答ヘ致シマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 大藏關係ノモノハモウ宜シウゴザイマスカ

○男爵安場保健君 只今御話ノヤウニ、貯金其ノ他ラシテ居ル所ガアルト云フ御話デゴザイマシタガ、是ハ只今ノ制度ニ於キマシテハ、大抵ハ拂戻ヲ受ケ得ル制度ノ下ニ貯金ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、今回ノ法案ノヤウニ、絶對ニ退職セザレバ拂戻スコトヲ得ズト云フ規定ノ下ニヤツテ居ルノデナイト思ヒマスガ、其ノ點如何デゴザイマスカ

○政府委員(赤松小寅君) 御説ノ通り任意貯金ノ方ガ、今正確ナ數ヲ承知シテ居リマヌガ、全體ト致シマシテハ多イノデアリマスガ、中ニハ工場ニ於キマスル強制貯金

テハ、御承知ノ通リニ是ハ預金部ニ集リマシテカラ、此ノ金ガ種々ノ方面ニ、地方ニ向ツテモ還元サレマスシ、貸付モ行ハレテ居ルノデアリマス、ソレハ私ガ此處デ説明スル迄モナク藤原サンニハ御承知ノコトグラウト思ヒマス、又銀行ノ預金トナツテ行ク場合ニ於キマシテハ、是ガ産業資金トナツテ、産業界ニ注ガレルノデアリマス、金錢信託亦同ジヤウナ工合ニナリマスルカラ、安場男爵ガ御尋ニナツタ場合ノ、労働者ノ直接ニ是ガ購買力ニナツテ現レテ來ル場合ト、斯ウ云フ郵便貯金、銀行預金、金錢信託、是等ノ場合ヲ通ジテ來ル場合トノ違ヒダケデアリマシテ、間接ト直接ノ違ヒ、金ノ廻り方ノ速度ノ違ヒダケデアリマシテ、固定シテ是ガ寢テ居ツテ、藏ノ中ニ何モ働くカズニ居ルト云フ譯デアリマセヌデスカラ、假令ソレガ五千萬圓ニセヨ、一億萬圓ニ致シマシテモ、金融界ニ及ボス影響ト致シマシテハ、非常ニ微々タル……、又觀念上絶對ニ無イトハ言ヘマセヌデアリマセウケレドモ、微々タルモノデアラウト思ヒマス、現ニ官業勞働ニ於キマシテハ海軍省、是ハ矢張リ男工ニアツテハ千分ノ四十七、女工ニアツテハ千分ノ二十、ソレカラ陸軍省モ千分ノ三十二、大藏省モ專賣局ニ於キマシテハ千分

ノ五十五、ソレカラ造幣局ニ於キマシテハ千分ノ五十、印刷局ニ於キマシテハ千分ノ五十、鐵道省ニ於キマシテハ一番ノ官業勞働デ、從業員モ含ンデ居リマシテ、而モ是ニ於キマシテハ千分ノ五十六、ソレカラ内務省ノ土木局關係ノ労働者ニ於キマシテモ千分ノ五十ト云フヤウナ工合ニ、殆ド是ト同巧異曲ナル仕組ニ依リマシテ、是ハ共濟組合其ノ他ノ退職手當金給與ノ場合ニ於ケル準備ト致シマシテ是ダケノモノヲ職工ノ月々ノ賃金カラ差引イテ預ッテ居ルノデアリマシテ、而シテ之ガ金額ハ先ニ申シマシタヤウナ工合ニ、先ニ鐵道省ダケデモ一年ニ昭和九年末ニ於キマシテハ九百萬圓程度ノ掛計ヲ合セテアリマセヌガ、鐵道省ダケニ於ノガ公債投資トナツテ居ルヤウナ情況デアリマシテ、藤原サンノ仰シヤイマシタヤウナ御懸念ガアリマストスレバ、是ガ全體ノノデアリマスガ、約一億五千萬圓モ集ツタモノガ公債投資トナツテ居ルヤウナ情況デアリマシテ、既ニ金融界ニ及ボス影響ト顧みズシテ、左様ナ法案ヲヤラウト云フ趣意デヤナインデアリマス、仰セノ通リニ、考ヘマスレバ労働者ガ懷ロニ入リマスル賃金ヲ其ノ儘持ツテ、之ニ依ツテ諸物貨ノ購買ニ充テルト云フコトハ、是ハ普通ノ狀態デアリマスガ、ソレヲ百分ノ二ニシマシテモ、一應積立テマシテ行クト云フコトハ、其ノ點カラ見レバ大藏政務次官ノ話ニモアリマシタヤウニ、考トシテハソレハ違ツテ來ルト思フ、併シナガラ此ノ積立金ガ全然死藏サレルモノデヤアリマセヌ、直接間接

ノ金トナリ、銀行預金トナリ、或ハ金錢信託トナリ或ハ國債投資トナリマシテ、是ガ直接若シクハ間接ニ金融界ニ投資トナリ、若シクハ是ガ産業投資ニナツテ行ツテ居ルノデアリマスカラ、決シテ此ノ法案ダケガ是ガ全體ノ金融ヲ阻止スル途ヲ作ル一ツノ端緒トナルト云フコトハ私ハ言ヘスマラウト思ヒマス、甚ダ簡単デアリマスガ……

○男爵安場保健君 只今ノ御話ノ中ニ、成程事業主ノ方カラ積立テマスル分ト、先程御話ノヤウニ貯金トナツテ居ル分ガ、他ノ資金トナツテ運轉サレテ居ルト云フコトヘ、間接ニハ購買力ヲ養ツテ居ルト云フコトヘ、私共モ勿論認メマスガ、今度ノ此ノ法令ニ依ツテ積立テマス職工ノ詰リ百分ノ二ト云フモノハ、現實ニ是ハ購買力ヲ封鎖スルノデアリマシテ、百分ノ二ノ中カラ退職シタ者ダケガ拂戻ヲ受ケマスカラ、ソレノ拂戻ヲ受ケタ者ガ又購買力ヲ恢復シマスケレドモ、其ノ差ガ相當ナ巨額ナモノニ達スルトモ、其ハ勘定シテ居ルノデアリマス、デ此ノ事ハ國內ニ於ケル所ノ全產業ニ對スル一ツノ私ハ勘定シテ居ルノデアリマス、デ此ノ事確カニ脅威デアルダラウト思フノデアリマス、現内閣ノ庶政一新ノ御建前デ、此ノ際

政治ニ御與リニナリマスニ際シマシテ、斯クノ如キ不景氣ヲ招來スル原因トナルヤウクノ如キ不景氣ヲ招來スル原因トナルヤウ

○國務大臣(潮惠之輔君) 御尋デゴザイマスガ、決シテ此ノ内閣ハ不景氣ノ招來ヲ顧みズシテ、左様ナ法案ヲヤラウト云フ趣意デヤナインデアリマス、仰セノ通リニ、考ヘマスレバ労働者ガ懷ロニ入リマスル賃金ヲ其ノ儘持ツテ、之ニ依ツテ諸物貨ノ購買ニ充テルト云フコトハ、是ハ普通ノ狀態デアリマスガ、ソレヲ百分ノ二ニシマシテモ、一應積立テマシテ行クト云フコトハ、其ノ點カラ見レバ大藏政務次官ノ話ニモアリマシタヤウニ、考トシテハソレハ違ツテ來ルト思フ、併シナガラ此ノ積立金ガ全然死藏サレルモノデヤアリマセヌ、直接間接

ゴザイマスルカラ、幾分ソコニ觀念上違ツタ

所ハアルト致シマシテモ、一面ニ於キマシテハ勞働者ノ生活安定ヲ圖ルト云フコトハ、矢張リ國民生活ノ安定ト云フコトノ極メテ大切ナ部分デアルノデアリマスカラ、ソコニ幾分ノ觀念ノ差、又觀方ニ依リマンシテハ多少ノ犠牲ト云フコトハ無イトハ申セマセヌケレドモ、矢張リ斯ウ云フ案ハ此ノ際ドウシテモ、勞働界ナリ產業界ノ實況カラ見テ立テ行ク方ガ適切ダ、斯様ニ考ヘテ居ルノデゴザイマス、勞働者ニモ此ノ程度ノ犠牲ハゴザイマセウ、又事業者ニモ犠牲ヲ拂ツテ貴フノデアリマシテ、是等ノ點ハ雙方局ノ目的、恆久ノ福利ノ上カラハ、矢張リ斯様ナ制度ニ依ルコトガ最モ機宜ヲ得タルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、クレバモ申上ゲマスルガ、決シテ不景氣招來ト云フヤウナコトヲ考ヘタリ、敢テショウト云○男爵安場保健君 私モ内務當局トシテ、其ノ點ハ篤ト御了承ヲ願ヒタイト存ジマス

決シテ惡意デ斯ウ云フコトヲ爲サッタノデ、ハナイグラウト云フコトハ、常識上判断ハ致シテ居リマスルケレドモ、職工ノ懷ロノ百分ノ二デアルカラ、是位ハ差支ナイノデヤ

ナイカト云フ御考ハ、職工ノ日々ノ懷ロ勘定ニ付テ、餘リ考ヘテ御ヤリニナラナイノデハナイデセウカ、唯割合上カラ御出シニナック考デハナイカト思フノデアリマス、ソレデ此ノ退職資金ノ精神ニ付テハ、私モ結構ダト思ヒマスルカラ、退職金積立ノ方面ノモノハ、一應積立テルト云フコトニナレバ、此ノ立法ニ對スル、兩方トモ或程度ノ不自由ヲ忍ンデ、犠牲ヲ拂ツテ積立テルト云フ、觀念上ノ義務ハ既ニ果シテ居ルモノダト考ヘマス、デソレヲ退職マデ拂戾スコトヲ得ズト云フ嚴肅ナル法文ニ依ツテ、絕對ニ縛ツテシマフト云フコトハ、少シク職工ノ懷ロ勘定ノ釣合ヲ見マスルト云フト、酷ニ過ギルモノデハナイカト考ヘラレルノデアリマシテ、其ノ點ニ付キマシテ何等カソコニ緩和ノ策ヲ執ラレルナラバ、別ニ購買力ノ減退モ來サズ、此ノ法律モ行ハレルト云フ、イヤウニ思フノデアリマスルガ、之ニ對シテ内務當局ハドウシテモ之ヲ封鎖シナケレバ、此ノ立法ハ出來ナイト御考デゴザイマ

キニ御答ヲシテ置キマシタガ、成程其ノ時ニ例トシテ引カレマシタノハ、假ニ一圓ノナック考デハナイカト思フノデアリマス、ソレナック考デハナイカト思フノデアリマス、之ヲ一體内務當局ハ些細ノ金ト思フカト云フヤウナ、事例ヲ引イテノ御尋デアリマス、私ハ決シテ些細ナ金トハ思ハナイ、勞働者ニ取リマシテハ、十錢ノ金デモ五錢ノ金デモ、殊ニ現金ナドト云フモノハ重要ナモノデアル、ト云フコトハ存ジテ居リマス、併シ畢竟スルニ、退職當時ニ於ケル勞働者其ノ人ナリ、或ハ其ノ家族ノ生活ヲ安定サセヤウト云フ仕組デ參リマスル以上ハ、其ノ日其ノ日ニ付キマシテ、或ハ忍ブコトガ甚ダ無理デアルカモ知レマセヌガ、忍ビ難キヲモ或る程度ハ忍ビマシテ、其ノ退職時ニ於ケル生活ノ安定ト云フコトニ進シテ行キマスル方ガ、大局カラ見テモ私ハ得策ト考ヘルト云フ御答ヲ致シテ置キマシタ、大體トシテ、其ノ百分ノ五以上ノ配當ノアル場合ニハ積立テルト云フコトニシタノダト云フ、御説明ガアッタノデアリマス、是ハ衆議院デモ無論ナノデアリマセウガ、最モ重要な所デアリマシテ、若シ是ガ其ノ利潤ノ分配ト云フヤウナ觀念ヲ含ムトナリマスト、將來ニ勞働爭議ヲ起スト云フヤウナ憂ガ無論アルノデアリマスルカラシテ、其ノ點ガ餘程我々ニ於テハ考慮サレルノデアリマスガ、ラウト思ヒマス、ケレドモ今申シマスヤウモノデナイト解釋シテ宜シイカ、其ノ點ヲ伺ヒタイ、次ニモウ一つ伺ツテ置キタイノハ、衆議院ノ修正デアリマスガ、是ハ大體ニ於テ政府

リマス

○阿部房次郎君 私ハ第十七條ニ付テ御尋

ヲ致シタイト思ヒマス、此ノ十七條ハ此ノ法案ノ中デハ最モ重要ナ箇條デアリマス、

先程カラ政府當局ノ段々ノ御説明モアリマ

シタノデ、大體ハ了解致シマシタガ、尙大

切ナ條文ダケニ、モウ一ツ茲ニ御確カヌラ

シテ置ク必要ガアルト思フノデアリマス、ソレデ此ノ十七條ノ斯ウ云フ配當金トカ或

ハ利益ニ依ツテ百分ノ三マデ積ムト云フコ

トニシタノハ、先程カラノ御説明ニ依リマ

スト、負擔ノ能力ノアル者ニ負擔シテ貰フ

ガ爲ニ、其ノ負擔ノ能力ヲ測定スル標準ト

シテ、其ノ百分ノ五以上ノ配當ノアル場合

ニハ積立テルト云フコトニシタノダト云

ガ、御説明ガアッタノデアリマス、是ハ衆議

院デモ無論ナノデアリマセウガ、最モ重要

ナ所デアリマシテ、若シ是ガ其ノ利潤ノ分

配ト云フヤウナ觀念ヲ含ムトナリマスト、

論アルノデアリマスルカラシテ、其ノ點ガ餘

程我々ニ於テハ考慮サレルノデアリマスガ、

本文ハ利潤ノ分配ト云フ觀念ハ絶對ニ含ム

モノデナイト解釋シテ宜シイカ、其ノ點ヲ伺

ヒタイ、次ニモウ一つ伺ツテ置キタイノハ、衆

ノ方モ御同意デアルヤウナ、先程カラノ御説明デアリマス、此ノ衆議院ノ修正ニ付テ伺ヒタイ、「第十七條、事業主ハ前條ノ退職手當積立金ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以内ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル金額ヲ退職手當積立金トシテ遲滯ナク積立ツベシ」其ノ次ニ但書ガアリマスガ、御尋ネシタイノハ「勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以内ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル金額ヲ」ト云フコトデアリマス、大體此ノ修正ヲ致シマシタノハ、利潤ノ分配ト見レバ労働者ノ紛議ガ起ルカラ、ソレデハイカヌト云フコトガ主ニナッテ修正サレタト思ヒマスガ、サウ致シマスナレバ、其處ヲ餘程一ツ確カメテ置カナイト云フト、條文ヲ變ヘタケレドモ又矢張リ前同様ノ茲ニ誤解ガ生ジテ來タノデアリマスカラ、其ノ點ヲ一つ御確カメラ致シタイト思フノデアリマス、一 定ノ……勅令ニ於テ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、斯ウ云フコトガアリマスルガ、ソレト同時ニ行政官廳ノ手心ニ依ツテ勅令ハ御出シニナリマスケレドモ、是ハ行政官廳ノ手心ニ依ツテ勝手ニ積立率ヲ定メラレルト云

フコトニナルト云フト、前ト何等變ル所ガ
ナイノデアリマス、却テ前ヨリ惡イト云フ
ヤウナ結果ニ相成ルノデアリマス、デ此ノ
勧爭議ノ誘致トナルコトノナイヤウナ趣旨
ニテ運用サレルヤウニ願ハナケレバナラヌ
ノデアリマスルガ、其ノ意味デ政府ノ御確
答ヲ得テ置ク必要ガアルト思ヒマスルガ、
是ハドウ云フ風ノコトニ相成リマスルカ、
成ルベク詳シク此ノ點ヲ御説明願ヒタイト
思ヒマス、以上二點ヲ御尋ネ致シマス

○政府委員(廣瀬久忠君) 十七條ハ誠ニ重
大ナ條文デアリマシテ、詳細ニ尙申上ゲタ
イトイ思ヒマス、原案デ、一號、二號ヲ置キ
マシタノハ、先程來申上ゲマシタヤウニ、
負擔ノ能力ヲ測定スル標準ト云フダケノコ
トデアリマシテ、私共ハ利潤分配ト云フコ
トヲ考ヘタノデハゴザイマセヌノデアリマ
ス、ガ併シ其ノ點ニ付キマシテハ色々御議
論モアリマシタシ、尙一つ十七條全體ノ取
扱ニ付キマシテ、モウ一度詳細ニ申上ゲマ
シテ御参考ニ供シタイト思ヒマスガ、十七
條ニ付キマシテ是ガ修正セラレマシタ原因
ヲ申上ゲ、尙修正案ノ理由竝ニ其ノ取扱方
針ト云フヤウナコトニ付テ申上ゲタイト思
ヒマスガ、原案ハ先程來申上ゲテ居ルヤウ

二、負擔能力ノ測定方法ヲ定メルト云フノ
ガ趣旨デアリマスケレドモ、矢張リ是ハ見
方ニ依レバ利潤分配ノ觀念ガ入ッテ居ルノ
フ工合ニモ見ラレル例ガアツテ、又其ノ結果
ハ労働者ガ企業ニ參加スルヤウナ傾向ニナ
リハシナイカト云フ御心配モアリ、ソレカ
ラ或ハ労働爭議ヲ其ノ爲ニ發スル虞ハナイ
カト云フヤウナ色々ナ御懸念ガアリマシテ、
ソコデサウ云フ懸念ノ爲ニ修正ヲセラレタ
ノデアリマス、サウ云フ御心配ノ爲ニ詰リ
衆議院ニ於テハ之ヲ修正ヲ致シタノデアリ
マス、從ヒマシテ私共ガ此ノ條文ノ將來ノ
施行ニ付キマシテハ、此ノ種ノ懸念ノナイ
ヤウニシナケレバナラスト思ヒマス、即チ
爭議發生ノ虞ノナイヤウナ方法ヲ執ツテ、最
善ノ注意ラシテ、サウ云フヤウナ虞ノナイ
方法ヲ執ラナケレバナラヌト思ッテ居ルノ
デアリマス、ソレカラ修正案ハ、衆議院ニ
於テ説明セラレマシタ如ク、修正案ハ相當
合ニ於テノミ積立ヲセシムル、サウデナイ
場合ニハ積立ヲセシメナイト云フ趣旨デア
リマス、ソコデ積立ヲセシムルカドウカ、
或ハ積立ヲセシムルトスレバ、其ノ金額ヲ

可ト云フ方法ヲ採リ、ソレカラ積立シムルカドウカト云フ積立義務ノ方ニ付テハ、行政官廳ニ付テハ、行政官廳ノ許可ヲ得テ積立ヲセシメナイ場合ガアルト云フヤウナコトヲ、修正案デハ決メテ居ルノデアリマス、デスクノ如ク致シマシテ、特ニ積立テル義務ヲ免除スル場合ニハ、行政官廳ノ許可ヲ要スル、ソレカラ積立テル場合ニ於テモ、其ノ金額ノ決メ方ニ付テハ、行政官廳ノ認可ヲ受ケタ金額デ積立テルト云フヤウニ、修正案ガ決メラレマシタ理由ハ、是ハ矢張リ勞働爭議ヲ發スル憂ガアルノデ、總て行政官廳ガ公平ニ物ヲ決定シテ貰フト云フノガ宜シイト云フ趣旨デ、衆議院ニ於テハサウ云フ修正ヲ致シタノデアリマス、ソレデアリマスルカラ、私共ガ此ノ條文ノ將來ノ施行等ニ關スル取扱ニ於テハ、二ツノ點ニ付テ非常ニ重キヲ置イテ行方ナケレバナラヌト思フノデアリマス、第一ハ此ノ勞働争議ヲ發スルカモ知レヌト云フヤウナ虞ノナイ方法ヲ講ジ、最善ノ努力ヲ拂ツテ行カナケレバナラヌ、モウ一ツハ相當ノ利益ガアッタ場合ニ負擔ノ能力ニ應ジテ或程度ノ負擔ヲサシテ行ク、詰リ百分ノ三以内ノ負擔ヲサシテ行クト云フコトガ公平ニ行クヤウ

ノ方法ヲ執ラナケレバナラヌ、此ノ二ツノ
目安ヲ決メマシテ、サウシテ之ニ應ズル方
法ヲ講ジテ行カナケレバナラスト思ツテ居
ルノデアリマス、其ノ手段或ハ方法ニ付キ
マシテハ、是ハ衆議院ノ附帶決議ニアリマ
スル所ノ此ノ權威アル調査機關ヲ設ケマシ
テ、サウシテ其ノ權威アル調査機關ニ私共
當局ヨリ案ヲ提出致シマシテ、サウシテ十
分ニ御審議ヲ願ツテ、或モノハ勅令ニ行クモ
ノモアリマセウシ、或モノハ省令ニ行クモ
ノモアリマセウシ、或モノハ行政官廳ノ取
扱方針デ行クモノモアリマセウシ、ソレ等
ハ適宜適當ナ方法ヲ執ラナケレバナラヌコ
トト思ツテ居リマス、大體ニ於テ私共ノ考ヘ
方ハ、此ノ爭議ノ發生ノ虞ナキコトヲ期ス
ルコト、ソレカラ尙負擔ノ能力ニ應ジテ公
正ヲ期スルト云フコトノ爲ニ、色々ナ點ニ
付テ尙研究ヲ致シマシテ、調査會ノ意見ヲ
聽イテ決メテ行キタイ、斯ウ云フヤウナ工
合ニ考ヘテ居リマス

機関ニ諮詢シテ、サウシテ此ノ百分ノ三以
内ヲドウスルカト云フコトヲ決メル、決シ
テ行政官廳ノ唯手心デヤルノデナイ、斯ウ
云フヤウニ拜聽致シマシタノデアリマスル
ガ、適當ナ調査機關が出來マシテ、其所ニ
デヤルト云フコトデアルナラバ、或ハ正確
ヲ期スルコトガ出來マセウト思フノデアリ
マスケレドモ、若シ是ガ行政官廳ノ手心ニ
依ツテ決メラレルト云フコトデアルト、前ニ
配當或ハ純益デ何ンボト云フコトヲ決メタ
ヨリハ、一層ソコニ惡例ヲ貽スヤウナコト
ガ出來ハシナイカト私ハ憂フルノデアリマ
スカラシテ、此ノ點ハ只今ノ御説明ニ依リ
マシテ、將來ノヤリ方ハ略々承知ヲ致シマシ
タケレドモ、餘程是ハ重要ナル點デアリマ
スルカラシテ、當局トシテハ一つ慎重ニ御
考ヲ願ハナケレバナラヌコトト私ハ存ジマ
ス、ソレデ其ノ二ツノ説明ハ私ハ略々了解致
シマシタ

ハ労働者ノ積立ハ或程度、世ノ中ノ不安ナク特殊ノ場合ガ生ジタ時ニハ、積立ヲ將來免ジテヤルヤウナ茲ニ條項ガアルヤウニ思フノデアリマスガ、斯ウ云フ條項ニ依ツテ免除スルヨリハ、何カ先程モ申シタヤウニ一遍此ノ法律ヲ制定スル趣旨ガ立ツタナラバ、必要ニ應ジテハ拂戻シテヤルト云フ條項ガ此ノ中ニ是非欲シイヤウニ考ヘルノデゴザイマスガ、サウ云フ風ニ御訂正ニナル意思ハ、政府トシテハ御持合セアリマセヌカ

ド積立ノ目的ヲ達シナイ結果ニ相成ル虞ガ
多分ニアルノデアリマス、尙一面事業主側
ト致シマシテモ、サウ云フコトニナリマス
ルト云フト、常ニ何ノカンノト申シマシ
テ、一旦積立テマシタモノヲ頻々引出シニ
參リマス爲ニ非常ニ手數ガ掛リマシテ、積
立ノ目的ハ達シナイ、而モ事業主ノ手數ハ
極メテ煩雜デアルト云フ結果ヲ招來致シマ
スコトガ、從來ノ經驗ニ見マシテ明カデア
ルノデアリマス、從ヒマシテ本法ノ目法ヲ
達シマス爲ニハ、多少ノ苦痛ヲ忍ビマシテ
モ是ダケノコトヲ嚴ニ致シマスコトガ妥當
デアルト考ヘテ居リマス

○大澤徳太郎君 先程カラモ御話ガゴザイ
マシタ通り、此ノ民間ノ會社トカ工場ニ於
キマシテハ、退職ノ場合ニ別段此ノ法律ノ
規定ガゴザイマセヌデモ、勤務ノ年限ノ長
短デゴザイマストカ、或ハ勤務振リノ如
何、其ノ他特ニ功績ノアッタカナカッタカト
云フヤウナコトニ依リマシテ相當之ヲ査定
ヲ致シマシテ、相當ナ區別ヲ立てテ退職手
當等ヲ給與スル慣例ニナツテ居ルヤウニ存
ジマス、然ルニ本法ニ依リマスルト、勤務
ノ年數トカ、或ハ其ノ功勞ノ如何ト云フヤ
ウナコトニ拘リマセズ一定率ニ依ツテ給與
サレルモノノヤウニ思ハレマス、而モ非常

此ノ利益ノ多イ大會社モ、又比較的の利益ノ少イ小工場モ同一ノ取扱ニナリマスルカラ、却テ其ノ不公平ナ結果ヲ來シマシテ、トカト云フヤウナ美風ヲ一切顧ミヌト云フヤウナ結果ニナリハスマイカト云フコトヲ恐レマスノデゴザイマスガ、此ノ邊ニ付キマシテ政府ノ御意見ヲ伺ヒタ、今一ツハ、先程カラモ御話ノゴザイマシタ此ノ事業主ノ積立金ヲ、只今ノ所デハ千五六十萬圓ト云フ御査定カ存ジマセヌガ、マア段々是ハ事業ガ盛ニナッテ來レバ次第ニ其ノ金額ヲ増シマシテ、數年ノ後ニハ億ト云フ字ノ付ク程ノ厖大ナル金額ニナラウト思フ、成程サッキカラモ色々御説明ガゴザイマシタ通リニ、此ノ金ハ又社會ヘ廻リ／＼マシテ、ソレガ必ズシモ死藏サレルモノトハ存ジマセヌケレドモ、現實ニ之ヲ積立テマシタ、即チ此ノ負擔ヲ致シテ居リマスル事業家ニ取リマシテハソレダケ資金ノ拘束ヲ受ケル譯デス、資金ノ拘束ヲ受ケルト云フコトハ所謂此ノ產業ノ壓迫ヲ意味スルト云フコトニナル、私ハ先程來購買力トカ、金融關係カラノ色々ノ御議論モ承リマシタガ、資金ノ拘束ト云フコトガ產業界ヲ壓迫スル、即チ其ノ發達ヲ阻害スルト云

フ虞ガアリハシナイカ、産業界ガ發達シナケレバソレガ及ンデ事業家モ亦労働者モ共ニ困ル結果ヲ招來スルモノト思ハレマスカラ、其ノ邊ニ付テノ政府ノ御考ヲ承リタイ、ソレカラ條文ノ第二十二條デゴザイマス、之ニ所得稅トカ、營業収益稅、或ハ臨時利得稅ナンカノ免除規定ガアルノデゴザイマスガ、斯ウ云フ規定ハ、會社ガ之ヲ積立金ト致シマシテ、其ノ金ヲ社内ニ保留ヲ致シテ居リマスル場合ニハ、或程斯ウ云フ規定ノ必要ノアルヤウニ了解ハ出來マスノデゴザイマスケレドモ、第二十條ニ依リマシテ、是ハ別ニ他ノ財產ト區分シテ、郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託、或ハ登錄國債ト云フモノニ此ノ金ヲ廻ハセト云フコトニナツテ居リマスト、一旦ハ會社ノ手ヲ離レテシマフ譯ニナリマシテ、サウシテソレハ即チ總損金又ハ必要ノ經費ト看做サレルト云フコトニナツテ居リマスルカラ、免稅ハ當然ナコトデアッテ、別ニ斯ウ云フ特ニ規定ノアル意味ガ了解ヲ致シ兼ネマスノデ、御説明ヲ願ヒマス、ソレカラ今一點ハ、衆議院ノ附帶決議ノ中ニ「小企業ニ對シテハ國費ヲ以テ之ヲ助成スル等適當ノ方法ヲ以テ本法ノ完備ヲ期スベシ」ト云フコトガゴザイマス、政府ガ之ニ御贊成デゴザイマスレ

バ、一體國費ヲ以テ助成スルト云フ方法ニ付テハ何カ御考ガゴザイマスレバ其ノ詳細ヲ御聽セラ願ヒタイノデアリマス、此ノ四點ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス

點ニ付テ從來通リズット永ク勤メタ者ニハ
特ニ澤山ヤラウト爲サル所ニ於キマシテハ
自由ニヤルコトガ出來ルヤウニ相成ツ居ル
ノデアリマス、ソレカラ尙勤務年數、功勞ノ有
無ニ付テノ斟酌ノ問題ハ本案ニ於キマシテ
モ或程度迄從來ノ慣行ヲ採入レマシテ、事業管
理ノ上ニ於キマシテ之ヲ規定スルコトモ出
來マスヤウニ斟酌致シテ居リマス、第十八條
ノ但書ニ於キマシテ此ノ第十七條ニ依リマ
ス特別ノ利益ノアリマシタ場合ノ積立マス金
額ハ敢テ賃金ニ比例シナイデ、或部分ハ勤
務年限、勤務狀態其ノ他異ナル率ニ依リマ
シテ事業主ガ各個人々ニ分ケテヤルコト
ガ出來ルヤウニ致シテアリマス、尙二十四
條ノ但書ヲ御覽ニナリマスト、命令ノ定ム
ル所ニ依リ、特別ノ事由アル場合ニ於キマ
シテハ、退職手當ヲヤリマス場合ニ於テハ其
ノ全部又ハ一部ヲ支給シナイデモ宜イト云
フコトガ書イテアリマス、是ハ御手許ニ差
上ゲマシタ、省令案デ御覽ノ如ク、罷メマ
ス時ノ事由ニ依リマシテ、或程度迄事業主
取入レテ居ルノアリマス、先づ一般ニ法
律ト致シマシテ斯ウ云フ制度ヲ要求致シマ
スル上ニ於キマシテハ或程度迄ハ勞働者ノ支

給ヲ相當ニシテ戴カナケレバナリマセヌガ、
同時ニ又事業經營ノ立場ヲモ考慮致シマシ
テ其ノ慣行ヲ取入れマスコトモ必要ダト考
ヘマシテ、兩者ノ調和ヲ圖リマシテサウ云
フヤウニ致シテ居ルノデアリマス

○政府委員(中島彌園次君) 大澤サンノ御
質問ニ對シマシテ大藏省ニ關係ノアル點ダ
ケニ付キマシテ私カラ御説明申上ゲマス、
此ノ免稅ノ點デアリマスルガ、第二十二條
ニ「本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツ
ル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利
得稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要
ノ經費ト看做ス」ト云フコトガ規定シテア
ルノデアリマスルガ、之ニ對シマシテハ是
ハ當然ノコトデアッテ規定スル必要ガナイ
ノデヤナイカト云フヤウナ御質問デアリマ
シタガ、今申上ゲマシタ所得稅法ノ第四條ニ
ハ「法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨ
リ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル」ト斯ウ書
イテアリマシテ、此ノ總損金ト云フコトハ、
ドウ云フ時ニ見ルカト云フト、矢張リ斯ウ云
ウヤウナ性質ノ金ハ社外ニ出ル時ニ總損金
トシテ之ヲ計算スルノデアリマシテ、退職
積立金ノ場合ニ於ケル第二十二條ノ規定ハ
社外ニハ出マセヌケレドモ、此ノ性質ト同
ジモノト見テシマヒマシテ、法律上ノ義務

ヲ負ヒマシテ、積立デルモノデスカラ、「イ
ヤ」・マーク」セラレタヤウナ金ト見テ居リ
マス更ニ申上ゲマスト、現實ニ支出シマセ
ヌケレドモ損失金ト見做ス法律上ノ義務ヲ
負擔スレバ直グソレヲ損失金ト見做ス、斯
ウ云フ意味ニ於キマシテドウシテモ第二十
二條ノヤウナ免稅ノ規定ガ要ルノデアリマ
シテ、所得稅法第四條、營業收益稅法第四

シテ安場男爵カラモ仰セニリマシタヤウ
ナ工合ニ、現在及將來ノ不景氣ヲ之ガ爲ニ
招來シテ行ク根源ニナリハセヌカト云フヤ
ウナコトハ私共ハ考ヘテ居リマセヌノデ、
此ノ程度ノ金ヲ、サッキ私ガ申上ゲマシタ
クニ押ヘ込ンデシマツテ居ルノハ、今申上ば
マシタ國有鐵道ノ勞働者外官業ニ於キマシ
テモ澤山アリマス、之ハマア產業ヂヤナイ
カラ、國有ノ勞働者ダカラ、產業界ニ影響
シハセヌカト申シマシテモ、矢張リ之モ地
フベキ購買力カラ生ジテ來ル、廻リ廻ツテ來

貿易ニ於キマシテモ五十何億ト云フヤウナ
金ガ出タリ入ツタリスルヤウナ大キナ貿易
ノ状態ニナツテ居リマスシ、ソレカラ又其ノ
他政府ノ赤字公債デモ約五億ナンボ、政府
ノ豫算カラ見マシテモ二十三億ト云フヤ
ウナ、此ノ大キナ金ノ中ニ、民間ガ之ヲ基
礎トシテ現レテ來マシタ金ノ動キカラ觀察
致シマシテモ、左程ノ影響ハナカラウト云
フコトガ、マア當然デハナイカト考ヘルノ
デス、大體御説明申上ゲマス

貿易ニ於キマシテモ五十何億ト云フヤウナ
金ガ出タリ入ツタリスルヤウナ大キナ貿易
ノ状態ニナツテ居リマスシ、ソレカラ又其ノ
他政府ノ赤字公債デモ約五億ナンボ、政府
ノ豫算カラ見マシテモ二十三億ト云フヤ
ウナ、此ノ大キナ金ノ中ニ、民間ガ之ヲ基
礎トシテ現レテ來マシタ金ノ動キカラ觀察
致シマシテモ、左程ノ影響ハナカラウト云
フコトガ、マア當然デハナイカト考ヘルノ
デス、大體御説明申上ゲマス

○男爵安場保健君 只今大藏當局ヘ、官業
ノ方デモ是レ位ノ金ハ積ンデ居ルカラ、ソ
ンナニ困ラヌグラウト云フ御言葉デアリ
マシタガ、官業ノ方ハ、共濟組合其ノ他ノ
購買組合等ガ完備シテ居リマシテ、眼ニ見
エヌ所デ、又賃金以外ニ助カル所ガ相當ア
ルト思フノデアリマスガ、民間ノ方デハサ
ウ云フコトガ十分發達シテ居リマセヌト云
フト、僅カノ金デモ労働者ノ負擔ニハ可ナ
リ大キナ負擔ニナルト云フコトヲ御考ヘ願
ヒタイト思フノデアリマス、所ガ、大藏次
官ハ大キナ金バカリヲ御取扱デアリマスカ
ラ、零細ナル、職工ノ懷ロノコトハ御分リ
ニナラヌノデハナイカト思ヒマス

参考へテ見マシテモ、ナカヽ官業ニ劣ラ
ヌヤウナ「ノミナル・ウエイヂ」ノ外ニ「リア
ル・ウエイヂ」ト申シマスカ、労働者ノ福利
増進ノ施設ヲヤッテ居リマス、私共、實際大キ
ナ金ハ一時ニ二十億以上モ扱ツテ居リマス
ケレドモ、實際ハ貧乏シテ居リマスノデ、
其ノ邊ハ能ク解ツテ居ル積リデアリマス
○男爵北河原公平君 私ハ退職積立金及び
退職手當金ノ管理ニ付キマシテ御尋ヲ致シ
タイ、即チ退職積立金ハ本法第十一條ニ於
キマシテ、各労働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ
積立テラレルコトニナッテ居リマス、又退職
手當ノ方ハ本法第二十條ニ依リマシテ、他
ノ財產ト分別シテ積立テラレルコトニナッ
テ居リマスカラ、此ノ點ニ付キマシテハ、
異議ハナイノデアリマスルガ、本法第十三
條竝ニ第二十一條ニ依リマシテ事業主ガ運
用ヲ致シマシタ場合、殊ニ第十三條ノ第二
ニ於テデアリマスガ、尤モ本法第十五條竝
ニ第二十三條ニ依リマシテ、是ガ譲渡、又
ハ差押ヲ禁止サレテ居ルノデアリマスカラ、
私共ハ和議法ニ於ケル和議債權ノ外ニ立ツ
モノト考ヘ、又破産法ノ別除權ト看做シテ
宜シイモノト考ヘテ居ルノデアリマスガ、
此ノ際念ノ爲ニ政府ノ御所見ヲ承ツテ置キ

○政府委員(赤松小寅君) 退職積立金又ハ
ニ於キマシテモ、別除權ヲ以チマシテ存在
致シテ居リマス、併シナガラ十五條、十三
條、又ハ二十一條ノ退職積立金、又ハ退職
手當積立金ハ許可ヲ得マシテ運用致シテ居
リマス場合ニ於キマシテハ、事業主ハ退職
積立金ニ於キマシテハ、労働者ニ對シマシ
テ返還ノ債務ヲ負ウテ居リマス、ソレカラ
退職手當積立金ニ於キマシテハ、退職手當
積立金ハ戻入ノ公法上ノ義務ヲ持ッテ居ル
譯デアリマシテ、運用ノ許可ヲサレマシテ、
運用サレテ居リマス間ハ、其ノ金自體ハ事業
主自身ノ一般財產ト同様ナ立場ニ立ッテ居
リマス、從ヒマシテ破産等ノ場合ニ於キマ
シテハ、事業主ハ勞働者ニ對シテ一般債權
ト同様ニ償還ノ債權ヲ負ウテ居ルノミニ相
成ル譯デアリマス、事業主ハ又退職手當積
立金ノ場合ニ於キマシテハ、公法上ノ返還
義務ヲ負ウテ居ルダケニ相成ルト解シテ居
リマス

三條ニ於キマシテハ、個々ノ職工ノ承諾ヲ得マシテ、サウンテ事業主ガ運用スルコト致シマス實際ニ於キマシテハ、自分ノ運轉資金ト共ニ運用スルモノデアルト考ヘマスカラ、サウシテ是等ノ運用サレタ、職工ニ分配サレマス利子ト申シマスカ、其ノ運轉資金カラ生ジマシタ利潤ニ依ツテ分配ヲ受ケルト云フコトニ相成ルト思フノデアリマス、サウ致シマスルト職工ガ事業主ノ運轉資金ト共ニ事業ヲ經營シテ居ルト云フ風ニモ考ヘラレルノデゴザイマス、此ノ破産法ノ別除權、和議法ノ和議債權ノ外ニ立ツモノト見得ナイト云フ議論モアリマス、其ノ點ニ付キマシテ更ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

ノ通リデ、若シモ本法ノ退職手當積立金ノ性質ニ鑑ミマシテ、労働者ニ渡スペキ金ヲ運用致シテ居ルノデアリマスカラ、若シモ民官廳ノ許可ヲ得テ労働者ノ意思ニ拘ハラズ、ウナ場合ニ於キマシテモ或ハ労働者ニ退職手當積立金ニ屬シマスル分ニ付テハ、事業主ノ一般財産ニ迄特別ノ先取特權力何カヲ有タセマスコトガ、或ハ理窟ニ適ッテ居ルト考ヘマス、併シナガラ元來私共ノ考ト致シマシテハ、労働者ト事業主ノ間ニ信賴ノ關係ヲ以チマシテ、事ヲ進メサシテ行キタイ、ソコデ斯ウ云フ法律的ニ餘リニ深ク労働者ノ權利ヲ伸バサセマスコトハ、却テ本法制定ノ目的ニ反シマスルヤウナ結果ヲ招來スル憂ガ多々アルト考ヘマシテ、本法ト致シマシテハ稍々不徹底ノ感ヘゴザイマスルガ、廳ガ許可ノ判断ヲ致シマシテ、危險ナカラシムルヤウニ致ス、若シモサウ云フ危險ガアリマスルナラバ、國債ノ供託等ヲ命ジマシテ、極力官ガ其ノ中ニ入リマシテ、労働者ノ利益ノ侵害ノナイヤウニ計ヒマシテ、餘リニ權利的ニ兩者ヲ對立サスコトハ避ケ

ハ、是ハ大蔵省關係デアリマスカラ、私力
チノ根本主義ハ、退職積立金ト致シマシテ
預カリマシタ金ト云フモノハ、確實ナ方面
ヘ廻スト云フコトガ主眼ニナツテ居リマス、
ソレデ今郵便貯金ガ、是ハ國家ガ預カルコ
トデアリマスカラ、確實デアル、之ヲ第一
義ニ考ヘマシテ、ソレカラ其ノ次ハ銀行ヘ
ノ預金、ソレカラ金錢信託、ソレカラ登錄
國債、斯ワ云フヤウニ限定シタ譯デアリマ
スガ、今無論商工中央金庫ガ御承知ノ通り、
此ノ議會ニ依リマシテ最早法律案ハ貴衆兩
院ヲ通リマシテ、成立ヲ致シマシタノデア
リマスガ、此ノ成立ガ組合員デナケレバ商
工中央金庫ノ方ヘハ預金スルコトガ出來ナ
イヤウナ仕組ニナツテ居リマシテ、其ノ積立
金ヲ之ヘ持ツテ行クト云フコトハムヅカシ
イ關係ニ、商工組合中央金庫ノ性質上組合
員ダケノ預金ヲ預カルト云フ關係ニナツテ
居リマスノデ、此ノ場合ハ其ノ中ニ書カナ
カツタ譯デアリマス、ドウカ……

事業主ハ商業組合若シクハ工業組合ニハソ
レハ預ケルコトハ出來ルデセウケレドモ、
直接ニ商工中央金庫ハ此ノ金ヲ預ケルト云
フコトハ、此ノ商工中央金庫ノ根本的性質
上カラ出來ナイノデアリマス

○濱口儀兵衛君 ソレデハ其ノ事業主ガ自
分ノ組合ニ預ケルコトハ、ソレハ矢張り出
來ナイノデスカ、銀行ヘ預ケルト同ジヤウ
ナ風ニ預ケル譯ニ行カナイノデスカ

○政府委員(中島彌團次君) 是等第二十條
ノ規定ニ依リマシテ、私サッキ説明シタノハ
聽達ヘタノデアリマスガ、銀行ヘノ預金ト
ナツテ居リマス意味ハ、普通銀行、貯蓄銀
行、特殊銀行ニ限ッテ居リマシテ、商工中央
金庫ニハ、之ニ預ケルコトガ出來ナイト云
フコトニナツテ居リマス、モウ一つ附ヶ加ヘ
テ申上げテ置キマスガ、組合ニ預ケルコト
モ出來ナイノデアリマス、銀行ニ限ッテ居ル
ノデアリマス

○政府委員(赤松小寅君) 他ノ御質問ニ御
答ヘ致シマス、第八條ニ於キマシテ、百分
ノ七ニ限定致シマシタノハ、是ハドナタカ
ラカ申上げマシタカト思ヒマスガ、要スル
ニ本法ニ依リマス積立ハ一應十六條、十七
條等ヲ見マシテモ、最高ノ場合ガ百分ノ五
デゴザイマスガ、過去ニアリマス所ノ勤務

年限ニ、勤続年敷ニ對シマスル退職手當ノ準備ノ爲ニ要シマスル、即チ四十二條ノ場合ニ於キマス準備金モ含メマシテ、多少ノ餘裕ヲ茲ニ持ッテ置ク必要ガアルト云フノデ、百分ノ七ニシタノデアリマス、而シテ是ハ免稅ノ取扱ヲ致シマスニ付キマシテモ、又差押禁止ノ取扱ヲ致シマスルニシマシテモ、之ヲ無制限ニ致シテ置キマシテバ、一方ハ色々財政上ノ取扱、稅務上ノ取扱モ困難デアリマスシ又差押禁止ノ方カラ申シマスレバ、又融通財產ノ限度ガ明確ニナリマセヌ爲ニ、却テ一般取引ヲ阻害スル虞モ生ジテ參リマスシ致シマスルノデ、何等力ノ茲ニ、何レニ致シマシテモ或制限ヲ設ケテ置カナケレバナラヌト云フ議論ガアルノデアリマス、ソコデ今申シマシタ理由ニ依リマシテ、多少ノ餘裕ヲ持ッテ、百分ノ七ト云フ限度ヲ設ケマシタ次第デアリマス、從ヒマシテ、一時ニ何カ事業ノ都合ノ好イ時ニ、一時ニ多額ヲ積ミマスト云フコトハ、是ハ實ハ色々財政上カラ申シマシテモ、又或ハ差押禁止ノ上カラ申シマシテモ、不都合デアリマスノデ、ナラシデヤッテ戴クヨウニシタイト云フ考デアルノデアリマス

テ同ジヤウナ風ナ情況ニ行カナイデ、隨分景氣ノ好シ惡シノヒトイモノデアルノデ、最初此ノ少クモ百分ノ一以上ト御書キニナツタ氣持ノ上カラ言フタナラバ、成ルベク從業員ニ、勞働者ニ多クノ積立ガ出來ルヨウニト云コトヲ本當ハ御考ヘニナルモノヂヤナイカト思フ、事業ヲヤツテ居ル者カラ言ヘバ、自分ニ餘裕ガアレバ、成ルベクサウヤツテヤリタイト思フノデスガ、併シサウ云フ風ニ制限サレテ見ルト、多クヤラウト思ツテモ、利益ノアル時ナラバ、實際ニハ多ク積立テルコトガ出來ルケレドモ、普通ノ場合ニハ、ナカニソレハ困難デアリマシテ、サウカト云ウテ色々御心配ニナルヤウナ風ニ、一旦出シタナラバ再ビ事業主ノ手許ヘ戻ル金デヤナイノダカラ、ソシナニ心配スルヤウナ風ニ、タッタ一年ノ間、百分ノ十デ濟ム場合モアルカモ知レマセヌガ、何年モ不當ナ金ヲ積立ツテ置イテト云フコトハ常識デ考ヘラレナイヤウニ思フノデスガ、ダカラ寧ロ是ハ制限ナシニシテ置イタ方ガ宜イジヤナイカト思フノデスガ、併シ御説明デ能ク分リマシタカラ、尙後ヲ御説明願ヒマス

マシテハ、元來之ヲ設ケマシタノガ、現在實業界ニ於キマシテ勞働者ノ爲ニ貯金ヲ預リマシテ、ソレヲ出來ルダケ有利ニ廻シテ、シテ與ヘテ居リマス事業者モ相當ノ數ニ上ツテ居リマス、退職手當積立金ハ貯金デハゴザイマセヌケレドモ、矢張リ是ハ何レ勞働者ニ行キマス金デアリマス、從ヒマシテ之ヲ有利ニ運用致シテ吳レマスレバ、ソレダケマア勞働者ノ爲ニ相成ル譯デアリマス、貯金ノコトヲ考ヘマスレバ、或ハ事業主ノ中ニモサウ云フ福利施設ヲシタイト云フ御希望ノ方モ勿論オ有リグラウト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ意味ニ於キマシテ、之ヲ運用ヲ許スト云フノガ第一ノ之ヲ作リマシタ本旨デアルノデアリマシテ、自體是ハ確實ニ守ツテ行ツテ貫ハナケレバ相成ラナイ性質ノモノデアリマスノデ、此ノ運用ノ許可ニ付キマシテ、十分ノ注意ヲ以チマシテ間違ノナイヤウニ、而モ福利施設トシテヤツテヤラウト云フ人々ノ心持ヲモ汲ミマシテ、ヤウナ次第デアリマス、大體サウ云フ方針デ確實ナル方法デナケレバ許サナイ積リデ居ルノデス、從テ第二項ニ於キマシテ……

○政府委員(赤松小寅君) 二十一條ニス

ナ風ニ官廳デ認メラレルヤウナ程度デア、
タナラバ、商業組合ナリ、商工中央金庫カ
ラノ融通ヲ受ケラレルノダカラ、殆ド必要
ガナクナルノデヤナイカト思フノデスガ、
此ノ積立金ヲ使フト云フコトハ餘程ムヅカ
シイノデ、一ツ間違フト問題ヲ起シ易イカ
ラ、ダカラ餘程便宜ナ程度デ許サレルノナ
ラ使ヘルノデスガ、ドンナ程度デ許サレル
モノダカ、ソレヲ伺ヒタイ、ソレカラモウ
一ツノ二十六條ノ方モ……

○政府委員(赤松小寅君) 二十一條ノ運用
ノ場合ハ許可ヲ得マシテチャント運用致シ
マスナラバ、二十一條ニ依ッテ運用致シマ
スルナラバ、別段罰則ノ關係ハゴザイマセ
ヌノデス、此ノ許可ヲ受ケズニ黙ッテ使ヒ
マスト云フト、是ハ本法ノ所謂運用デナマ
譯デアリマス、使ヒマスト云フト三十三條
ノ罰則ガ參リマス、從ヒマシテ許可ヲ受ケ
テ運用致シマスナラバ、是ハ別個ノ問題ニ

Figure 1. The effect of the number of training samples on the performance of the proposed model.

特別手當ノ場合デアリマス、是ハ御説ノ通り有限責任ニ致シテ、特別手當積立金ノアリマス限度ニ於テ支給致シマスノデ、事業主ト致シマシテ、確カニ最後ニ行キマスト云フトヤレナイモノモ生ジテ來ル譯デアリマシテ、確カニ是ハ論理的ニハ、理論的ニハ缺點デアルノデアリマス、併シ先ヅ相當年數經チマスレバ、之ヲ實施致シマシテカラ相當年數ノ間、大量解雇デモ行ハレマスヤウナ景氣が續キマセスケレバ、或程度マデ相當ニ特別手當積立金ト云フモノハ、積立テラレルダラウト豫測致シテ居リマスノデ、經濟的ニハ相當效果ヲ齎スグラウト思ヒマス、唯之ヲ無制限ニ致シマスルト云フト、矢張リ失業保險ノ責任ヲ負ヒマスヤウナ意味ニ於キマシテ、非常ニ無限的ナル、積限度ノ無イ責任ヲ事業主ガ負ハナケレバナルダラウト思ヒマシテ、是ハ失業保險ト違ツ

積今ヲ依ニマフ旁ニ

ガ宜イデハナイカト云フ御説ニ付キマシ
ハ、失業對策委員會ノ一番最初ノ案ニハ
シ福利施設ガ何デアルト云フコトニナリ
スルト、是ハ一體事業經營ノ費用デアル
、福利施設デアルカト云フコトハ、其ノ
界點ニ付キマストナカヽ明確ヲ缺キマ
ヤウナ關係モアリ、是ガ免稅ヲサレタル
額デアリマス爲ニ、非常ニドチラノ費用
アルカ分ラナイモノニ行ク憂ノアルモノ
使ヒマスコトハ、妥當デナイト思ヒマス、
シタ次第デアリマス、次ニ第十八條但書
於キマシテ勤務年限、勤務情況其ノ他ニ
シテ異ツタ率デ積立テルト云フ趣旨デ、之
許スカト云フ御質問デアリマシタガ、只
考ヘテ居リマス所ハ、是ハ十七條ニ依ツテ

力 同シテ居ルヤウニ思フノデスガ、二十一ト
二十六ト二ツ混同シテノ御返事ノヤウニ思
フノデス、私ハ二十一條ノ方デハ唯運用ガ
ドウ云フ風ナ……二十一條デスカ何條デス

ナツテ参リマシテ罰則へ關係ハゴザイマセ
ヌ、ソレデ此ノ運用如何ハ、運用サセマス
ニハ今ノヤウナ意味合ニ於キマシテ、サウ
云フ福利施設トシテヤリタイト云フ人ノ希
望ヲ満スコトノ出來マスヤウニ、之ヲ途ヲ

テ一ツノ退職手當トシテ稍恩惠の性質ヲ持ツテ居リマスノデ、事業主ノ責任モ考ヘテ有限的ニ致シタノデアリマス、理論的ニハ出來ナイト云フ難點モアリマスルガ、是デモ時務ノ急ニハ應ゼラレルト云フ考カラ斯ウ

七條ニ依ッテ積立ツベキ金額ノ約半額ハ、勤務年限トソレカラ勞働者ノ賃金トニ比例致シマシテ分ケテ、後ノ半額ヲ全然事業主ノ主觀的判断ニ依リマス勤務狀態ニ依ッテ分配スルト云フコトガ總カデハナイカ、全然ノデ、其ノ邊ニ致シタイト考ヘテ居リマス、實施迄ニハ十分考究致ス積リデアリマス、次ニ四十二條ハ是ハ全然事業主ノ自由デゴザイマシテ、過去ノ勤務年限ニ對シマスル手當ノ準備金ニ付キマシテハ、何年間積ミマス金額ハ、第八條ニ依リマス百分ノニ御積ミニナリマセウトモ全然干渉致シテ居リマセヌ、唯、一年間ニ其ノ計算期ニ於テ七ノ制限ヲ受ケマスノデ、其ノ範圍内ニ於テ積マザルヲ得マセヌケレドモ、別ニ何年間ト云フ考モ持ツテ居リマセヌ、又四十二條ソレ自體ガ全然事業主ノ自由デアリマス○濱口儀兵衛君 二十六條ノコトニ付テモウーツ伺ヒタインデスガ、二十六條ノ方ハ只今ノ御説明デ、有限ノ責任ニシタト云フコトハ至極尤モダト思フノデスガ、是ハ工場法デ確カ解雇スル場合ニハ、十四日前ノ豫告ト手當ガアル筈ナノデ、ソレガアッタ後ニ餘ツテ居ル金ガアルカラ之ヲ利用シヨウト云フコトニ、餘ツテ居ル金ト云フノハ、途

中デ不都合ヲシテ出タトカ何トカ云フ爲ニ、特別手當積立ガアル爲ニ此ノ金ヲ使ハウト云フノデスガ、モウ定マッテ十四日ノ分ガアレバ不公平ナシニズット行ケルノデスガ、是アルガ爲ニ或者ハ非常ニ都合ガ好ク行ツテ、或者ハ惡ク行クト云フ懸念ガ大變アルヤウニ思フノデスガ、ソレガ今政府委員ノ御話デハ、長イ年數ノ間ニ相當ナ金ヲ積立テテ置ケバ差支アルマイト云フノデスガ、ソレハ差支ナイト云フ場合モアルシ差支アル場合モアルシ、隨分不公平モ起ルノデ、又後カラ出ル者ニモ、工場主トシテハ何トカシテ上ゲナケレバナラヌト云フ風ニナツテ來ルト思フノデ、此ノ規定ナドモアツテドウカト思ハレルノデスガ、ソンナ懸念ハナイデセウカ、又詰リ後カラ出ル者ニモ、先キニハヤツタンダカラ後カラ出ル者ニハ工場主ガ自腹ヲ切ツテ何トカシテヤラナケレバナラヌト云フヤウナ風ニナリ易イノヂヤナイカト思ヒマス

トシマシテハ相當ニ起ル問題デヤナイカト思ッテ居リマスガ、ソレハマア別問題ト致シマシテ、確カニ論理的ニサウ云フ事ガ生ジテハ人情上ドウモ是ハ出シテヤラナケレバベテ氣ガ濟マヌ、出シテヤリタイト云フヤウナ風ニナルコトハ私モ否定ヘ致シマセヌ、ソレダケヘ已ムヲ得ナイコトダト思ッテ居リマス譯デアリマス

○政府委員(赤松小寅君)　此ノ三十條「少
クトモ」ト云フコトニ付キマシテハ實ハ衆
議院ニ於キマシテモ少シ御質問ガアリマシ
テ、御説明致シタノデアリマスルガ、實
ハ是ハ斯ウ云フ事ヲ考ヘテ居ルノデアリ
マス、少シ込入リマスノデ面倒ニナルノデ
アリマスガ、現在行ハレテ居リマス所
ノ各工場ニ於ケル退職手當規程ハ、本
法ノ要求致シテ居リマスノヨリモ寧ロ
好イ程度ノモノガ相當ニ多イヤウデアリマ
ス、ソレガ本法實施後ニ於キマシテ若シモ本法
ニ依ル積立規定ト云フコトニ相成リマセヌ
ヤウニナリマスト云フト、ソコデ本法實施
ト同時ニ其ノ規定ガ二ツニ分レルヤウナコ
トニ相成ル譯デアリマス、詰リ本法ニ依ッ
テ、例ヘバ三十條ニ依ツテ御説明申上ゲマス
レバ、此ノ「少クトモ」ガアリマセヌト云フト
十二日分ヲヤル規定ガ本法ニ依リ出來マス
ト同時ニ、從來二十日分ヲヤルト云フ規定
ヲ持ツテ居リマシタ所ハ十二日分ヲ差引キ
マシタ後ノ殘リノモノヲ又別ノ規定トシテ
ヤラナケレバナラヌヤウニ相成ル譯ナノデ
アリマス、サウ云フ風ニ從來ノ良イ慣行ヲ
本法施行ノ爲ニ人爲的ニ兩斷スルヤウナ結
果ヲ招クヤウニシタクナイト云フ考ヘ方ト、

モウ一つハ二十日若シクハ二十五日分ノ手當ヲヤルト云フ規定ガアッタ所デハ、ソレモ準備金ト致シマシテハ、或ハ十二日分デハ足リナイカモ知レナイ、十四日分積立テタイカモ知レヌ、十五日分積ンデ置キタイカモ知レナイ、其ノ時ニ若シ本法ニ依ル積立デアリマセヌト、十二日分迄ハ、最高ノ準備金ノ十二日分ト云フト、少シ言葉ガラカシイカモ知レマセヌガ、先ヅ最高十二日分迄ハ準備金トシテ積メマスガ、ソレ以上ハ自分ノ任意ノ積立、本法外ノ積立ニナリマスル爲ニ、ソレニ對シテ免稅ノ取扱モ出来ナケレバ、差押讓渡ノ禁止ノ取扱モ出來ナイコトニ相成リマス、ソレハ如何ニモドウモ人爲的デアッテ、折角ノコトガ旨ク行カナクテハ困リハセヌカ、斯ウ云フ考ヲ以チマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ舊來ノ慣行ヲ本法ノ中ニ取入レヨウト云フ意味ヲ以チアリマス、尙モウ一つ御覽ヲ願ヒタイノハ、三十四條ノ罰則ノ所ニ於キマシテ、第四號ニ於テ「第三十條第三項ノ規定ニ依リ支給スベキ退職手當トシテ勤続一年ニ付標準賃金十二日分以内ニ相當スル金額ヲ支給セザルトキ」ニ罰則ガ行クコトニナリマス、十二日分以内ノ金額ヲ支給シナカッタトキノミ

罰則ヲ與ヘマスノデ、十二日分以上ニ付キマシテハ、罰則デ強要致シテ居リマセヌ、即チ本法ノ規定ソレ自身カラ見マシテモ、十二日分以上ト云フノハ全然任意ノ規定デアル、ソレヲヤル、ヤラナイノハ民事上ノ關係トシテ殘リマスカモ知レマセヌケレドモ、本法ノ關與スル所デハナイト云フ所ハ本法自身ニ依リマシテ、明カニ分ルノデハ、ナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、故ニ是ハ實質的ノ效果ハアリマセヌシ、又本法自體カラ見マシテ、少クトモ十二日分以上本法ガ別ニ要求シテ居ルノデナイゾト云フコトガ自身ニ分ツテ居リマスノデ、置キマシテモ弊害、誤解ハ生ジナイモノダト私ハ解釋致シテ居リマス、但シ十六條ノ方ニナリマスト、多少今ノモノトヘ違テ居リマス、罰則ガゴザイマセヌ、ハッキリシテ居リマセヌ爲ト、多少今ノモノトヘ違テ居リマス、罰則ニ、少クトモ百分ノ二トアリマシテ、若シモ之ヲ任意ニ百分ノ三ノ規定ヲ作リマスルト、百分ノ三ノ積立ヲ致シマスルト、百分ノ三ヲヤリマセヌト罰則ガ直グ行ッテ終ヒマス、ソコデ多少皆様ノ誤解モ起キタノダマス、ソコデ此ノ十六條ノ時ニハ行ラウト思フ、而シテ此ノ十六條ノ時ニハ行マス、政府ノ御答辯ガゴザイマシタガ、此ノ點只今濱口君、小久保君ノ質問ニ對シテノガマア此ノ法案ノ重大ナ點デアリマセウト存ジマスガ、甚ダ御迷惑デゴザイマセウケレドモ、之ヲ皆ニ徹底スルヤウニ御話ヲト、百分ノ七ニ相当スル額以下トス」、是ガ私共法律ノ事務所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ業績度々ノ御説明ヲ承ッテ居リマスケレドモ、ドウモ私共ノ同僚モ皆ドウモ能ク了解ガ出來ナイヤ

成ルト思ツテ居リマス、ソレカラ十六條ノ罰則ヲ與ヘマスノデ、ソレカラ十二日分以上ニ付キマシテ、從來ノ慣行モ百分ノ二ノ手當ヲ支給シテ居リマスヤウナモノハ極ク少イノデアル、ソレヲヤル、ヤラナイノハ民事上ノアリマスカラ、是ニハ從來ノ慣行ヲ本法ニ取入レテ行クト云フ必要ハ殆ド少イ場合ナシテアリマスカラ、サウ云フ誤解ハナイトンデアリマスカラ、サウ云フ誤解ハナイト思ツタノデアリマスガ、サウ云フ誤解ガアルト云ウテ、之ヲ修正サレマシタナラバ修正サレマシテモ、實施上ニ於テハソレ程大ナル支障ハ來サヌ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○藤原銀次郎君 私ハ色々御質問ヲ致シタイコトガゴザイマスガ、段々會期モ切迫シテ居リマスルカラシテ、重要な點ダケラ走ツテ申上ダマシテ、又時間ガアリマシタラバ、其ノ他ニ及ビタイト存ジマス、先ヅ只今濱口君、小久保君ノ質問ニ對シテノ政府ノ御答辯ガゴザイマシタガ、此ノ點ガマア此ノ法案ノ重大ナ點デアリマセウト立金ノ額ハ、是ハ積立金ノ額ヲ規定シテ此ノ條文ヲ拜見致シマスレバ、本法ニ依リ事業主ノ積立ツベキ退職積立金及準備積立金ノ額ハ、是ハ積立金ノ額ヲ規定シテ此ノ條項ノヤウニ私共ニハ見エルノデアリマスガ、見ル方ガ間違ツテ居ルナラバ、其ノ間違ツテ居ルト云フコトヲ御指摘ヲ願ヒタマスガ、ドウモ斯ウ云フ風ニ書イテアレバ、積立金ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ云々、其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ七ニ相当スル額以下トス、斯ウ云フ風ニ書イテアルカラ、ドウシテモ其ノ積立ヲスル賃金ノ額ヲ此處へ規定サレタモノ

ノヤウニ見エルノデアリマス、然ルニ政府委員ノ再度再三ニ瓦ツテノ御説明ニ依レバ、是ハ額ヲ規定シテ居ル條項デハナイ、是ハ免稅ヲ規定シテ居ル條項デアル、斯ウ云フ風ナ御説明デアリマス、免稅ヲ規定スルト云フ若シ條項デアリマシタナラバ、第二十二條ニ「本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利得稅ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス」、斯ウ云フ條項ガ第一十二條ニアリマスカラ、此ノ第二十二條ニ持ツテ行ッテ、但シ總賃金ノ百分ノ七以下トス、斯ウ云フ風ニオ書キニナツテ居レバ、チットモ疑ハ起ラナイデ、何人ガ見テモ此ノ百分ノ七ト云フモノハ租稅ヲ免除スル金額デアルト云フコトガ明瞭ニ分ルノデアリマス、然ルニデスネ、此ノ第二十二條ニ斯ウ云フ免稅ノ規定ガアルニモ拘ラズ、第二十二條ニ規定シナイデ、特ニ第八條ニ規定シテ、サウシテ積立金ノ額ハ、トスウ書イテアル、百分ノ七ニ相當スル額ノ額ヲ規定シタルモノト常識觀念ニ於テハドウシテモ是ハ見エルノデアリマス、然ルニ是ハ額ヲ規定スルト書イテアルケレドモ、其ノ解釋ハ額ヲ規定シタノデナイ、租

稅ヲ免除スルノダ、斯ウ云フ御説明デアリマスカラ、我々ニハドウシテモ分ラナイ、ソレデアリマスカラ、若シ租稅ヲ免除スル額ヲ御規定ニナルナラバ、此處へ持ツテ行ッテ云フ若シ條項デアリマシタナラバ、第二十二條ニ「本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利得稅ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス」、斯ウ云フ條項ガ第一十二條ニアリマスカラ、此ノ第二十二條ニ持ツテ行ッテ、但シ總賃金ノ百分ノ七以下トス、斯ウ云フ風ニオ書キニナツテ居レバ、チットモ疑ハ起ラナイデ、何人ガ見テモ此ノ百分ノ七ト云フモノハ租稅ヲ免除スル金額デアルト云フコトガ明瞭ニ分ルノデアリマス、然ルニデスネ、此ノ第二十二條ニ斯ウ云フ免稅ノ規定ガアルニモ拘ラズ、第二十二條ニ規定シナイデ、特ニ第八條ニ規定シテ、サウシテ積立金ノ額ハ、トスウ書イテアル、百分ノ七ニ相當スル額ノ額ヲ規定シタルモノト常識觀念ニ於テハドウシテモ是ハ見エルノデアリマス、然ルニ是ハ額ヲ規定スルト書イテアルケレドモ、其ノ解釋ハ額ヲ規定シタノデナイ、租

稅ヲ免除スルノダ、斯ウ云フ御説明デアリマスカラ、我々ニハドウシテモ分ラナイ、ソレデアリマスカラ、若シ租稅ヲ免除スル額ヲ御規定ニナルナラバ、此處へ持ツテ行ッテ云フ若シ條項デアリマシタナラバ、第二十二條ニ「本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利得稅ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス」、斯ウ云フ條項ガ第一十二條ニアリマスカラ、此ノ第二十二條ニ持ツテ行ッテ、但シ總賃金ノ百分ノ七以下トス、斯ウ云フ風ニオ書キニナツテ居レバ、チットモ疑ハ起ラナイデ、何人ガ見テモ此ノ百分ノ七ト云フモノハ租稅ヲ免除スル金額デアルト云フコトガ明瞭ニ分ルノデアリマス、然ルニデスネ、此ノ第二十二條ニ斯ウ云フ免稅ノ規定ガアルニモ拘ラズ、第二十二條ニ規定シナイデ、特ニ第八條ニ規定シテ、サウシテ積立金ノ額ハ、トスウ書イテアル、百分ノ七ニ相當スル額ノ額ヲ規定シタルモノト常識觀念ニ於テハドウシテモ是ハ見エルノデアリマス、然ルニ是ハ額ヲ規定スルト書イテアルケレドモ、其ノ解釋ハ額ヲ規定シタノデナイ、租

稅ヲ免除スルノダ、斯ウ云フ御説明デアリマスカラ、我々ニハドウシテモ分ラナイ、ソレデアリマスカラ、若シ租稅ヲ免除スル額ヲ御規定ニナルナラバ、此處へ持ツテ行ッテ云フ若シ條項デアリマシタナラバ、第二十二條ニ「本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利得稅ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス」、斯ウ云フ條項ガ第一十二條ニアリマスカラ、此ノ第二十二條ニ持ツテ行ッテ、但シ總賃金ノ百分ノ七以下トス、斯ウ云フ風ニオ書キニナツテ居レバ、チットモ疑ハ起ラナイデ、何人ガ見テモ此ノ百分ノ七ト云フモノハ租稅ヲ免除スル金額デアルト云フコトガ明瞭ニ分ルノデアリマス、然ルニデスネ、此ノ第二十二條ニ斯ウ云フ免稅ノ規定ガアルニモ拘ラズ、第二十二條ニ規定シナイデ、特ニ第八條ニ規定シテ、サウシテ積立金ノ額ハ、トスウ書イテアル、百分ノ七ニ相當スル額ノ額ヲ規定シタルモノト常識觀念ニ於テハドウシテモ是ハ見エルノデアリマス、然ルニ是ハ額ヲ規定スルト書イテアルケレドモ、其ノ解釋ハ額ヲ規定シタノデナイ、租

ウシテ是ダケハ積立テナクチヤナラヌ、ソレ以上ニ積立テタモノハ租稅ヲ免除スルト、斯ウ簡單ニ御書キニアツク方ガ、ドウモ素人分リガシテ宜クヘアリマセヌデセカラ、立法技術上ノ問題云々ト云フ御話ガアリマスガ、立法技術ト云フコトハ詰リ實際カラ起ツク立法技術デナケレバナラヌ、實際ニ反シタ立法技術ト云フモノハ、アリ得ル譯ノモノデハナイト思ヒマスガ、此ノ點ハ如何デセウカ、サウ云フ風ニ了解ガ出來マヌガ……

立金ノ額ト、斯ウナッテ居ルノデアリマスカラ、其ノ點ニ其ノ百分ノ七ダケハ積立デルト云フコトデ、第八條ニ於テ百分ノ七マデハ積立デル、積立ヲスル金額ハ百分ノ七以下トス、ソレダカラ百分ノ七マデハ積立テルモノデアル、斯ウ云フコトニ於テ第八條ニ於テ茲ニ明カニ規定シテアル、サウシテ第三十條ニ持ツテ行ッテ、「少クトモ勤續一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當」云々ト書イテアル、サウスルト云フト、是モ我々素人考デスケレドモ、即チ法律家ノ考ハ又ドウカ知リマセヌガ、我々俗人ノ工場ノ事業主ナドノ考デヘ、此處ニ持ツテ行ッテ「少クトモ」ト斯ウ書イテアッテ、コッチニ「百分ノ七ニ相當スル」ド云フコトガアルノデアリマスカラ、此ノ「少クトモ」ト云フモノハ、チヨット幾ラニナルカ、斯ウ云フコトヲ先ヅ考ヘテ見ルト云フト、是ハ勞働部長ノ御説明デ、我々速記録ニ依ツテ 拝見……「パンフレット」ニ依ツテ拜見シタノデアリマスガ、百分ノ三・三三ニナルト云フヤウナ御説明ニナツタヤウデアリマス、サウスルト云フト、此處ニ少クトモ三・三三ダケハ積立テロト云フコトニナッテ、是ハ少クトモ、「少クトモ」ト云フノダカラ、三・三三ダケハ積立テロト云フコトニ、此ノ第

三十條ニ規定シテアルカラ、此ノ法律ニ
依リマスト云フト、第八條ニ作用シテ來
テ、之ニ第十六條ノ百分ノ二ト云フモ
ノガ加ヘリマスカラ、百分ノ五・三三ハ
最低ノ額デアツテ、ソレ以上百分ノ七マデ是
ハ積立テロ、斯ウ云フ風ニ解釋ガ出來ルノ
デゴザイマスルガ、又サウ云フ工合ニ皆解
釋シテ居リマス、我々ノ方ハ……サウスレ
バ百分ノ七マデノ積立ヲスル、其ノ時ニ積立
ニ對スル稅ヲ免除シテヤル、斯ウ云フ風ナ立
法ノ御趣旨デアルト、斯ウ我々ノ同僚ノ者
ハ、俗人ハ皆サウ云フ風ニ解釋シテ居ル、ソ
レ故ニ此ノ「少クトモ」ト云フ字ガアルノガ、
一ツノ此ノ立法ノ障礙デアルノト、第八條
ニ義務デナイ金額、積立額ト、斯ウ云フヤ
ウナモノヲ此所ニ御置キニナルカラ、此ノ
二ツガ作用シテ此ノ法律ヲ非常ニ難解ナモ
ノニシテ、非常ニ疑懼ナモノニシテ、サウ
シテ何日掛ッテモ能ク了解ガ出來ナイト云
フヤウナコトニ陷ラシメタモノデハナイカ
ト、斯ウ思フノデアリマス

御話申上ゲタト思ヒマスガ、百分ノ三・三ト
タヤウニ、「少クトモ十二一日分」ト書イテアリ
マスガ、其ノ十二日分以内ガ義務デアリマ
シテ、十二日分以上ハ義務デナイコトハ、
罰則ノ方ノ規定ヲ御覽下サイマスト明瞭デ
アリマス、ソレハ第三十四條ノ第四號ヲ御
覽下サイマスト云フト、「十二日分以内ニ相
當スル金額ヲ支給セザルトキ」ト云フコト
ニナツテ居リマシテ、第三十條ニ於ケル十二
日分ニ相當スル積立ト云フノハ、矢張リ是
ハ十二日分ダケガ義務デ、是以上ハ義務デ
ナイ、ソレデアリマスカラ其ノ點へ誤解ノ
ナイヤウニ、一ツ御願ヒ申上ゲタイト思ヒ
マス、十二日分以上ハ假令積立テマシテモ、
ソレハ義務額デナイ、義務ハ十二日以内ノ
コトデアリマス、ソレカラ先程ノ御質問ノ
中ニ、十二日分ガ百分ノ三・三ダ、其ノ外ニ
十六條ガカ、ルト云フ仰セデアリマシタガ、
是ハ非常常ナ誤解デアリマシテ、前ニモ御說
明申上ゲマシタヤウニ、十六條十七條ニ代ツ
テ三十條ヲ云フモノガアルノデアリマス、
即チ三十條ヲ御覽下サイマスト云フト「事業
主退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積
立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ

スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコト
ヲ得」ト云フコトニナッテ居リマシテ、十六
條十七條ト三十條トハ決シテ重ナラナイノ
リマスノデ、十六條ト十七條ト三十條トガ
重ナルコトハナインデアリマス、併シ茲ニ
尙申上ゲテ置カナケレバナリマセヌノハ、
三十條ト四十二條トハ重ナルコトガアリ得
ルノデアリマス、ト申シマスノハ、三十條
ハ本法施行後ノ積立ノ問題デアリマシテ、
四十二條ハ本法施行前ノ勤務ニ對スル積立
デアリマスカラ、ソコデ違フノデアリマシ
テ、三十條ト四十二條ト重ナル、ソレカラ
十六條ト十七條ト四十二條トハ重ナル、斯
ウ云フコトニナリマス、ソコデ三十條ニ於
テ百分ノ三・三ト、四十二條ニ於キマシテ或
程度ノ準備積立金ガアリマスト、是ガ矢張
リ相當ナ金額ニナリ得ルノデアリマス、ソ
コデソレハ矢張リ百分ノ五ニナリマスカ或
ハ百分ノ六ニナリマスカ致シマス、ソコデ
矢張リ本法ノ八條ニハ百分ノ七ト云フコト
ニ致シテ置イテ、其ノ限度迄ハ認メテ行カ
ウ、斯ウ云フヤウナコトニナッテ居リマス、
之ヲモウ一度申シマスト、十六條ト十七條
トソレカラ四十二條トガ一緒ニナル場合ガ
一つ、ソレカラモウ一つハ三十條ト四十二

條ガ一緒ニナル場合ガ一ツ、斯ニ一ツアリマス、ソレ等ニ對シマシテ矢張リ百分ノ七十云フヤウナ規定ヲ置イテ置キマシテ……ハ此ノ百分ノ七迄ハ本法ニ於テ、此ノ本法ノ積立ヲ認メテ、サウシテ免稅竝ニ差押禁止ノ規定ヲ致シテ置カウ、斯カ云フ積リナシデアリマス

○藤原銀次郎君 私ノ只今申上ゲマシタノハ、其ノ十六條十七條ノ外ニ百分ノ三・三三ニ當ル、此ノ三十條ノ積立ト申シマシタノハ、是ハ私ノ申上ゲヤウガ間違ッテ居リマシタカラ是ハ取消シマス、只今長官ノ御話ノ通リニ、十六條十七條ニ關係ナク、此ノ十二日ト云フコトノ御規定ガアッタモノデアルト云フコトハ、能ク了解シテ居リマス、ケレドモ其ノコトハ此ノ十六條十七條ト三十條トノ關係ハ分ッテ居リマスガ、唯分ラナイノハ、「少クトモ十二日分」トスウ書イテ居少クトモ百分ノ三・三デアリマス、只今私ノ申上ゲタ通り、長官ノ御話ノ通リニ、三・三デアリマス、サウスルト是ハ少クトモト云フコトデアルカラ、是ハ勞働者ノ方カラ見レバ、少クトモ三・三三デハナイカ、コチラノ十六條十七條ノ方デハ、是ハ百分ノ五迄

行クノデアル、少クトモ十二日分卽チ三・三
ト云フコトガ書イテアルノダカラ、三・三デ
ナイカモ知レナナイカ、ソレハ法律上ノ義務ヘ
イテアレバ、是ハ此ノ事業ハ相當ニ今利益
ガアルノダカラ、此ノ十二日分デハ不足ダ
カラ、是ハ十五日ニシタラドウダ、二十日
ニシタラドウダト云フ要求ヲ爲シテ來ルト
労働者ハ必ズサウ云フ要求ヲ爲シテ來ルト
思ヒマス、サウシテ此ノ第八條ニ百分ノ七
以下トスト斯ウ云フコトニナシテ居ルカラ、
百分ノ七迄出スコトガ當リ前デハナイカト
云フコトヲ、労働者ノ方ノ側カラ請求シテ
來ルト云フコトハ、當然デハナイカト思フ、
サウスルト其ノ爲ニ此ノ「少クトモ」ト云フコ
トノ爲ニ、勞資ノ間ニ非常ナ紛争ヲ起ス虞
ガアルト思フ、サウスルト云フト政府ノ方
ノ先達テカラノ度々ノ御説明ニ依ルト、政
府ガ之ヲ認可スルノダカラ差支ナイデヤナ
イカ、斯ウ云フ御説明デアリマスガ、其ノ
政府ガ認可スルト云フコトガ、矢張リ差支
ガアルノデアリマス、ソレハ勞働者ノ方ヘ、
政府ノ方ヘ我々ガ歎願スル、ダカラ政府ノ
方へ出願シテ政府ノ方デ承知シタラバ、ア
ナタノ方ハ出シテクレタラドウダト云フ風
ニ、必ズ來ルノデアリマス、又政府ノ方デ

モ、事業主モ賛成シ、労働者モ要求シタ時ニ、事業主モソレナラ宜シト言ツタラ認可ニナルト思ヒマス、又多クノ場合サウ云フ場合ニハ、労働者ノ方ニ御認可ニナルト思ヒマス、ソレガ即チ其ノ時御互ニ紛擾ヲ來ス本ニナルノダカラ、サウ云フ「少クトモ」トカ、政府ニ歎願ニ行クトカ、政府ガ許シタナラバオ前モ出シタラ宜イデハナイカト云フ、サウ云フ争ノ餘地ヲ法律ノ條文ノ中ニ態々御作リニナラヌデモ、立法技術ハ如何アラウトモ、モウ少シサウ云フ争ノナイヤウナ立法ハ、出來ナイモノデゴザイマセウ力

法ノ命ズル義務ヲ決メタナラバ、ソレヲ矢張リ實行シテ廳ガ許シタナラバ、ソレヲ矢張リ實行シテ行クト云フコトニヤラナケレバナラヌト思ッテ居リマス、其ノ點モ一ツ行政官廳ノ認可許可ニ一ツ御信頼ヲ願ッテ、又行政官廳トシテハ運用宜シキヲ得マシテ問題ヲ起サナイヤウニ致シタイ斯ウ思ッテ居リマス

○藤原銀次郎君 其ノ長官ノ御説明ハ能ク分リマシテ、行政官廳ガ居ルカラサウ云フコトハ起ラナイデハナイカ、行政官廳ヲ信賴シテ云フコトデアリマス、然ルニ第八條ニ「百分ノ七ニ相當スル額以下トス」ト云フ條文ガアリマシテ、明カニ百分ノ七ト云フモノハ此ノ法デ認メテ居ルト云フ風ニ見得ルノデアリマス、是ハ先刻私ガ申シマシタ通リニ「サウシテコチラノ方ハ「少クトモ」ト書イテアルノダカラ勞働者ハ此ノ條文ヲ見テ……只今勞働者ガ此ノ議場ニ出テ來テ長官ノ御説明ヲ聽キマシテモ、ソレハ能ク分ルカ分ラナイカ知リマセヌガ、聽キマシタナラバ、政府ノ方針ハサウ云フ方針ダト云フコトガ分リマセウガ、此ノ法文ダケ見タナラバ、勞働者ハサウ云フ御趣旨デ此ノ法律ト云フモノハ出來テ居ルト云フコトハ、ドウモ明瞭ニ分ルマイト思ヒマス、勞働者ニ分ラナイノミナラズ、官廳、政府ト仰シヤイマ

スケレドモ、是ハ政府ト云フモノハ誰デアルカトスウ云フト、即チ地方長官ガ地方デ申シマスルト多クハ取締ノ方ノ規定デアリマシテ、今迄ハ縣ノ方デ御取扱ヒニナッテ居ルノデアリマス、今度ハドチラデ御取扱ヒニナルカ知リマセヌガ、東京デ言ヘバ警視廳ガ之ヲ扱ハレテ居ルカラ、地方廳デハ警察部察部デ之ヲ取扱ヒニナルモノト私共ハ思ヒマス、サウスルト云フト、地方ノ警察部ノ當局ノ人、即チ特高課長位ノ所或ハ特高課ノ警部位ノ所デ之ヲ扱フノデアリマスガ、其ノ人達ガ此ノ條文ヲ讀ンデサウ云フコトガ分リマセウカ

○政府委員(廣瀬久忠君) 此ノ條文竝ニ本法ノ趣旨ノ徹底ニ付キマシテハ是ハ無論非常に努力致シマシテ、ドコ迄モ其ノ趣旨ノ誤解ノナキヤウニ努力致シマスカラ、其ノ點ハ地方廳ニ於テモ誤解ノナイヤウニ必ズ致スコトノ決心ヲ我々ハ持ッテ居ルノデアリマス

○藤原銀次郎君 今マデ澤山ノ例ガゴザイマシテ工場規則ト云フヤウナ問題デモ、工場規則ハ事業主ガ勝手ニ作ッテ政府ニ届出スル、同時ニ事業主ニ之ヲ訴ヘテ來ル、斯ウ云フコトニナレバ我々ハ無論監督官廳ヲ御信頼致シマスコトハ當然ノコトデアッテ、テ御信頼致シマスコトハ當然ノコトデアッテ、後デ更ニ戻ッテ參リマスカモ知レマセヌガ、此ノ位ニ致シマシテ、此ノ第十七條ノ問題ニ付キマシテ、是モ先刻ノ第三十條ノ問題ト同ジヤウニ非常ナ難點デゴザイマスカラ、是モモウ少シ明瞭ニ一ツ御話ヲ承リタイト存ジマス、是ハ今朝來ノ段々ノ御説明ニ依リマシテ、政府ハ決シテ利益分配主義ヲ法制化シヨウト云フ精神ハナイト云フコトダケハ能ク分リマシタ、私共ハ最初此ノ條文ヲ拜見シマシタ時ニ、ドウモ實ニ政府ハ利

何トナレバ利益ガ幾ラアツタ時ニハ幾ラ積ムト云フヤウナ
ム、幾ラアツタ時ニハ幾ラ積ムト云フヤウナ
コトヲ法律ヲ以テ規定サレテ居ルノデアリ
マスカラ、ドウシテモ主義ニ於テハ利益分
配主義ヲ法制化シタモノデハナイト云フコ
トハ分ツテ居リマスケレドモ、實質ニ於テハ
利益分配主義ト云フモノハ法律ニ認メラレ
タモノデアル、サウスルト云フト是ガ労働
者ガ其ノ利益ノ處分ニ付テ容喙スルト云フ
端著ヲ開クト云フコトニナルノハ當然デアツ
テ、是ガ即チ勞資ノ紛爭ヲ開ク基ニナル、
利益分配主義ハ資本、労働ノ産業平和ノ上
ニ於テ主義トシテハ何人モ之ニ異存ノナイ
モノデアリマス、我々モ出來得ルナラバ利
益分配ノ主義ヲ以テ工場ノ經營ヲスルト云
フコトハ結構ナ事ト信ジテ居リマス、又此
ノ精神ヲ以テ今後モ産業ノ平和ヲ圖ルト云
フコトニ付テハ敢テ人後ニ落チナイ積リデ
居ルノデアリマス、併シナガラ之ヲ法律デ
規定スルト云フコトハ世界各國何處ノ國ニ
モナイサウデアリマス、私ハマダ知リマセ
ヌケレドモ、色々調査ヲ致シテ見マシタ所
ガ何處ノ國ニモナイト云フコトヲ承ツテ居
リマス、サウ云フコトデアルトスレバ此ノ
第十七條ノ政府ノ原案ト云フモノハ、私共

モノデアルト、斯ウ信ジテ居リマシタ所ガ、衆議院ニ於テ之ヲ訂正サレマシテ、サウシテ表面上、此ノ利益分配主義が此ノ條文ニ現レナイヤウニナッテ參リマシタ、ソコデ今朝來ノ御説明ヲ承テ見ルト云フト、利益分配ノ主義デハナイケレドモ、矢張リ負擔能力多イ者カラ餘計ニ積立ヲサセルト云フコトヲ主トスルト云フヤウナ御説明ノヤウデアリマス、サウシテ負擔能力ハド、ウシテ御算定ニナルカ、斯ウ云フト矢張リ營業ノ収益等ニ依ッテ之ヲ算定スル、斯ウ云フヤウナ御説明ノヤウニ拜承致シテ居リマシタ、サウスルト云フト結局矢張リ利益分配、實質ニ於テハ……表面ハ政府ノ許可ヲ得テ、サウシテ百分ノ三以内ニ於テ、適當ナ金額ヲ政府ノ認可ヲ得テ積ムト云フコトニナックテ居ルケレドモ、政府ガ此ノ認可ヲスル標準ト云フモノガ其ノ負擔能力デアル、負擔能力ハ何デアルカト云フト利益デアルト云フヤウナコトニナルトスレバ、矢張リ實質ニ於テハ政府ノ原案ト何等ノ變ル所ガナイモノノヤウニ見受ケラレマス、サウシテ政府ノ原案ニ於キマシテハ茲ニ明カニ法律ニ於テ一項、二項ト云フヤウナ工合ニシテ、モノニ其ノ積立テル額ヲ規定シテアリマス、明カニ其ノ積立テル額ヲ規定シテアリマス、

スガ、今度ノ修正案ニ依リマスト、一切之ヲ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」ト斯ウ書イテアツテ、此ノ法律ニ規定シテアル條項ヲ削ヅテ、其ノ表面ニ利益ニ依ツテト云フコトダケヲ取ツテシマッテ、實質ニ於テハ勅令ニ總テ法律ノ條項ヲ讓ラレタ形ニナツテ居リマス、サウスルト云フト詰リ先づ以テ承リ、タイノハ實質ニ於テハ此ノ訂正ヲ致シテモ、シナインデモ同ジ事デヤナイカ、却テ法律デ以テ明瞭ニ規定シテアル方ガ明カデ良イノデアツテ、之ヲ勅令デ以テ規定スルト云フコトニナルト非常ニ不明瞭ナモノニナツテ、ドンナ勅令ガ出ルカ分ラナイト云フヤウナコトニナツテ、却テ非常ニヤヤコシイコトニナツテ來ル、先刻來御説明ノ通リデアツテ又私ガ了解シテ居ルヤウニ營業ノ利益ヲ標準トシテ之ヲ決メルト云フ認可ノ標準トスルト云フコトニナレバ、何處が違ヒマセウカ、今迄ハ法律デ決メタコトヲ今度ハ勅令ニ讓ツタト云フコトヨリ外ニ何等ノ違ヒガナイヤウニ思ヒマスノデスガ、其ノ點ハ如何デスカ○政府委員(廣瀬久忠君) 先程來申上ゲマシタヤウニ此ノ十七條ノ問題ニ付キマシテ、私共原案ヲ提出致シマシタ際ニ之ヲ利潤分配ト云フコトヲ法律化スルト云フ考ヘナク

ノ方法デアル、其ノ負擔能力ヲ測定スルニ
ハ斯ウ云フ方法ヲ用ヒテヤルト云フノデア
リマス、併シ今回衆議院ガ之ヲ斯ウ云フヤ
ウニシテ置クコトハドウモ勞働爭議ガ起ル
虞ガアルカラシテ、是ハ除イタ方ガ宜カラ
ウト云フコトデ訂正ヲセラレテ、衆議院ノ
説明ハ速記ニ於テモ明カナヤウニ、相當ノ
利益ガアツテ負擔ノ能力ノアル場合ニ、十七
條ノ此ノ修正案ヲ活用シテ貫フノダト云フ
コトノ御趣旨ガ衆議院ノ修正案ノ説明ノ理
由ニナツテ居ルノアリマス、サウ云フヤウ
ナ事情ニナツテ居リマスカラ、ソレナラバ將
來ノ取扱ハ私共ハドウシタラ宜イカト云フ
コトニ付テハ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、
第一點ハ此ノ労働爭議ガ發生スル虞ノナイ
方法モ考ヘナケレバナラヌ、ソレカラ同時
ニ衆議院ノ此ノ修正案ノ趣旨、相當ノ利益
ガアツテ負擔ノ能力アル場合ニ於テノミ積
立テサセルト云フ其ノ趣旨ヲ尊重シテ行カ
ナケレバナラヌ、併シ之ニ對シテ如何ナル、
具體的ニソレナラバ規定ヲ設ケ、如何ニシ
テ行クカト云フコトニ付テハ、衆議院ニ於
テモ附帶決議ガ附イテ居リマスノデ、是ハ
一ツ調査會ヲ設ケテ、其ノ調査會ニ附議致
シマシテ、サウシテ或ハ之ヲ勅令ニ或事項

ヲ決メルナリ、或事項ヲ條例ニ決メルナリ、
或ハ又他ニ適當ナ方法ヲ執ルナリ致シマシ
テ、サウシテ此ノ二ツノ目的、爭議ノ發生
シナイヤウナ方法ヲ執ル、或ハ又同時ニ負
擔能力ニ應ズル方法ヲ執ルト云フコトハ、
能ク調査會ト相談ヲシテ、衆議院デ決議セ
ラレマシタ主義ヲ此ノ兩院ニ於テ意見ガ御
一致ニナッタナラバ、一ツソレデ以テ調査會
ニ依シテ適當ナモノヲ作ッテ行キタイ、斯ウ
考ヘテ居ルノデアリマシテ、ドウ云フ規定
ヲドウ勅令ニ入レルカト云フヤウナコトハ
マダ申上げテ居ラヌ積リデアリマス

○藤原銀次郎君 ソコニナッテ問題ニナリ
マスルノデアリマス、是モ先刻此ノ第三十
條ノ「少クトモ」ト云フ問題デ申上げタ通り
ニ、勅令ノ定ムル所ニ依シテ政府ハ負擔能力
ト申シマスカラ、必ズ此ノ利益ニ依シテト云
フヤウナコトニナルト思ヒマスガ、サウス
ルト云フト矢張リ労働者ノ方カラ其ノ利益
ガ餘計ニアルンダカラ、百分ノ三以内デア
ルンダカラ、ダカラシテ是ハモウ少し餘計
ニ積ムノガ至當デアル、斯ウ云フヤウナコ
トニ是ハ主張サレマシテ、サウシテ或ハ政
府ニ運動シ、或ハ資本家ノ方ニ談判スルト
云フヤウナコトニナッテ參ルコトハ必然ノ
是ハ結果デアッテ、矢張リ爭議ヲ誘發スルト

云フコトハ免レナイト思ヒマスガ、其ノ點

ハ如何デゴザイマセウカ

申上ゲマスガ、或權威ノアル司法學者ノ說

ニ依リマスト、貸借對照表ニ依リマシテ總

テ居リマシタ場合ニ於テハ、會社ノモノガ

作ッ

退職シタ場合ニ於テハ、當然ニ退職手當ヲ

付

請求シ得ル權利ガアルモノト云フ大審院ノ

判決例ガアツタヤウニ記憶シテ居リマス、

ノデアツテ、現ニ大審院ノ判決例ニ於テ明カ

クテモ、所得稅其ノ他ノ免稅ハアルベキモ

サウシテ勞働者ノ爲ニ積立金ヲ爲シタ場合

付

争議ノ發生スル憂ノナイヤウナ方法ヲ執ル、

付

リマスガ、私共ハ先程申上ゲマシタヤウニ、

付

サウシテ又一面ニ於テハ、負擔ノ能力ニ應

付

ズルヤウナ方法ヲ執ルト云フコトニ付テ委

員會ト能ク相談ヲ致シマシテ、サウ云フ虞

ノナイヤウナ方法ヲ執ツテ進ミタイト思ヒ

付

マス、三十條ノ問題ニ付テノ御話ガアリマ

付

シタガ、矢張リ是等ハ能ク其ノ運用ヲ良ク

付

シ、サウシテ實際ノ情況ヲ明カニ致シマシ

付

タナラバ、ソレ程ノ問題ヲ起スコトハナイ

付

ト云フ風ニ私共ハ信ジテ居ルノデアリマス

</div

テモ宜シイ、或ハ外ノ積立金カラ拂フコトモ
假ニ出來ル譯デアリマス、從テ稅務計算ニ
於キマシテヘ、退職手當積立金ト稱シテ積
立テマシテモ、ソレハ本法ニ依ルヤウニ、
嚴重ナル制限ヲ受ケマシテ、標準モ明カニ
ナリ、他ヘ使フコトモ出來ナイト云フヤウ
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

少シ伺ヒタイモノデスガ、「第二十七條、事
業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ特別手當積立金
ノ限度ヲ定メタルトキハ」云々トアリマス
ガ、此ノ許可ト云フノハ、許可ノ標準ハド
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

スルノカ、其ノ點ヲ一つ、ソレカラモウ一ツ
ハ先程「少クトモ」ト云フ文字ニ付テ色々御
ノ限度ヲ定メタルトキハ」云々トアリマス
ガ、此ノ許可ト云フノハ、許可ノ標準ハド
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

少シ伺ヒタイモノデスガ、「第二十七條、事
業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ特別手當積立金
ノ限度ヲ定メタルトキハ」云々トアリマス
ガ、此ノ許可ト云フノハ、許可ノ標準ハド
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

スルノカ、其ノ點ヲ一つ、ソレカラモウ一ツ
ハ先程「少クトモ」ト云フ文字ニ付テ色々御
ノ限度ヲ定メタルトキハ」云々トアリマス
ガ、此ノ許可ト云フノハ、許可ノ標準ハド
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

スルノカ、其ノ點ヲ一つ、ソレカラモウ一ツ
ハ先程「少クトモ」ト云フ文字ニ付テ色々御
ノ限度ヲ定メタルトキハ」云々トアリマス
ガ、此ノ許可ト云フノハ、許可ノ標準ハド
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

スルノカ、其ノ點ヲ一つ、ソレカラモウ一ツ
ハ先程「少クトモ」ト云フ文字ニ付テ色々御
ノ限度ヲ定メタルトキハ」云々トアリマス
ガ、此ノ許可ト云フノハ、許可ノ標準ハド
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

スルノカ、其ノ點ヲ一つ、ソレカラモウ一ツ
ハ先程「少クトモ」ト云フ文字ニ付テ色々御
ノ限度ヲ定メタルトキハ」云々トアリマス
ガ、此ノ許可ト云フノハ、許可ノ標準ハド
ナ金ト達ヒマシテ、會社ノ都合ニ依ッテハ、
尙其ノ積立金ヲ外ニ利用致シマシテモ別ニ
罰則ガアル譯デヤナイ、サウシテ又退職者
ガ出來タ時ニハ、會社ノドノ金カラデモ拂ツ
テヤリサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、
單ニ退職手當トシテ積立テタト云フダケデ
ヌデ、現實ニ支拂致シマシタ時ノ損金ニ計
算スルト云フコトニ從來取扱ッテ居ルノデ
アリマス、判例ニ付キマシテハ、何時ドコ
ノ判例デ、何ト云フ事件デアツカト云フ
コトハ、今ハツキリ記憶シテ居リマセヌ點
○藤原銀次郎君 悪ダ恐入リマシタコトデ、
御手數ヲ掛ケテ恐入リマシタコトデスガ、
只今ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス
カラ、大審院ノ判決例ヲ一ツ御取寄セラ願ッ
テ、我々ニ御示シラ願ヒタイ、ソレデ其ノ
上ニ此問題ニ付テ更ニ御質問ヲ申上ゲタイ
○阿部房次郎君 私ハ此ノ條文ニ付テモウ

ニ堅實ナ、大キナモノモアリマスレバ、又怪シゲナモノモアルデアリマセウカラ、ソレニ付キマシテハ勿論相當ノ斟酌モ致シテ行ク必要ハ生ジテ來ルト考ヘテ居リマス、是等ニ付キマシテハ何レ實施迄ニハ十分ニ考究モ致シタイ積リデ居リマスルシ、場合ニ依リマシタナラバ調査會ニモ諸問致シマスコトガ適當デハナイカト、今ノ所ハ考ヘテ居リマス、ソレカラ調査機關ノ組織ニ付キマシテハ、是ハ別段衆議院ノ附帶決議ノ中ニハ明示致サレテ居リマセヌ、唯非公式ニ趣キマシタ所ニ依リマスレバ、附帶決議ノ趣意ハ調査機關ト致シマシテハ、貴衆兩院議員、事業主ノ代表者、労働者側ノ代表者等ヲ集メテ組織スルノガ宜カラウ、サウ云フ氣持デアルト云フコトハ非公式ニ承ツテ居リマス、未ダ調査機關組織ニ付テ政府ト致シマシテハ、別段ノ考ヲ持ツテ居リマセヌ、最後ニ三十條ノ「少クトモ」ニ關係致シマシテ、チヨット御斷リ申上ゲテ置キマスルガ、十二日分以上ヲ強制致シマス場合ハ絶對ニゴザイマセヌノデス、三十條ノ場合ニ於キ退職給與金、退職手當ヲヤルト云フ規程ヲオ作リニナリマシテ、サウシテ三十條ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケラレマシテ、準備

制度ヲオ持ヘニナリマシテモ、法律ガ強要致シマスノハ……強制致シマスノハ十二日分迄デアリマス、本法ガ支出ヲ……支給ヲ強制致シマスノハ十二日分迄デアリマシテ、ソレ以上ニ上リマスコトハ絶對ニ此ノ場合ニアリマセヌ、左様御承知願ヒマス

○阿部房次郎君 サウ致シマスト、只今ノ「少クトモ」ト云フノハドウモ意味ヲ爲サヌヤウニ思フノデスガ、先程カラ段々承ッテ居ルト、ドウモ了解ニ苦ムノデスガ、私ノ考達ヒカモ知レマセヌケレドモ、法律デハ十二日分以上ハ強制シナイ、斯ウ云フコト、サウスルト「少クトモ」ト云フノハドウ云フ意味デアリマスカ

○政府委員(赤松小寅君) 私ノ説明ガマヅイノカモ知レマセヌ、重ネテ御答へ致シマス、十二日分以上ハ強制シナイト云フコトハ罰則三十四條第四項ヲ御覽下サイマスレバ其ノ點ハ明カニ相成ルト思フノデアリマス、然ルニモ拘ラズ何故「少クトモ」ト云フ……任意ニ積立テ宜イモノヲ、何故「少クトモ」ト云フ字ヲ置イタノカト申シマスト、假ニコヽニ「少クトモ」ト云フ字ガナイ時ノコトヲ考ヘマスルト、本法デ規定致シマスル所ノ退職手當積立規程ト云フモノハ、勤續二年ニ付テ十二日ノ支給ヲ規定シタ所ノ規程

ヲ作ラナケレバ相成ラナイ、所ガ從來各會社デヤツテ居ラレマス所ノ慣行ニハ、本法ノ要求致シテ居リマス十二日ヨリモ餘計ニヤッテ居ラッシャル所ガ相當澤山オ有リニナルノデアリマス、サウ云フ所デヘ本法ノ規程ニ依ツテコ、ニハ第一項ニ「事業主退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ」トゴザイマスカラ、從テ事業主ノ退職手當規程ハ、本法ニ依ツテスル規程ハ十二日分シカ書ケナイ譯デスネ、サウスルト例ヘバ今二十五日アル所ハ二日分引キマシテ、アトハ七ノ分ヲ變更シナイ限りハ、別個ニ規程ヲ置イテ置カナケレバナラヌ、或ハ少シ混雜致シマスガ、四十三條但書ニ依リマシテ差引ラ致シマシテモ宜シウゴザイマスガ、要スルニ一ツノ規程ヲ置イテ置カナケレバナラスト云フコトニ相成リマシテハ、誠ニ事務上ニモ不便デアルト云フコトガ一ツト、成ルベクナラバ一ツノ規程デ從來通リニズウットヤツテ行ツテ戴クノガ宜イト云フ考へ方ト、ソレカラモウ一つハ若シモサウ云フ規程ヲ作ラレマシタ時ニ、或ハ十二日分ノ準備積立金デナクテ、モット十三トナスツテモ、若シモ此處ニ「少クトモ」ト云フ字ガナクテ、十二日分デ固定シテ居リマ

スルト云フト、アトノ三日四日ノ積立金ト
云フモノハ、本法以外ノ積立金ニナリマス
ルモノデスカラ、全然準備金ノ口座ヲ別ノ
場合ニ態置カケレバ、ナラヌ、ソレニハ
免稅ノ取扱モ出來マセヌケレバ、又勞働者
保護ノ爲ニ致シマス差押ノ取扱モ、禁止ノ
取扱モ出來ナイト云フ結果ヲ生ジマスルコ
トハ要ラザル事柄デアルト云フ考カラ、法
律ガ要求スル所ノ明カニ十二日分ダケト云
フコトガ本法デハ明カデアルカラ、從テ御
心配ニナリマスヤウナ問題ハ起ラナイト考
ヘマシテ、實情ニ合ヒマスヤウニ「少クト
モ」ト云フ字ヲ附ケマシタノデアリマス、
是ハ失業對策委員會當時カラ私共ノ御説明
致シテ居リマシタ氣持ガ茲ニ現レテ居リマ
ス譯デアリマス

其ノ儘此ノ法律ガ認メテ行ク、即チ準備積定シテアルヤウニ私解釋スルノデアリマス、サウシテ準備積立金ノ此ノ積立標準トシテノ百分ノ二ト云フコトニ付テ、「少クトモ」ト云フコトヲ入レルコトハ、勞資間ノ紛議ヲ起ス原因トナル、ソレハ結局抽象的ニ一般的ニサウ云フ規程ヲ將來ニ存續シテ行ク意味デアリマスカラ、勞資ノ間ノ論議トナルノデアリマセウガ、此ノ三十條ノ第三項ノ「少クトモ」トシテアル、此ノ第三項ハ積立ノ標準ヲ決メルノデヤナクシテ、支給ヲ決定シテ居ルノデヤナイカト思フノデアリマス、即チ勞働者ノ一人々々ガ退職スルト云フ場合ニ於テ、少クトモ、十二日分ヲ支給スルト云フコトガ規定サレテ居ルノデアッテ、十六條ノ積立標準ヲ決定スルコトトハ全然違ツタコトノ規定ノヤウニモ思ハレテ居ルノデアリマス、ソレ等ノ點ニ付テノ政府ノ御考ヲ承シテモ見タイノデアリマス、ソレカラ支給ト云フコトデ考ヘテ見マストルト思フノデアリマス、サウスルト二十四條ノ支給ノ左ノ各號ノ金額ヲ支給スペシト

シテアル第一號、二號ニ依ッテ一人々々ノ勞
働者ガ退職スル場合ニ於テ受ケル支給額ハ
二日分ト云フ此ノ第三項ニ書イテアリマス
標準トドウ云フ風ナ釣合ニナリマスカ、ソ
レヲチヨット承ツテ見タイノデアリマス、先
づ此ノ點ヲチヨット承リタイト思ヒマス
○政府委員(赤松小貢君) 三十條ノ場合ニ
於キマシテハ此ノ支給スル手當ノ額ガ少ク
トモ十二日分ダ、少クトモ十二日分ヲ支給
ベシ、ソコニ重點ガ置イテアルノデナイ
カト云フ御話デ、誠ニ其ノ通リデアリマシ
テ、ソレヲ受ケマシテ三十四條ノ罰則ニ於
テソレヲ支給シナカッタ時ハ罰ガアルゾ、斯
ウ云フ風ニ照應サセテ居ル積リデ居ルノデ
アリマス、御説ノ如クソレダケデアリマシ
テ、準備積立金トカナントカ云フモノニハ
別ニ關係ノナイ、間接ニハ勿論關係ガアリ
マスガ、直接準備積立金ニハ關係ガナイ譯
ナシデアリマス、ソレカラ二十四條ノ場合
ト三十條ノ場合トヲ比べテ見マスト、二十
四條ニ於キマシテハ十六條ニ依ッテ百分ノ
二ヲ積立マシタ金額竝ニ利益ノアリマ
シタ場合ニヘ、其ノ外ニ百分ノ三マデ
ノ金額ガ附ケ加ハリマシタ金ト兩方ガ
合サレマシタモノガ、勤續年數分ダケコ、

所ガ三十條ノ場合ハ利益ノ有ル無シニ拘ラズ勤續一年ニ付キマシテ十二日分、而モソレハ辭メタ時ノ標準ノ日額ニ依ッテ支給致スコトニ相成ツテ居リマスノデ、ソレヲ計算シテ見マスト、丁度約賃金ノ十二日分ト云フノハ三・三位ニ當ツテ居ルノデアリマス、ソレハ二十四條ノ普通ノ場合、ドウ云フ風ニナリマスカト云フト、丁度一年置ニマア最低ト最高ガ積マレテ行キマスヤウナ事業ト同ジ程度ニ相成リマス、一年百分ノ二、翌年百分ノ五、一番利益ガアッテ、百分ノ五ヲ積ムデ行ツタト云フヤウナ事業ト、サウ云フ利益ノアッタ時トナイ時ガ連續シテ行クヤウナ事業ト、丁度相似タヤウナコトニナルノデアリマス、三十條ハ利益ノ有ル無シニ拘ラズ始メカラモウ十二日ナラ十二日ト極メマスノデアリマスカラ、從テ最高ヲ見マスノモ餘リニキツ過ギルシ、先ヅソコラノ邊ガ穩ナ所デハナイカ、ト云フヤウナコトデ先ヅ十二日ヲ標準ニ採リマシタ

フ、即チ三・三ト云フ割合トノ間ノ開キガサ
ウ大キクナイ、ソコニ釣合ガ取レテ居ルト
云フコトニナリマスナラバ、一般的ナ準備
積立ノ、一般的ノ標準ヲ極メアスト云フ十
六條及三十條ノ第一項ノ此ノ規定ニ付テノ
「少クトモ」ト云フ文字ト三十條ノ文字トハ
「少クトモ」ト云フ文字ト三十條ノ文字トハ
勞資ノ紛争ニ付テ非常ニ危險ガアルト云フ
コトノ程度ガ餘程違フノデヤナイカト云フ
コトモ考ヘラレルノデアリマス、デ三十條
ノ一項ノ準備積立金ニ關スル金額ヲ定メト
云フコトガアリマスカ、只今阿部
考ヘニナツテ居ルノデアリマスカ、只今阿部
サンモ御質問ガアツタヤウアリマシタガ、之
ヲモウ一度伺ッテ見タイト思ヒマス、
○政府委員(赤松小寅君) 三十條ニ於キマ
シテハ既ニ御承知ノ如ク十二日分ヲ法律上
ソレガ三十五日デアリマセウトモ、二十日
デアリマセウトモ、ソレガ規定サレマシテ
モ準備金ハ先づ十二日分ヲ支給スル
ニ足ルダケノコトヲ目安ニ置キマスレ
バ宜イノダト考ヘテ居リマス、ソレ以上
ハ勿論事業主ノ希望ニ依リマシテヤリマ
スコトハ差支アリマセヌガ、ソレヲ中心ニ
致シマシテ考ヘテ參リタイ斯ウ思ツテ居

○松本 學君 大體御説明デ分リマシタガ、リマスノデ、先づ十二日近クノモノダト御考ヘ下スツテ然ルベキカト考ヘテ居リマステ申上ゲタヤウニ十六條、十七條ハ此ノ法律ガ規定シマシテ今後ニ於ケル積立ニ付テ標準ヲ定メラレタモノデアリマシテ、三十條ノ一項ハ從來ヤッテ居ル事業主ノ此ノ積立ニ付テノ何ト云ヒマスカ、一つノ經過規定ノヤウニソレヲ此ノ法律ニ於テ認メテ行カウト云フノデ、此ノ一項ノ準備積立金ニ關スル規程ト云フモノヲ御規定ニナッタモノデアルト云フ風ニ解決ヲシテ差支ナイノデアラウト思ヒマス、是ニ付テモ御説明ヲ願ヒタイノデアリマスガ、ソレカラモウ一ツハ「少クトモ」ト云フコトニ付テ、積立ヲスルト云フ標準トシテノ十六條ノ「少クトモ」ト云フコトト、此ノ退職手當ヲ支給スルト云フ時ノ其ノ標準ニ付テノ此ノ第三十條第三項ノ「少クトモ」ト云フコトガ相當同ジモノデナク、餘程解釋ヲ變ヘテ考ヘナケレバナラヌト云フヤウニ私ハ思フノデアリマスガ、此ノ二ツノ點ニ付テ政府ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス

ノ相當ナ慣行ヲ本法ノ施行ニ依リマシテ本法トバラニナリマスコトハ、非常ニ實社會ニ於テ又不便ナ事柄デアリマスノデ出來ルダケ兩者融合致シマシテ、長ヲ取ッテ活シテ行キタイト云フ希望ヲ以チマシテ三十條ヲ設ケマシタノデアリマス、ソレガ主タル目的デアリマシテ御質問ノ通りデアルノデアリマス、ソレカラ十六條ノ「少クトモ」ト三十條ノ「少クトモ」トハ文理解釋上カラ申シマスレバ敢テ異ナル所ハナイト思フノデアリマス、何レニシマシテモ、十六條ニ致シマシテモ百分ノ二ハ義務ガアルノデアリマシテ、ソレ以上ハ勿論任意デアルノデス、三十條モ又同様デアリマシテ、文理解釋上ハ毫モ違ヒハナイカト私共解釋致シテ居ルノデアリマスルガ、併シ是カラ生ジマスル所ノ實際的ナ影響ト云フコトヲ考ヘマスト稍違ツク所ガアルヤウニモ考ヘラレマス、ソレハ先程モチヨット申上ゲマシタヤウニ罰則ノ方カラ見マシテモ、本法ガ一體十六條デ百分ノ二トハシテ居ルケレドモ、一旦任意デアラウトモ百分ノ三ヲ積立テマスト、ソレヲ直グ罰則デ以テ強要シテマモ支給スルコトヲ要求致シテ居ルノデアリマス、三十條ハ今申上ゲマシタヤウニサウデハナクテ、ソレ以上ハ全然本當ニ自由ニシテ居ルト云フコトニ法律自體

十六條ノ場合ニ於キマシテハ之ガ積立金額
デアリマシテ、其ノ即チ支給金額ニ相成ル
ノデアリマス、コチラハ此ノ準備積立金ト
ハ別ニ關係ガマアナイ譯デアリマシテ、唯
此ノ支給退職手當規程ヲ作リマス時ニ、少
クトモ十二日ヲ含シデ居ルモノデナクテハ
相成ラヌコトニ實質的ニハナルノデアリマ
ス、其ノ結果支給額其ノモノガ十二日デア
リサヘスレバ問題ハナイ譯デアリマス、多
少私ハ明カニ違ツテ居ルダラウト思フノデ
アリマス、甚ダ説明ガマヅイカモ知レマセ
スガ……

法ニ規定シテ居ツテモ八日分ハヤラナケレバナラヌ、實際上ニ於テソレヲ取ツテシマトモ」ト云フ字ヲ置イテ、其ノ所謂十二日以上ノ八日分ニ對スル或ハ稅金トカ、或ハ差押トカ其ノ他ノ色々ナ利便ヲ與ヘル爲ニ「少クトモ」ト云フ字ガ御都合好イト云フ御話デアリマスケレドモ、ソレモサウナレバ之ガ爲ニ將來勞資ノ間ニ紛争ヲ來スベキ大原因トナルヤウナ、此ノ「少クトモ」ト云フ字ハ置ク必要ハナイト思フノデアリマスガ、ドウデアリマセウ

實際上ニ於テ必要ダト考ヘテ、寧ロ其ノ方ノ利益ヲ取リマシタ方ガ宜シイト考ヘテ居リマス

シテ居リマス、三十四條ニ依ツテ十二日分
以上ハ罰則ニ於テ要求シテ居ラヌ、是ヘ能
ク此ノ精神モ承知致シテ居リマスガ、併シ
ナガラ今ノ「少クトモ」ト云フコトノ解釋ガ
非常ニ私共ト御當局ノ解釋ト違フノデアリ
マスケレドモ、ソレハ議論ニナリマスカラ
此ノ程度デ止メマス

○藤原銀次郎君 段々ニ御説明ヲ承レバ承
ル程分ラナクナツテ參リマス、文理上ノ解釋
ト實質上ノ解釋ト云フコトニナツテ來ルモノ
デスカラ、ドノ程度マデ文理上ノ「少クト
モ」デアツチ、ドノ程度マデガ實質上ノ「少
クトモ」デアルカト云フヤウナコトハ、私
共ノヤウナ法律上ノ知識ノ無イ者ニハ甚ダ
理解ニ苦ムノデアリマス、從テ阿部サンノ
ヤウナ質問ガ起リマスノデアリマスカラ、
此ノ點ニ付テハ左様又モウ少シ詳シイ御説
明ヲ御願ヒスルカト思ヒマス、先刻判決例
ナドモ御取寄セラ願ツテ居リマスカラ、其ノ
判決例ノ次第ニ依ツテヘ、コンナ疑問モ消滅
シテ無クナツチシマフダラウト思ヒマスカ
ラ、ソレヲ拜見シテカラユックリ茲ニ戻ツテ

御説明ヲ承ツタ方ガ議事進行上、都合が好力
ラウト思ヒマスカラ、其ノ點ニ付テノ私ノ
質問ハソレ迄留保致シテ居リマス、茲デ只
今ノ御説明ヲ承ツテ御質問ヲ申上ゲタ、イト
思フノヘ、只今ノ其ノ段々ト御説明ヲ承
バ三十條ハ少クトモ十二日分ダケヲ支給ス
レバ宜イノダ、即チ十二日分以上ノ方ハ任
意デアル、十二日分ダケハ法律デ之ヲ支給
シロト云フコトヲ命ジテ居ルノデアル、其ノ
以上ハ任意デアル、斯ウ云フ御説明ノヤウ
ニ承ツタ、然ルニ此ノ十六條十七條ノ方デヘ、
十六條ニ於テ百分ノ一、十七條ニ於テ百分
ノ三ダケハ、其ノ政府ノ負擔能力ト云フ此
ノ勅令ヲドウ云フ風ニ御決メナルカ知レ
マセヌガ、只今ノ御説明カラ想像スレバ、
利益ノ餘計アッタ場合ニハ百分ノ三ハ積立
テル、是ハ法律上ノ強制的ノ義務デアルノ
デス、十六條ト十七條ハ……ダカラ若シ百分
ノ五以上利益ノアル會社ハ、即チ利益ノア
ル事業主ガ百分ノ五積マナイ場合ニハ處刑
ヲ受ケルコトニナル、是ハ第何條デ處刑ヲ
受ケルカ知リマセヌガ、ソレダケノ義務ガ
アルンダカラ、其ノ義務ヲ怠ルト處刑ヲ受
ケナクチヤナラヌ、然ルニ三十條ノ方デハ、
ドンナニ優良ナ會社デモ、百分ノ三・三ダケ
支給スレバ、ソレ以上ハ任意ダカラ法律上

ノ義務ガナ、斯ウ云フヤウナコトニ今ノ御説明ガ承ハレルノデアリマス、果シテサ
ニ云フ御説明デゴザイマセウカ、若シサウ
デアルトスレバ、十六條十七條ハ百分ノ五
ダケヲ強制的ニ命令シテ、之ヲ積マナケレ
バ、一年以下ノ禁錮ニ處スルト云フヤウナ
コトニナルノデセウト思ヒマスガ、然ルニ
三十條デハソレハ三・三ダケデアトハ任意
デアルトスレバ、其ノ邊ノ取扱ガ不公平デ
ハナイカト思ヒマスガ、如何デゴザイマセ
ウカ

ノリニハ、公平ナル見方デハナイカト云フ考
ヲ持ツテ積立テマス、從ヒマシテ十六條トノ關係
ニ依ツテ積立ト三十條トノ關係
ハ、略々釣合ガ取レテ居ルノダト私共ハ信
ジテ居リマス

○藤原銀次郎君 只今ノ御説明ハ少シ了解
致シニクイ所モゴザイマシテ、私ガ誤ツテ承
知シテ居リマシタナラバドウゾ御訂正ヲ願
ヒマス、私ノ承ッタ所ニ依リマスト云フト、
良イ會社デモ一番良イ會社デ、即チ負擔能
力ノ一番良イ會社トマア申シマスカ、社會
局ノ御説明ニ應ジテ申シマスト、負擔能力
ノ一番良イ會社ハ、十七條ニ於テ百分ノ三
ダケヲ強制積立ヲ命ゼラレマス、サウスル
ト十六條ト共ニ効イテ、是ガ百分ノ五ノ強
制積立ヲシナケレバナラヌ、然ルニ三十條
ニ於キマシテハ、一番負擔能力ノ多イ會社
ガ、即チ同様ノ會社ガ百分ノ三・三デ宜シ
イ、ソレカラ先ハ任意ダ、斯ウ云フコトニ
ナルト、其ノ一番負擔能力ノ多イ會社ニ付
テ、十六條十七條ト三十條トノ取扱ガ不公
平ニナリマセヌカ

○政府委員(赤松小寅君) 十六條十七條ノ
方ノ方法ニ依リマセウト、三十條ノ方法ニ
依リマセウト、ソレハ各會社ノ自由デアル

ノデアリマス、所デ若シモ先程モ申シマシタヤウニ、毎年百分ノ五ガ積立テラレマスヤウナ優良ナル會社ニ於キマシテ、本則ニ依リマスレバ三十條ノ方法ニ依リマス場合ヨリモ餘計積立テナケレバナラナイコトニ相成ルノデアリマス、是ハ選擇的ニドチラヘ依リマシテモ差支ナイノデアリマスルカラシテ、唯三十條ニ依リマス場合ニ於キマシテハ、罷タル時ニ賃銀ノ十二日分ト云フ制限ハアリマスルガ、是以外ハドチラヘ依リマセウトモ、是ハ當事者ノ、當該會社ノ自由デアリマスカラ先ヅソレデ均衡ハ得テ居ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス

○藤原銀次郎君 尚其ノ均衡ガ得テ居ラヌヤウニ私ハ考ヘルノデアリマス、只今ノ御説明ニ依リマシテ益、其ノ均衡ガ得ナイト思ヒマスルノハ、若シモ政府委員ノ只今ノ御説明ノヤウデアリマスト、之ヲ「少クトモ十二日分」ト書カナイデ、「十五日分以下」トスウ云フ風ニ御書キニナッテ、是ハ十五日ハ假定デゴザイマスガ、十五日分以下トスウ云フ風ニ御書キニナッテ、十七條ノ百分ノ三トはガ對照スルヤウニ御書キニナレバ、只今ノ御説明ガ合フノデアリマス、ソレデ其ノ法律上デ以テ責任ヲ負フノハ、三十條ハ三・三

八百分ノ五ダケノ責任ガアルノデアリマスカラ、兩方トモ百分ノ五ニナラナイト云フト、釣合ガ得ナイト思ヒマス、ソレデアルカラ此ノ「少クトモ」ト御書キニナッタノハ、只今御説明ノヤウナ御趣旨デ御書キニナッタノデハナクシテ、之ヲ最低限度トシテ百分ノ七マデ積メト云フ、斯ウ云フヤウナ御考デ御書キニナックトスルト、只今ノ御説明ハ能ク分リマスノデアリマス、只今ノ御説明ノヤウナ工合ニシテ、十二日分デ宜イノデアルカラ、ソレカラ先ハ義務ガナイ、任意デアルト云フコトニナルト、總テガ分ラナクナルノルノデアリマス、混亂シテ分ラナクナルノデアリマス

○政府委員赤松小寅君 毛頭、三十條ヲ作リマシタノハ、百分ノ七ヲ積立テサセヤウト云フ考デヤリマシタノデハアリマセヌ、是ハドウカ十分ニ御覽下サッテ戴キタイト思フノデアリマス、ソレデ今申上ゲマシタノハ、三十條ハ三・三デアル、十六條十七條ニ依ツテ積立テル百分ノ五ヲ始終積ムモノト決メテ御シマヒニナルノデ、ソレハ少し無理デアルト思ヒマス、十六條デ百分ノ二ヲ積ム年モアリ、事ニ依ルト百分ノ三、百分ノ四、百分ノ五ニナル年モアルコトハ事實デアリマス、一方ノ方

八百分ノ五ダケノ責任ガアルノデアリマスカラ、兩方トモ百分ノ五ニナラナイト云フト、釣合ガ得ナイト思ヒマス、ソレデアルカラ此ノ「少クトモ」ト御書キニナッタノハ、只今御説明ノヤウナ御趣旨デ御書キニナッタノデハナクシテ、之ヲ最低限度トシテ百分ノ七マス、十六條十七條デ見テ居リマスノハ、手ニ選擇シテ、ドチラデモ行ケルノデアリマス、十六條十七條デ見テ居リマス、十六條十七條ニナックトスルト、只今ノ御説明ハ能ク分リマスノデアリマス、只今ノ御説明ノヤウナ工合ニシテ、十二日分デ宜イノデアルカラ、ソレカラ先ハ義務ガナイ、任意デアルト云フコトニナルト、總テガ分ラナクナルノルノデアリマス、混亂シテ分ラナクナルノデアリマス

○子爵岡部長景君 チヨット之ニ關聯シテ伺ヒタイデスガ、先刻カラ伺ツテ居ル「少クトモ」ト云フコトガアル爲ニ、十二日分ノ積立以上ノモノデモ免稅ノ適用ヲ受ケルト云フ御話ガアリマシタガ、此ノ「少クトモ」ト云フノハ、詰リ支拂ノ方ノ支給ノ場合ニ、少クトモ十二日分ハ拂ヘト云フ意味デアッテ、十二日分ダケハ積立て、ソレ以上ノモノハ、若シモ斯ウ云フ規定ガナケレバ、是ハ要スルニ準備積立金デアルカラ、支拂フ譯デアル、準備積立金ト云フモノハ、別ラスル場合ニ於テ、三・三デ濟ムノト、五・〇

コニモナイヤウニ思ヒマスガ、ドコカ法文

ニソレガ載ツテ居ルノカ知レマセヌガ、サウ

スレバ準備積立金ハ全部免稅ヲ受ケルノデ
ハナイノデスカ

○政府委員(廣瀬久忠君) 本法ニ依リマ

ス、此ノ三十條ニ依リマス準備積立金ナル
モノガ免稅ノ取扱ヲ受ケルノハ、今御話ノ

ゴザイマシタ十二日分ニ相當スル退職手當

ヲ支給スベシト云フコトハ、三十條第一項

ニ於テ退職手當規程ヲ作リマスノデス、規

程ヲ作リマシタ結果ハ何等カノ支給ヲシナ

ケレバナラヌコトニ相成ル譯デ、ソレニ基

イテ支給致スコトニナル、其ノ支給スル場

合ニ於テ、十二日分ハ少クモ支給シテ置ケ

ヨ、支給シナケレバナラヌゾト云フコトヲ

規定シテ居ルノデアリマシテ、從ツテ此ノ十

二日分ダケ支給スルト云フコトガ手當規程

ノ内ニハ當然含マレテ居リマス、ソレデ本

法ノ「少クトモ」ト云フコトガ附イテ居リマ

スレバ、ソレガ本法上ノ支給規程ニ相成ル

譯デアリマス、本法ノ支給規程ニナリマス
ルト云フト、免稅差押ノ取扱ガ出來ル、斯
ウ云フ關係デアリマス

○松本 學君 モウ一つ、只今岡部サンノ

御尋ト丁度關聯致シマスガ、三十條ノ準備積
立金ト云フノハ、少クトモ十二日分、即チ三・

三ト云フモノダケヲ積立テルト云フノデハナ

クシテ、積立金ノ方ニハモットソレ以上ノ金額

積立ト云フコトガ想像サレテ居ルノデヤナイデ
スカ、私ハサウ思フ、サウシテ第八條ノ退職手

當積立金、是ハ十六條、十七條ダラウト思フ、
及準備積立金、此ノ準備積立金ト云フノハ、

ノ七ニ相當スル額トアリマスガ、是ハ「及」ト
ナツテ居リマスガ、準備積立金ト退職手當積

立金ト兩方ノ額ヲ加ヘタモノガ百分ノ七ニ
相當スル額以下ト云フノデアルカ、退職手

當積立金ダケカ……、ソレトモウ一つ、ソ

レモ百分ノ七以下デアルシ、準備積立金モ

百分ノ七以下デ宜イノデアル、斯ウ云フ意

味ナノデアリマスカ、ドウモ私ハ後ニ申シ

タヤウナ風デナイカト思フノデス、何故サ

ウ言フカト云フト、十六條十七條ノ規定ニ、

積立ヲ爲スコトモ事業主ハヤレルシ、三十

一條ノ準備積立金ノ規定ヲ設ケテ、此ノ

第一項デ事業主ガ選ブコトガ出來ル、ドツチ

モ宜イト云フコトハ、三十條ノ一項ノ積

立金モ、第八條ニ於テ百分ノ七以下ト云フ

コトモ、「マキシマム」ガ定メラレルモノデ

ナイカ、積立金ガサウ云フ風ニシテ、此ノ

規程ヲ行政官廳ガ許可スル、ソレハ許可ス

ルノハ、準備積立金トシテドノ程度ガ此ノ

會社ハ適當デアルカト云フコトヲ申上ゲ

ガ見テ、其ノ認定ヲシタ上デ百分ノ五位デ

タノデアリマシテ、許可ヲスル際ニハ或ハ
此ノ十二日分ヲ目安トシテ百分ノ三・三ヨ

リモ上ニナル場合モアルカ知レナイデアリ

マス、又サウ云フヤウナ場合ニ詰リ事業主

ガ十二日分以上ニ支給ヲ自由ニ……任意デ

テ支給ヲサレルノデアルシ、三十條ノ準備

積立金ニ依ル場合ニ於テハ、三十條第三項

ニ依ツテ支給ヲサレルノダ、私ハマアスウ云

フ風ニ解釋シテ居ルノデスガ、或ハ違ツテ居

ルカモ知レマセヌガ、サウシテ先刻私ガ御

尋ラシタ二十四條ノ規定ニ依ル支給額ト云

フモノガ幾ラニナルカト云フコトデアリマ

スガ、是ハ丁度百分ノ二ト百分ノ五積ムト

云フ其ノ間位ダラウト云フ御話デアリマシ

タガ、之ヲ日數ニ直スノハ困難カ知レマセ

スガ、普通ノ場合十六條十七條ノ積立規定

ニ基キ支給ヲ受ケル、即チ二十四條ノ支給

ヲ受ケル場合ニ於テ、労働者ハ一體何日分

ト云フ所デ抑ヘラレルノデアルカ、ソレト

モ點實ハ私ハ承ツテ見タイト思ッタノデス、
サウ云フ風ニ私ハ解釋スルノデアリマスガ、

達ツテ居リマスカドウカ、政府ノ御考ハ如何

デスカ

○政府委員(廣瀬久忠君) 準備積立金ハ十

二日分ニ相當スルト云フコトダケ見マスト、

百分ノ三ノ三トナル、ト云フコトヲ申上ゲ

タノデアリマシテ、許可ヲスル際ニハ或ハ

此ノ十二日分ヲ目安トシテ百分ノ三・三ヨ

リモ上ニナル場合モアルカ知レナイデアリ

マス、又サウ云フヤウナ場合ニ詰リ事業主

ガ十二日分以上ニ支給ヲ自由ニ……任意デ

テ支給ヲサレルノデアルシ、三十條第三項

ニ依ツテ支給ヲサレルノダ、私ハマアスウ云

フ風ニ解釋シテ居ルノデスガ、或ハ違ツテ居

ルカモ知レマセヌガ、サウシテ先刻私ガ御

尋ラシタ二十四條ノ規定ニ依ル支給額ト云

フモノガ幾ラニナルカト云フコトデアリマ

スガ、是ハ丁度百分ノ二ト百分ノ五積ムト

云フ其ノ間位ダラウト云フ御話デアリマシ

タガ、之ヲ日數ニ直スノハ困難カ知レマセ

スガ、普通ノ場合十六條十七條ノ積立規定

ニ基キ支給ヲ受ケル、即チ二十四條ノ支給

ヲ受ケル場合ニ於テ、労働者ハ一體何日分

ト云フ所デ抑ヘラレルノデアルカ、ソレト

モ點實ハ私ハ承ツテ見タイト思ッタノデス、
サウ云フ風ニ私ハ解釋スルノデアリマスガ、

達ツテ居リマスカドウカ、政府ノ御考ハ如何

デスカ

○松本 學君 モウ一つ、只今岡部サンノ

御尋ト丁度關聯致シマスガ、三十條ノ準備積
立金ト云フノハ、少クトモ十二日分、即チ三・

○政府委員(廣瀬久忠君) ソレハ私モ申上
ゲタ積リデアリマスガ、是ハ矢張リ支給規
程ヲ先ニ設ケマシテ、サウシテ現實ニ退職
シタ場合、少クトモ十二日分ヲヤル、サウ
シテ十二日分ダケハ法律上ノ義務デアル、
斯ウ云フコトデアリマシテ、而モ現實ニ退
職スル場合ニ於キマシテ貰フ、其ノ規定ハ
既ニ行政官廳ノ許可ヲ前ニ得テ置ク、ソレ
ニ基イテヤルノデアリマシテ、行政官廳ガ
既ニ許可ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、
サウ云フ許可ヲ致シテ居ルモノニ勞働者側
ガ不服ヲ言フト云フヤウナコトガアッテ
ハナラヌノデス、又アッタラ之ヲ押ヘテ行カ
ナケレバナラヌ、行政官廳ガ豫メ許可ヲ致
シテ置ク、其ノ規程ニ基イテ支給スルノデ
アリマスカラ、是ハ事業主ダケノ問題デナ
ク、行政官廳ガソレデ宜イト云フ認定ヲ下
シテ、許可ヲ致シテ、ソレニ信賴致シテ居ル、
サウ云フ場合ニ、現實ニ退職スル場合ニ、
是ハ十二日分ダケハ少イト云フコトデゴタゴ
タ言フト云フヤウナコトガアリマシタナラ
バ、ソレハ行政官廳ノ豫メ許可ヲ受ケテ居
テヤルノデアルカラ、ソレニ行政官廳ニ對
シテ、是ハモウ行政官廳ノ許可ヲ受ケテ居
ルノデアルカラ、グザ／＼言フベキモノデ
ナイト、斯ウ云フヤウニナラウト思ヒマス、

又サウ云フ風ニシナケレバ收マリガ付カヌ
ト思フノデアリマス、ソコデ此ノ十六條ノ
場合ハ行政官廳ノ許可ト云フコトガ這入ッ
テ居ルノデ、是ハ行政官廳ガ豫メ規程ヲ許
可シテ居ル、ソレカラ退職ハ其ノ後ニ現實
ニ起ル問題デアル、サウ云フ譯デ行政官廳
ガ豫メ許可シテ居ルノデアリマスカラ、其
ノ制度上ノ問題トシテ、紛議ヲ來ス原因ト
ナルト云フコトハ、サウ御心配ハナイ、此
ノ點ニ於テ十六條トハ私共違ツテ居ルト思
テ居リマス

○阿部房次郎君 モウ一條伺ッテ置キマス、
第四十三條デアリマスカ、是ハ先程カラ段
段御話ガ出テ居リマスノデ、略、了承シマシ
タガ、尙此ノ解釋ヲ承ッテ見タイ、「本法ノ適
用ヲ受クル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職
手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更
シテ、許可ヲ致シテ、ソレニ信賴致シテ居ル、
セラルルコトナシ」、無論其ノ通リデアリマ
セウ、「但シ本法適用後ノ勤務ニ對シ本法ニ
依ル退職手當ヲ支給スル場合ニ於テハ從前
ノ規程ニ依リ支給スペキ退職手當ハ其ノ差
額ヲ支給スル」是モ此ノ通リデシイト思ヒ
マス、本法適用前ニ此ノ規程ヨリハモット餘
計支給スル規程ヲ定メテ置キマシテ、サウ
シテ或ハ定メテ置キマシタレバ、ソレヲ將
來ニ向ツテモ變更スルコトハ出來スト云フ規

程デハ定メシナイト思ヒマスガ、十七條ノ規定ニ
云フコトデアッテ變更スルコトガ出來ナイ
トアレバ、ソレハ一ツ御示シヲ願ヒタイ、
ソレカラサウ云フ趣旨デハナイト私ハ考へ
ト、此ノ規程アルガ爲ニ、將來之ヲ其ノ從
來ノ規程ヲ廢スルトカ、改メルト云フコト
ガ民法關係上無效トナルト云フヤウナ解釋
ガ生ズル處ハナイデセウカ、一向法律ノコ
トハ私承知シテ居リマセヌガ、如何デゴザ
イマセウカ、ソレヲチヨット伺ッテ置キタイ
ト思ヒマス

○政府委員(赤松小寅君) 御説ノ如ク四十
三條ハ從來ノ規程ヲ將來ニ於テ當事者ガ廢
止又ハ變更致シマス所ノ自由ヲ奪ツテ居ル
モノデハゴザイマセヌ、唯單ニ本法ノ效力
止以テ、自然ニ從來ノ規程ガ内容ヲ變更シ
タル、廢止シタリスルト云フコトハ無イゾ
ト云フコトヲ宣言致シテ居ルダケノ注意規
程ノヤウナモノデアリマス

○子爵岡部長景君 色々御意見ヲ伺ッテ居
テ居ル、片方ハ大丈夫、心配ナイヤウニス
ルト云フダケデハ、何トモドチラカ、政府
當局ノ言ヲ信賴シテ之ニ賛成スルト云フノ
モ、ドウモ心許ナイヤウナ氣ガスル、ソン
ナヤウナ類似ノ參考資料ハアリマスマイ
カ

○政府委員(廣瀬久忠君) 御心配ノ點甚ダ

御尤デアリマスガ、之ニ對シテ参考ニナル
ヤウナ實例ト云フモノモ、實ハ存ジテ居リ
マセヌシ、何ガアルカ實ハ申上ゲ兼ネル、
唯私共ハ修正セラレマシタ趣旨ト云フモノ
ガ今ノ二點ニアリマシテ、十七條ノ原案ヲ
修正シマシタノハ、一號トニ號ト云フヤウ
ナモノガ表ニ出テ居ルトドウモ工合ガ惡イ
ト云フ御考ガアリ、其ノ御考ハ要スルニ勞
働議ヲ起ス虞ガアルカラト云フノデスガ、
私共原案ヲ出ス時ハ、勿論サウ云フコトハ
ナイト思ッテ出シテ居ルノデアリマス、所ガ
サウ云フ虞ガアルカラト云フ趣旨デ削ラレ
修正案ノ條文ト云フモノハ、修正ノ説明ノ
際ニ負擔ノ能力アル場合ニ於テノミ掛ケル
シダト云フコトデ説明セラレテ居リマス、
此ノ兩者ヲ適當ニ按配スル爲ニ、矢張リ調
査委員會ト云フモノニ付議シテ、サウシテ
當局ト協力シテ、兩方ノ目的ヲ達スル最善
ノ方法ヲ執ルト云フコトヨリ致シ方ナイ、
今茲ニ此ノ案ノ別ニ參考ニナルヤウナモ
ノデ、御手許ニ纏メテ差出ス實例、先例ト
云フモノヲ實ハ存ジテ居リマセヌ

○子爵岡部長景君 此ノ審査委員會ト申シ
マスカ、委員會ノ構成ニ付テ、兎角委員會

ハ、政府ノ都合ノ宜イ顔觸バカリ集メテヤ
ルカラドウモ困ルト云フ聲モ能ク聞キマス

ガ、委員會ノ構成ニ付テ安心ノ行カレルヤ
ウナ程度ノ何カアリハシナインデスカ

○政府委員(廣瀬久忠君) 委員會ノ問題ニ
付キマシテハ、マダ正式ニ斯ウ云フヤウニ

ヤラウト云フヤウナ工合ノ相談モ致シテ居
リマセヌケレドモ、是ハ政府ノ都合ノ宜イ
コトバカリヤルコトハ無論ナイト思ヒマス、
矢張リ貴衆兩院ノ公平ナ選擇ニ依リマシテ、
貴衆兩院カラ出シ、其ノ外ニ勞資關係ノ代
表者ヲ出ス、或ハ其ノ外關係官廳カラモ選
バナケレバナラヌカト思ヒマス、決シテ役
頭持ツテ居ラヌノデアリマス

所ノ勝手ナコトヲ致スト云フヤウナ考ハ毛
バナケレバナラヌカト思ヒマス、決シテ役
頭持ツテ居ラヌノデアリマス

内規ヲ示シ、同内規所定ノ如キ慰勞金ヲ給
テ居ルノデアリマス、サウシテ新シイ方ノ
修正案ノ條文ト云フモノハ、修正ノ説明ノ
際ニ負擔ノ能力アル場合ニ於テノミ掛ケル
シダト云フコトデ説明セラレテ居リマス、
此ノ兩者ヲ適當ニ按配スル爲ニ、矢張リ調
査委員會ト云フモノニ付議シテ、サウシテ
當局ト協力シテ、兩方ノ目的ヲ達スル最善
ノ方法ヲ執ルト云フコトヨリ致シ方ナイ、
マス

午後五時三十八分休憩

午後八時三分開議

○委員長(伯爵林博太郎君) 是ヨリ退職積
立金及退職手當法案ノ特別委員會ヲ開會致
シマス、サッキノ判例ガ分ツタサウデスカラ、

政府カラ説明ガアリマス

○政府委員(中島彌園次君) 先程藤原委員
カラ御尋ガアリマシタ退職手當支給ニ關ス
ル判決ハ、昭和五年(オ)第四四五號事件ニ對
スル同年七月七日大審院第一部ノ宣告カト

思ヒマスルガ、若シ左様デアリマストシマ
スナラバ、右判決ノ内容ハ退職者ニ於キマ
シテ不都合ノ事由ナキ限り、所定ノ慰勞金

ヲ支拂フ旨ノ内規ヲ有スル會社ニ、原告方
入社スルニ當リマシテ、會社ハ原告等ニ右

シテ不都合ノ事由ナキ限り、所定ノ慰勞金

總損金又ハ必要ノ經費ト見ルコトニナリマ
ス、然ルニ此ノ積立金ハ法律ヲ以テ積立義
務ヲ命ジ、而モ管理運用ニ付キマシテモ特
別ノ制限ヲ設ケテ居ルノデアリマスカラ、
從來ノ任意積立金ト取扱ヲ別ニシ、特ニ積
立テタ時ニ總損金又ハ必要ノ經費ト見ルベ
キモノト考ヘルノデアリマス、今申上ゲマ
シタ如クニ、此ノ積立金ノ爭ニ關シマスル
判決例ハ、司法省ノ民事當局トモ、此ノ休
憩時間後ニ於キマシテ詳シク打合セマシタ
シテ如クニ、此ノ積立金ノ争ニ關シマスル
シタ如クニ、此ノ積立金ノ争ニ關シマスル
シテ不都合ノ事由ナキ限り、所定ノ慰勞金

ヲ支拂フ旨ノ内規ヲ有スル會社ニ、原告方
入社スルニ當リマシテ、會社ハ原告等ニ右
シテ不都合ノ事由ナキ限り、所定ノ慰勞金

モ詳細ニ申上ゲマシタガ、此ノ義務ヲ生ジテ、單ニ積立テタト云フノミヲ以テ、本條ニ於キマシテハ損金ト認メテ、茲ニ免稅規定ヲ設ケル所以デアリマス、故ニ斯ウ云フ判決ガアリマシテモ、之ヲ以テ直チニ此ノ免稅規定ガ要ラヌデヤナイカト云フ議論ノ根據ニハナラスト私共ハ考ヘテ居ル次第デアリマシテ、尙又労働者ノ眞ノ積立金ヲ確保シ、サウシテ退職ノ時ニ於テ之ヲ貰ヘルヤウニ致シマスルニハ、此ノヤウニ特別ノ運用ニ迄モ制限ヲ設ケテ、積立金ト云フモノヲ確保サセル所ノ方法ヲ講ズル所ノ必要ガアルト考ヘマス、右ヲ以テ御答辯ト致シマス

○藤原銀次郎君 只今大藏當局ノ御説明ハ分リマシテ、了承致シマシタ、私ハ今日午前ニ本案ノ根本方針ニ付テ、内務大臣ニ御質疑ヲ申シテ置キマシタガ、是ハ午前ニ時間ガゴザイマセヌカラ、是デ打切ッテ置キマスト云フコトヲ斷ッテ置キマシタガ、アレハ根本方針ニ付テノ一番ノ序幕デアリマシテ、マダ引續イテ根本方針ニ付テ内務大臣ノ御意見ヲ伺ッテ、ソレカラ本法案ノ根本ニ付テ大臣ノ御意見ヲ伺フ積リデ、只今マデ待ツタノデスガ、遂ニ内務大臣カラ私ニ午前ノ質疑ニ對シテノ御返事ガゴザイマセヌガ、之ヲ

○委員長(伯爵林博太郎君) 御呼ビヲ致シマス

○大澤徳太郎君 チヨット只今ノ中島政務次官ノ御答辯ニ對シマシテ、先程私ガ申上ゲタノハ、實ハ少シ意味ガ徹底シナカッタカト思ヒマス、コチラノ言廻シガ下手デアリマシタ爲ニ……私ノ御尋ネ申上ゲマシタノハ、此ノ積立金ハ原則トシテ、財産ト別ニシテ何々ニ是々ノ物ヲ買ヘトカ、預ケヨトカ云フ風ニ指定シテアル、サウスルト一旦免ニ角會社ハ支出ニ其ノ金ヲ出シマシテ、サウシテソレダケノモノヲ買フトカ、銀行ニ預ケルトカスベキ筈デアリマス、サウ致シマシテ、再び金ヲ何カ都合ニ依ッテ會社ガ運用ヲ致シマスト云フ場合ハ、改メテ其ノ金ヲ使フ意味ニナツテ、一旦ハ免ニ角會社ト云フコトヲ離レナイト云フ解釋デアリマス、ソレデ矢張リ斯ウ云フ規定ガ必要デアリマシテ、當然免稅セラルベキモノデハナクシテ、サウ云フ支出ヲスペク積立テタナラバ、ソコニ免稅ノ規定ノ必要ガ起ツテ來ルト云フコトデアリマス

○大澤徳太郎君 サウ致シマスト假ニ銀行ヘ預ケルトカ、何トカ云ヒマスト、少シ名稱トカ何トカト云フコトデ面倒デアリマスガ、公債證書ヲ買ッタ、サウスルト現實ニ會社ハ金ヲ出サナケレバナラヌ、ソレハ會社デ支出ヲシマス時分ノ科目ガ矢張リ積立金ト云フモノノ爲ニ、所謂經費トシテソレヲドウ云フ御解釋デアリマスカ

○政府委員(中島彌團次君) ソレハ第二十條ニ於キマシテ郵便貯金、銀行預金、金錢信託、又登錄國債トナツテ居リマシテ、公債ニナリマシタ場合ハ矢張リ同ジデアリマシテ、公債トシテ金ヲ出シマシテモ、矢張リ公債ト云フモノヲ會社ガ持ツコトニナリマスカ

質問ニ對シマシテハ能ク了解致シマシタノデアリマスガ、今申サレマシタヤウナ、積立金ヲ一旦銀行預金ナリ、或ハ信託ノ預金ナリ、郵便貯金ナリ、ソレカラ登錄國債ナリニヤルコトニ、第二十條デ決ツテ居リマス

十中ノ八九マデ、法律ヨリハ良イ支給ヲ致シテ居リマスカラ、法律ニ規定セラレタヨリハ良イ支給ヲシテ居ラレマスカラ、我ガ國ノ普通ノ現代式工業ニ於テハ殆ド苦痛ガナイノデアリマス、唯困ルノハ中小工業ガノ爲ニハ、政府ノ原案ガ三十人以上ト云フコトデアルケレドモ、此ノ三十人以上ヲ五十人以上位ニシテ貴ツテ、此ノ十七條ノ利益分配主義ノ規定ヲ設ケアルノハ、是ハ政府ノ御説明ニ依ルト、決シテ利益分配主義ヲ法制化シタノデハナイト、斯ウ云フ度々ノ御説明デアルケレドモ、法律ノ結果ハ實質ニ於テ利益分配ニナルカラ、即チ實質ニ於テハ利益分配制度ヲ法制化シタト云フコトニナル、實質ニ於テハ是ハ「ヨーロッパ」各國ニ於テモ利益分配ヲ法制化シタト云フ國ハ今日迄ナイノデアリマス、是ハ利益分配ヲ主張シテ居ル人ハアルケレドモ、法制化シテ居ル國ハ例ガナイノデアリマス、若シ之ヲ實行スレバ日本ガ初メテ利益分配ヲ法制化シタト云フコトニナルノデアルカラ、非常ナ重大ナ是ハ問題デアルカラ、十七條ヲ削除シテ貰ツテ、第一條ノ三十人ヲ五十人位ニシテ、サウシテ此ノ中小工業ヲ助ケテ行ケバ、即チ現代式工業ノ方デヘ、此ノ法制

ヲ實行サレテモ何等苦痛ハナノデアルカ
ラ、何等ノ苦痛モナイト云フト語弊ガアル
カモ知レマセヌガ、色々手續ノ煩瑣ナ、政
府ノ許可ヲ得ルトカ、資金ノ運用ニ付テ監
督ヲ受ケルトカ申スヤウナ細カナ所ハアル
ケレドモ、其ノ位ノ所ヲ忍ベ宜イノデア
ルカラ、先ヅ社會ノ大勢ガ、之ヲ勞働階級
モ、政府モ、一般ノ社會モ、之ヲ退職手當
金制度ヲ法制化シタ方ガ宜イト云フ希望ノ
ヤウニモ見受ケルカラ、我々ハ之ニ贊成シ
ヨウト云フ風ニ致シタノデアリマス、ソレ
ガ私ノ前段ニ述べマシタ、此ノ法ニ贊成シ
タ趣旨デアリマス、併シ其ノ次ニ、是カラ
私ノ質問デアリマス、私共ハ法制ノ知識ガ
ナイカラ、法律ノ知識ガナイカラ、此ノ法
律ガ了解出来ナイノハ當然デアリマスガ、
我々ノ同僚中ニ相當ニ法律ノ知識ノアル人
モゴザイマス、又我々ノ研究ノ友人關係、
色々ナ人達ノ中ニハ相當ノ法律ノ知識ノア
ル人達モ居リマスガ、今回ノ退職手當積立
金ホド法律上難解ナル法律ハナイ、我々何
遍モ御説明ヲ承リマシテ、數時間ニ亘ツテ、
何遍モ法律ノ御解釋ヲ承ル所ハ、何遍承ツテ
モ分ラナイ、今日モ午前午後ニ亘ツテ此ノ
席上デ繰返シ～色々ノコトヲ承ツテ、我々
同僚各位カラモ色々承ツテ、色々政府ノ御説

明モアリマスケレドモ、ドウモ今尙私共諒解致シ兼ネル、全部デアリマセヌ、主ナル點ヲ……ソコデ斯ウ云フヤウナ誰ニ聽キマシテモ、我々委員外ノ貴族院議員ノ我々ノ同僚ニ聽イテ見マシテモ、皆此ノ法律ハ難解デ、解釋ニ困ルト申シテ居リマス、斯ウ云フムヅカシイ法律ヲ何故御持ヘニナリマシタカト云ッテ、冷靜ニ考ヘテ見ルト云フト、元々此ノ法律ノ出發ガ間違ツテ居ル、大資本ノ、現代式ノ、大工業ノ、大組織デ致シテ居リマスル大工業モ、ソレカラ極ク小規模ノ小資本デ經營シテ居ッテ、非常ニ家族的ニ、家庭工業、家族的ニ、ドウカスウカヤリ繰リラシテ居ル所ノ貧弱ナル中小工業モ、之ヲ一緒ナ法律ヲ以テ規定シテ行カウト云フヤウナコトガ、抑、今度ノ法律ノムヅカシクナツタ基デアラウト思ヒマス、何故ナレバ政府ガ積立金ノ運用ニ付テ、非常ニムヅカシイ規則ヲ設ケテ束縛シテ、之ヲ他ニ流用シタモノハ三年以下ノ禁錮ニ處スト云フヤウナ非常ニムヅカシイコトヲ規定シテアリマス、ケレドモ現代式ノ工業デ資本モ澤山ニアッテ、確乎タル基礎ノ上ニ經營シテアル所ノ工業者ハ、誰ガ此ノ積立金ヲ他ニ運用シテ禁錮ニ處セラレルト云フヤウナ、サ

カラ罰セラレルヤウナコトヲ敢テ致シマセ
ウ、現代式工業家カラ見レバ斯ウ云フ罰則
ヲ設ケテ、サウ云フ束縛ヲ受ケルト云フコ
トハ非常ナ恥辱ト思ヒマス、又サウ云フ必
要ハ絶対ニナイト思ヒマス、政府ハ此ノ法
律ニ違反シタ時ニ罰金ヲ科スル、千圓以下
ノ罰金ヲ科スルト云フヤウナコトデアルガ、
現代式ノ工業家ヘ、是バカリノ資金ヲ他ニ
流用シテ、ソレノ爲ニ政府カラ罰セラレル、
法律ノ制裁ヲ受ケルト云フヤウナコトヲ致
ス者ハ私ハナイト思ヒマス、ダカラシテ此
ノ必要ナルモノハ何デアルカト言ヘバ、
中小工業ノ極ク貧弱ナ、利益モナシ、經營
モ困難デアッテ、主人モ、御内儀サンモ、子
供モ、娘モ、皆一緒ニナッテ働イテ居ルト云
フヤウナ家庭工業ニハゴザイマセウト思ヒ
マス、何トナレバ資本ガ貧弱デ、基礎ガ薄
弱デ、コンナ難解ノ法律ナンカ分リマセヌ
カラ、ドウセ自分ノモノデアレバ、多少之
ヲ他ニ流用シテモ差支ナイ位ニ考ヘテ、他
ニ流用スル者ガ必ずアルト思ヒマスシ、又
是ハ流用シテハイカヌモノダグト思シテモ、背
ニ腹ハ代ヘラレヌト云フコトガアッテ、困難
シタ場合ニハ、必ず之ヲ他ニ流用スルト云
フヤウナコトガアリ得ルト思ヒマス、ダカ
ラサウ云フ資本ノ薄弱ナ者ニ對シテハ此ノ

資本ノ流用ニ付テ非常ナ重イ罰則ヲ御設ケニナルト云フコトガ必要デアラウト思ヒマス、其ノ他又之ヲ各労働者毎ニ通帳ニ掛ケテ、郵便貯金ニシロナント云フコトモ、大資本家ニ對シテハ僅カ何十萬圓カノ積立金ヲ、各労働者ノ何千人、何百人ノ者ニ皆通帳ヲ分ケテ預ツテ行クト云フヤウナ手續ヲ取ラヌデ、工業家ガ一本デ預ツテ、サウシテ郵便貯金ガ三分五厘ナラ、五分ナリ、六分ナリ、七分ナリ高イ利息ヲ掛ケテ預ツテ労働者ヲ喜バセ、工業者モ其ノ煩瑣ノ手續ヲ免レテ行クト云フコトガ出來ルノデアッテ、又ソレダケノコトヲ信賴シテモ宜イダケノ資格ヲ持テ居ルト私共ハ思ヒマス、デアリマスカラ、大工業家ニ對シマシテハ大工業ニ適當ナル制度ヲ設ケテ御ヤリニナリ、中小工業者ニハ、中小工業ノ實情ニ即シタヤウナ制度ヲ御設ケニナッテ、サウシテ之ヲ二ツニ分ケテ法律ヲ御制定ニナレバ、コンナムヅカシイ法律デナシニ、誰ニモ分ルヤウナ、サウ何日モ掛ツテ何時間モ説明ヲ聽イテモ分ラヌヤウナ法律デナクシテ、極ク簡單ニ理解ノ出來ルヤウナ、極ク見易イ法律ガ出來ルコトダラウト私ハ思フノデアリマス、然ルニ斯ウ云フ工合ニ政府ガ中小工業ノヤウナ基礎ノ薄弱ナルモノモ、近代式工

業ノヤウナ基礎ノ確實ルモノモ皆一緒クタニシテ、此ノ法律デ之ヲ管理シテ制裁ヲ加ヘテ行カウト云フ、全體此ノ立法ノ根本ニ過チガアルノデヤアリマスマイカ、ソレニ對シテ内務大臣ヘドウ云フ風ニ御考ニナッテ斯ウ云フ立法ヲ御持ヘニナリマシタカ、ソレニ立法ノ、之ヲ御制定ニナリマシタ根本ノ趣旨ガ承リタイ、先づ是ガ第一ノ要點デアリマス、ソレカラマダ澤山アリマスナリ、七分ナリ高イ利息ヲ掛ケテ預ツテ労働者ヲ喜バセ、工業者モ其ノ煩瑣ノ手續ヲ免レテ行クト云フコトガ出來ルノデアッテ、又ソレダケノコトヲ信賴シテモ宜イダケノ資格ヲ持テ居ルト私共ハ思ヒマス、デアリマスカラ、大工業家ニ對シマシテハ大工業ニ適當ナル制度ヲ設ケテ御ヤリニナリ、中小工業者ニハ、中小工業ノ實情ニ即シタヤウナ制度ヲ御設ケニナッテ、サウシテ之ヲ二ツニ分ケテ法律ヲ御制定ニナレバ、コンナムヅカシイ法律デナシニ、誰ニモ分ルヤウナ、サウ何日モ掛ツテ何時間モ説明ヲ聽イテモ分ラヌヤウナ法律デナクシテ、極ク簡單ニ理解ノ出來ルヤウナ、極ク見易イ法律ガ出來ルコトダラウト私ハ思フノデアリマス、然ルニ斯ウ云フ工合ニ政府ガ中小工業ノヤウナ基礎ノ薄弱ナルモノモ、近代式工

業ノヤウナ基礎ノ確實ルモノモ皆一緒クタニシテ、此ノ法律デ之ヲ管理シテ制裁ヲ加ヘテ行カウト云フ、全體此ノ立法ノ根本ニ過チガアルノデヤアリマスマイカ、ソレニ立法ノ、之ヲ御制定ニナリマシタ根本ノ趣旨ガ承リタイ、先づ是ガ第一ノ要點デアリマス、ソレカラマダ澤山アリマスナリ、七分ナリ高イ利息ヲ掛ケテ預ツテ労働者ヲ喜バセ、工業者モ其ノ煩瑣ノ手續ヲ免レテ行クト云フコトガ出來ルノデアッテ、又ソレダケノコトヲ信賴シテモ宜イダケノ資格ヲ持テ居ルト私共ハ思ヒマス、デアリマスカラ、大工業家ニ對シマシテハ大工業ニ適當ナル制度ヲ設ケテ御ヤリニナリ、中小工業者ニハ、中小工業ノ實情ニ即シタヤウナ制度ヲ御設ケニナッテ、サウシテ之ヲ二ツニ分ケテ法律ヲ御制定ニナレバ、コンナムヅカシイ法律デナシニ、誰ニモ分ルヤウナ、サウ何日モ掛ツテ何時間モ説明ヲ聽イテモ分ラヌヤウナ法律デナクシテ、極ク簡單ニ理解ノ出來ルヤウナ、極ク見易イ法律ガ出來ルコトダラウト私ハ思フノデアリマス、然ルニ斯ウ云フ工合ニ政府ガ中小工業ノヤウナ基礎ノ薄弱ナルモノモ、近代式工

業ノヤウナ基礎ノ確實ルモノモ皆一緒クタニシテ、此ノ法律デ之ヲ管理シテ制裁ヲ加ヘテ行カウト云フ、全體此ノ立法ノ根本ニ過チガアルノデヤアリマスマイカ、ソレニ立法ノ、之ヲ御制定ニナリマシタ根本ノ趣旨ガ承リタイ、先づ是ガ第一ノ要點デアリマス、ソレカラマダ澤山アリマスナリ、七分ナリ高イ利息ヲ掛ケテ預ツテ労働者ヲ喜バセ、工業者モ其ノ煩瑣ノ手續ヲ免レテ行クト云フコトガ出來ルノデアッテ、又ソレダケノコトヲ信賴シテモ宜イダケノ資格ヲ持テ居ルト私共ハ思ヒマス、デアリマスカラ、大工業家ニ對シマシテハ大工業ニ適當ナル制度ヲ設ケテ御ヤリニナリ、中小工業者ニハ、中小工業ノ實情ニ即シタヤウナ制度ヲ御設ケニナッテ、サウシテ之ヲ二ツニ分ケテ法律ヲ御制定ニナレバ、コンナムヅカシイ法律デナシニ、誰ニモ分ルヤウナ、サウ何日モ掛ツテ何時間モ説明ヲ聽イテモ分ラヌヤウナ法律デナクシテ、極ク簡單ニ理解ノ出來ルヤウナ、極ク見易イ法律ガ出來ルコトダラウト私ハ思フノデアリマス、然ルニ斯ウ云フ工合ニ政府ガ中小工業ノヤウナ基礎ノ薄弱ナルモノモ、近代式工

業ノヤウナ基礎ノ確實ルモノモ皆一緒クタニシテ、此ノ法律デ之ヲ管理シテ制裁ヲ加ヘテ行カウト云フ、全體此ノ立法ノ根本ニ過チガアルノデヤアリマスマイカ、ソレニ立法ノ、之ヲ御制定ニナリマシタ根本ノ趣旨ガ承リタイ、先づ是ガ第一ノ要點デアリマス、ソレカラマダ澤山アリマスナリ、七分ナリ高イ利息ヲ掛ケテ預ツテ労働者ヲ喜バセ、工業者モ其ノ煩瑣ノ手續ヲ免レテ行クト云フコトガ出來ルノデアッテ、又ソレダケノコトヲ信賴シテモ宜イダケノ資格ヲ持テ居ルト私共ハ思ヒマス、デアリマスカラ、大工業家ニ對シマシテハ大工業ニ適當ナル制度ヲ設ケテ御ヤリニナリ、中小工業者ニハ、中小工業ノ實情ニ即シタヤウナ制度ヲ御設ケニナッテ、サウシテ之ヲ二ツニ分ケテ法律ヲ御制定ニナレバ、コンナムヅカシイ法律デナシニ、誰ニモ分ルヤウナ、サウ何日モ掛ツテ何時間モ説明ヲ聽イテモ分ラヌヤウナ法律デナクシテ、極ク簡單ニ理解ノ出來ルヤウナ、極ク見易イ法律ガ出來ルコトダラウト私ハ思フノデアリマス、然ルニ斯ウ云フ工合ニ政府ガ中小工業ノヤウナ基礎ノ薄弱ナルモノモ、近代式工

業ノヤウナ基礎ノ確實ルモノモ皆一緒クタニシテ、此ノ法律デ之ヲ管理シテ制裁ヲ加ヘテ行カウト云フ、全體此ノ立法ノ根本ニ過チガアルノデヤアリマスマイカ、ソレニ立法ノ、之ヲ御制定ニナリマシタ根本ノ趣旨ガ承リタイ、先づ是ガ第一ノ要點デアリマス、ソレカラマダ澤山アリマスナリ、七分ナリ高イ利息ヲ掛ケテ預ツテ労働者ヲ喜バセ、工業者モ其ノ煩瑣ノ手續ヲ免レテ行クト云フコトガ出來ルノデアッテ、又ソレダケノコトヲ信賴シテモ宜イダケノ資格ヲ持テ居ルト私共ハ思ヒマス、デアリマスカラ、大工業家ニ對シマシテハ大工業ニ適當ナル制度ヲ設ケテ御ヤリニナリ、中小工業者ニハ、中小工業ノ實情ニ即シタヤウナ制度ヲ御設ケニナッテ、サウシテ之ヲ二ツニ分ケテ法律ヲ御制定ニナレバ、コンナムヅカシイ法律デナシニ、誰ニモ分ルヤウナ、サウ何日モ掛ツテ何時間モ説明ヲ聽イテモ分ラヌヤウナ法律デナクシテ、極ク簡單ニ理解ノ出來ルヤウナ、極ク見易イ法律ガ出來ルコトダラウト私ハ思フノデアリマス、然ルニ斯ウ云フ工合ニ政府ガ中小工業ノヤウナ基礎ノ薄弱ナルモノモ、近代式工

切ナル中小工業ノ救濟ト云フモノハ成立ッ
テ居リマスノデアリマス、ソコデ今度ノ議
會ニ於キマシテ、現内閣ガ又中小工業ノ爲
ニ商工中央金庫ト云フヤウナ制度ヲ設ケラ
レタ、是ナドモ結構ナコト存ジマスケレ
ドモ、是モ果シテ適切ナル救濟策デアルカ
ドウカト云フト、是ハ私共ハ無イヨリハ宜
イト思ヒマスカラ贊成ハ致シマスケレド
モ、併シナガラ是ガ適切デアルカドウカト
云フト、今迄ノ内閣ハ度々色々ナ事ヲヤラ
レタト同ジヤウニ、是レ亦甚ダ適切デハナ
イト思ツテ居リマスガ、其ノ主ナル理由ヲ申
上ゲレバ、興業銀行、其ノ他ノ銀行方中商
工業ニ向ツテ資金ノ貸出ヲ致シマストスレ
バ、必ズ抵當ヲ要求スル、抵當ノ無イ者ニ
ハ貸サナイ、併シナガラ中小工業ニハ銀行
ニ通用スルヤウナ抵當ヲ持ツテ居ツテ金融ヲ
受ケルヤウナ、サウ云フ餘力ノアル者ハ
ゴザイマセヌ、銀行ニ通用スルヤウナ
抵當ガアレバ、何ニモ困リハシマセヌ、ソ
レカラ又政府ノ色々ナ中小工業ノ救濟ノ
資金ヲ低利デ貸出スト云フヤウナ、色々ナ
組織ガアリマスケレドモ、是ハ無限責任ノ
保證人カ何カ立テナケレバナラヌト云フヤ
ウナコトニナリマスカラ、斯ウ云フモノニ
無限責任デ保證人ニ立ツト云フ者モ甚ダ稀

ナノデアリマス、ソレデアリマスカラ、色
色コ、ニ中小商工業ノ救濟案ヘ出マスケレ
ドモ、繪ニ描イタ牡丹餅ノヤウナモノデ、
中小工業家ハドウスルコトモ出來ナイヤウ
ナ救濟案バカリデアリマス、今日マデ中小
工業ト云フヤウナ、唯掛聲バカリデ救濟サ
レテ居ツテ、實質的ニ救濟サレテ居ラヌト云
フコトハ、是ハ實際ノ實情デゴザイマス、
是ハドコデオ聽キニナリマシテモ、能ク實
情ヲ御調べニナレバオ分リニナルコトト思
ヒマス、聲バカリ中小工業ヲ救濟スルト云
フコトニナツテ居リマス、少シモ效果ガナシ、
其ノ際ニ當リマシテ、救濟ノ方ハ御實行ニ
ナラヌデ、サウシテ斯ウ云フ中小工業ニハ
非常ナ實質上ノ苦痛ト、手續上ノ苦痛ト、
此ノヤウナ非常ナ彈壓的ナ苦痛ヲ與ヘルト
云フヤウナ法律ヲ、此ノ際ニ御制定ニナルト
云フコトハ、私ハ少シ時機ヲ得ナイモノデ
ヤナイカ、然ルニモ拘ラズ大臣ハ今ガ產業
ノ隆盛ノ時デアルカラ、之ヲ制定スルノニ
出スル、又此ノ效用ニ付テハ御意見モゴザ
デ、是ガ爲ニ今御示シニナリマシタ中央金
庫ニ關スル法案モ、一面ニ於テハ政府デ提
出スル、又此ノ程度ニ付テハ御意見モゴザ
イマシタノデアリマスガ、必ズヤ相當程度
ノ役ニハ立ツベキ法制デアラウタ思フノデ
アリマス、其ノ他各方面ニ中小工業ヲ救フ
ベキ方策ガ論議サレテ居リマスルノデ、政府
ヲ分リマセヌガ、サウ云フ趣旨ノ御説明ヲ
本會議及ビコチラデ御ヤリニナツタヤウニ
思ヒマスガ、若シ私ガ伺ツタ通リノ思召シデ、
スガ、併シ一方労働者側ノコトヲ考へマシ

此ノ法案ヲ御提出ナサツタナラバ、ソレハ非
常ニ其ノ御話ガ實際ト違ツテ居リハシナイ
カト、斯ウ云フ風ニ出過ギタコトヲ申上げ
テ恐縮デアリマスガ、サウ云フ風ニ感ジマ
スノデ、ソレ故ニ其ノ點ハ如何デゴザイマ
スカト云フコトヲ伺ツタ積リデアリマス
○國務大臣(潮憲之輔君) 私ガ大體今日ノ
時機ハ此ノ法案ヲ御協賛願ヒタイ適當ナ時
機デアルト申上ゲマシタノハ、或ハ輸出ノ
關係ニ於テ、軍需工業ノ關係ニ於テ、其ノ
方面デハ兎ニ角從來ヨリ餘程活氣ヲ呈シテ
居リマス、大體カラ致シマスレバ先づ經濟
界ハ良イ方ニ向ツテ居ルノダト考ヘルノデ
アリマス、併シナガラ小サイ工業家ガ難澁
シタリ、否認ヲ致シタ筋ノ言説デハナイン
デ、是ガ爲ニ今御示シニナリマシタ中央金
庫ニ關スル法案モ、一面ニ於テハ政府デ提
出スル、又此ノ程度ニ付テハ御意見モゴザ
イマシタノデアリマスガ、必ズヤ相當程度
ノ役ニハ立ツベキ法制デアラウタ思フノデ
アリマス、其ノ他各方面ニ中小工業ヲ救フ
ベキ方策ガ論議サレテ居リマスルノデ、政府
ヲ分リマセヌガ、サウ云フ趣旨ノ御説明ヲ
ト致シマシテモ其ノ方面ニ對スル施設ハ是
ハ著々トシテ行カナケレバナラヌト思ヒマ
リマス

テモ、之ニ相當ノ保護ヲ加ヘテ、生活安定
ノ光明ヲ見セマシテ、安心シテ勤績シ、事業
主ノ爲ニ、産業ノ爲ニ働くト云フヤウニ仕
向ケルコトガ労働者ノ保護ニモナリ、且ツ又
産業發展ニモ資スル次第デゴザイマスルカ
ラ、其ノヤウナ方面ヲ考へマスレバ又今日
之ヲ捨置ク譯ニモ参リマセヌノデ、中小工業
ニ對スル保護救濟ト云フヤウナコトハ別途
ニテ出来ルダケ考ヘル、一面ニ於テハソ
レト同時ニ労働者ノ生活ニ關スル保障ヲ考
ヘテヤルト云フコトニ、兩々相進マナケレ
バナラヌモノダト考ヘテ居ルノデアリマ
ス、極メテ小サナ工場ニナリマスレバ非常
ナ困難モ伴フカト存ジマスルケレドモ、政府
原案ノ三十人以上ヲ常備シテ居ル中小工業
ニ於キマシテハ、從來固ヨリナカッタモノ
ヲ出シテ貰フト云フコトハ、其ノ程度苦痛
ヲ感ブルコトハ察スルノデアリマスガ、左
マデノ困難ナクシテ此ノ程度ノ負擔ヲシテ
貰ヘル、又サウシテ貰ヒタイ、斯様ニ成ル
ベク勞資ガ信賴關係ニ期セズシテ進ンデ
行ツテ貰フコトガ、労働者ノ爲ニモ産業界ノ
爲ニモ最モ適切ナルモノデアル、斯様ナ考
ノ下ニ御協賛ヲ仰グコトニナツタ次第デア
リマス

度午前中ニ質問致シマセヌコトデ、新ニ御質問申上ガタイ、衆議院ノ希望決議ガゴザイマス、此ノ衆議院ノ附帶決議ノ第一項ニ「政府ハ本法施行ノ實績ニ徵シ更ニ其ノ適用ノ範圍ヲ擴ムル爲小企業ニ對シテハ國費ヲ以テ之ヲ助成スル等適當ノ方法ヲ以テ本法ノ完備ヲ期スベシ」、斯ウ云フコトガ衆議院ノ附帶決議ニゴザイマス、之ニ關聯致シテ居リマスノデアリマスガ、度々ノ御説明ニ依リマシテ、政府モ此ノ附帶決議ニ對シテ御異存ガナイヤウナ御答辯ノヤウニ承ッテ居リマス、就キマシテハ私ガ先刻申上ゲマシタ通リニ、日本ノ此中小工業ト云フモノハ非常ニ今日苦境ニ陥ツテ難儀シテ居ル、而モ國家ノ爲ニハ中小工業ハ非常ナ効キヲナシテ居ルモノデアルカラ、此ノ中小工業ト云フモノハ殆ド國家ノ一つノ中堅ラナシテ居ルヤウナ形ニナッテ居ルカラ、之ヲ助長シテ之ヲ發達サセルコトハ非常ニ必要デアル、ソレト同時ニ只今大臣ノ御説明ガアリマシタ通リニ中小工業ニ從事シテ居ル所ノ労働者ノ生活状態モ之ヲ助ケテヤツテ、出來ルダケ其ノ生活ノ安定ヲ與ヘテヤルト云フコトモ必要デアル、サウスレバ今日中小工業ガ苦境ニ陥ツタトハ云ヒナガラ之ヲ捨

置ク譯ニハ行カヌ、労働者ノ爲ニハ今日之ヲ救フ所ノ退職手當金制度ノヤウナモノデモ矢張リ中小工業家ニハ苦痛ダケレドモ労働者ニハ多少ノ利益ニナルノダカラ之ヲ施行シヨウト云フ、斯ウ云フ御趣旨ノヤウニ聞エマス、是ハ何トナラバ現代式ノ工場ノ方ニ關係ナインデゴザイマスカラ、本法ヲ施行セラレテモ施行セラレナイデモ殆ド關係ガナイノデアッテ、議論ハ主トシテ中小工業ノ方ニ關係シテ居ルノデアリマスカラ、現代式ノ方ノ工場ハ議論ノ煩瑣ニ瓦ルコトヲ避ケマシテ是ハ別ニ致シマシテ、中小工業ニ付テ申上ゲルノデアリマスガ、若シサウ云フヤウナ御趣旨デアルトスルナラバ、ソレダケハ別個ノ法制ニ依ツテ御考ヘニナッテ宜カラウデヤナイカト申上ガタノハ、即チ此ノ衆議院ノ第一項ノ其ノ希望條件ノ趣旨デアルノデアリマス、大工業ニ於テハ必要ハナイガ中小工業ノヤウニコンナニ難儀シテ居ル所ノ工業ニ對シテハ別個ニ御考ヘニナッテ、國家デ之ヲ幾ラカ救助シテヤルト云フヤウナ途ヲ御考ヘニナルト云フコトガ、最モ是ハ適切ナ御考ヘデハナカラウカト思フノデアリマス、即チ衆議院ノ此ノ附帶決議ノ趣旨ハ私モ相當ナ理由ノアルコトダト思フノデアリマス、是ハ御承知ノ通リニ元々此ノ

退職手當金制度ヲ社會局ニ於テ法制化シヨウト云フ所ノ經過ハ今朝モ申上ガマシタガ、モ矢張リ中小工業家ニハ苦痛ダケレドモ労働者ニハ多少ノ利益ニナルノダカラ之ヲ施行シヨウト云フヤウナコトガ行シヨウト云フ、斯ウ云フ御趣旨ノヤウニ聞エマス、是ハ何トナラバ現代式ノ工場ノ方ニ關係ナインデゴザイマスカラ、本法ヲ施行セラレテモ施行セラレナイデモ殆ド關係ガナイノデアッテ、議論ハ主トシテ中小工業ノ方ニ關係シテ居ルノデアリマスカラ、現代式ノ方ノ工場ハ議論ノ煩瑣ニ瓦ルコトヲ避ケマシテ是ハ別ニ致シマシテ、中小工業ニ付テ申上ゲルノデアリマスガ、若シサウ云フヤウナ御趣旨デアルトスルナラバ、ソレダケハ別個ノ法制ニ依ツテ御考ヘニナッテ宜カラウデヤナイカト申上ガタノハ、即チ此ノ衆議院ノ第一項ノ其ノ希望條件ノ趣旨デアルノデアリマス、大工業ニ於テハ必要ハナイガ中小工業ノヤウニコンナニ難儀シテ居ル所ノ工業ニ對シテハ別個ニ御考ヘニナッテ、國家デ之ヲ幾ラカ救助シテヤルト云フヤウナ途ヲ御考ヘニナルト云フコトモ詳シク御承知デゴザイマセウガ、労働者ガ一、資本家ガ一、國家ガ一、斯ウ云ニ御贊成デアルトスルナラバ、私ノ只今申上ゲタヤウナ趣旨ニ御贊成ニナルト云フシモ政府ガ此ノ衆議院ノ附帶決議ノ第一項ニ御贊成デアルトスルナラバ、私ノ點ハサウ云全額ヲ負擔サセテ、サウシテ此ノ退職手當金制度ヲ御設ケニナルト云フ此ノ根本觀念ガ、實情ニ即シテ居ラスト思ヒマスガ、若干シテ居ルト云フ譯デモアリマセヌカラ、其ノ労働者ト其ノ中小工業者ト兩方ニ之ヲクナッテ居ルト云フ、是ハ國家ノ爲ニハ能ク社會局デハ私モ申上ゲナハ、大概是ハ能ク社會局デハ私モ申上ゲナ致シマス、所デ失業保険制度ニ於キマシテト云フヤウナコトニナッテ來タ、其ノ來歴ハ今朝詳シク申上ゲマシタカラ、只今ハ省略

致シマス、所デ失業保険制度ニ於キマシテハ、大概はハ能ク社會局デハ私モ申上ゲナクトモ詳シク御承知デゴザイマセウガ、労働者ガ一、資本家ガ一、國家ガ一、斯ウ云ニ御贊成デアルトスルナラバ、私ノ只今申上ゲタヤウナ趣旨ニ御贊成ニナルト云フコトモ詳シク御承知デゴザイマセウガ、労働者ガ一、資本家ガ一、國家ガ一、勞働者ガ一ト云フヤウナ工合デ國家ト労働者ト資本家ト三分シテ之ヲ負擔スルト云フヤウナコトガ普通ノ觀念ニナッテ成立シテ居ルト云フコトモ詳シク御承知デゴザイマセウガ、労働者ガ一トニナルノデアリマスガ、其ノ點ハサウ云フ工合ニ解釋致シテ宜シウゴザイマセウカ、其ノ國家ガ一、事業家ガ一、勞働者ガ一ト云フコトヲ申上ゲタノハ、是ハ唯參考ニ申上ゲタノデアッテ、國家モ幾分之ヲ救助シテサウシテ御ヤリニナッテ、初メテ中小工業者モ助リ、勞働者モ助ツテ、サウシテ產業ノ平

和ナリ、中小工業ノ救助、助長ト云フモノガ出來ル、斯ウ云フコトニナルノデナイカト、斯ウ思ヒマスルガ、其ノ點ノ大臣ノ御意向ヲ承ッテ置キタイ

○國務大臣（潮惠之輔君） 衆議院デ附ケラ

レマシタ此ノ附帶ノ條項デゴザイマスガ、是ハ政府トシテモ若シ此ノ法律ガ成立シタ是ハ政府トシテモ若シ此ノ法律ガ成立シタ曉ニハ、勿論此ノ附帶條項ニ付キマシテモ、其ノ趣旨ニ於テハ十分ニ考慮シテ見ルト云フ趣旨ノコトヲ申シテ居ルノデアリマス、是ハ御話ノ方針ト致シマシテハ、是モ同様ナ趣旨デアラウト思フノデアリマス、衆議院デハ兎ニ角本案ニ對シマシテハ政府原案ヲ五十年ニ直サレタノデアリマスガ、三十年ニ致シマシテモ、將來矢張リ是ハ範圍ハ擴メテ行クベキモノダト云フコトヲ前提ニサレマシテ、將來小サイ事業ニ對シテ斯ウ云フ制度ヲ布クナラバ、此ノ法律案ノヤウナヤリ方デハムヅカシカラウカラ、サウ云フ場合ニハ更ニ例トシテ示シテアリマスル法モアルデアラウカラ、左様ニシテ此ノ法律ヲ段々完成シテ行クヤウニト云フ方針及び趣意デアリマスノデ、將來此ノ法案ノ範圍ヲ擴張シテ益、小企業ノ方ニモ之ヲ適用シテ參ル場合ニハ出來ルダケ此ノ趣旨ニ副フヤ

ウニ國家モ努力シナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、併シ今日ノ提案デアリマスル三十名ト云フ程度ノ工場ニ於キマシテハ幾度カ繰返シマスガ、工業主モ負擔犠牲ト云フモノモアリマスルケレドモ、此ノ程度ノモ

ノデ先ヅ原則トシテヤツテモ宜イト思ヒマス、ラスルトカ云フ具體ナ方法ヲ以テ致シマセ

其ノ程度ノ負擔ガ必ズシモ國家ガ或ハ助成ニ考ヘマスガ故ニ、此ノ法案ニ付キマシテスデモ成立ツテ行クモノデアルト云フヤウ

ニ考ヘマスガ故ニ、此ノ法案ニ付キマシテスル場合ノ措置ト同ジヤウナ措置ハ之ニ採入レテ居ラナイノデアリマス、大體ニ於キ

ハ衆議院ノ示サレタヤウニ今後小企業ニ對スル場合ノ措置ト同ジヤウナ措置ハ之ニ採入レテ居ラナイノデアリマス、大體ニ於キ

○藤原銀次郎君 私ハ大臣デナケレバイケナイ質問ヲ残シテ置イタノデアリマスガ……

○委員長（伯爵林博太郎君） 間モナク鈴ガ鳴リマセウカラ、モウ一度クラキ機會ガアリマスカラ、其ノ時ニデモ……

○藤原銀次郎君 今ノヤウナ根本問題バカリ集ヌテ來マシタカラ、ソレヂヤ此ノ次ノ……

○委員長（伯爵林博太郎君） ソレヂヤ外ノ政府委員ニ御質問ノアル方ハ……

○男爵安場保健君 此ノ第三十條ノ「準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ」ト云フ條項ニ依リマスト、

○委員長（伯爵林博太郎君） 此ノ本法ノ十六條、十七條ノ積立ヲシナク

○男爵安場保健君 結局サウシマスト、各競争會社ニ於キマシテハ、結局最低ノ退職準備積立金ニ皆落著イテシマフヤウニ思ヒ

○政府委員（赤松小寅君） 十二日分以上ノ退職手當ヲ支給致シマス會社デアリマスレバ、規定ヲ以チマンテソレガ相當確實ニ行ハレマスヤウナ見込ノ付テ居リマス事業デアリマスナラバ、三十條ニ據ツテヤリマスコトヲ差支ナイト思ヒマス、從ヒマシテ先ヅソレガ厚薄ガ出來ルヤウナ形ニナルヤウニ思ハレマスガ、是ハ其ノ營業狀態ニ依ツテ行政官廳ガ殖シタリ減シタリ爲サル御考ヘデテヤルヤウナコトニ相成ルダラウト考ヘテ

○政府委員（赤松小寅君） 三十條ノ準備積立ノ割合ハ十二日分ノ支給ヲ確保スルニ足リマス程度ヲ目安ニ致シマシテ考ヘテ参リタイト思ツテ居リマス、併シ之ニハ御覽ノアリマスカ

持ツテ居ル譯デ、從ヒマシテソレ等ヲモ考慮致シマスレバ、場合ニ依リマスレバ或ハ十二日分ヨリ以上ノ準備積立金ガナケレバナラヌ場合モ生ズルカ知レマセヌガ、大體先ヅ

十二日分位ヲ見當ニ致シマシテ、會社ノ状況況ナリ、或ハ其ノ會社ノ從來ノ解雇ノ状況ナリヲ見マシテ、個々ニ就テ準備積立金ノ限度ヲ考ヘテ見タラ宜カラウカ、只今ノ所ハサウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○委員長（伯爵林博太郎君） リマスカラ、其ノ時ニデモ……

六一

午後十時三十八分開會

○委員長(伯爵林博太郎君) 是ヨリ退職種立金及び退職手當法案ノ特別委員會ヲ開會致シマス、藤原君

○藤原銀次郎君 先刻ニ引續キマシテ、大臣ニ御尋ネ致シタイト思ヒマス、次ハ日本ノ産業ノ賃金ノ政策ノ問題デゴザイマス、是ハモウ萬々御承知デ私カラ此處デ彼此詳シク申上ゲルコトハ蛇足ト考ヘマスケレドモ、日本ノ此ノ賃金ト云フモノハ「ヨーロッパ」ヤ「アメリカ」ナドノ賃金ト、賃金ノ立テ方ガ非常ニ違ッテ居リマス、ソレデ「ヨーロッパ」アメリカへ一時間幾ラト云フコトニ賃金ヲ規定致シテ居リマシテ、其ノ一時間何ボト云フ外ニハ何等ノ之ニ加ヘルモノガ無イト云フコトヲ原則トシテ居リマス、ダカラ例ヘバ一時間五十錢トシマスト、八時間トナレバ四圓ト云フコトデ、其ノ外ニ「ボーナス」モ無ケレバ手當モ無シ、何ニモナイ、唯時間外ニ働イタリ何カシタ時ニハ、時間増シノ收入ガアリマスケレドモ、其ノ一定ノ決メタ賃金ノ外ニハ何ニモ附加ヘルモノガナイト云フコトヲ原則トシテ居リマス、之ニ反シテ日本デハ其ノ標準ノ定額賃金ト申シマスカ、定額賃金ダケハ非常ニ少クナツテ居リ云マスケレドモ、之ニ加フルニ色々々ノ手當ガ

アリマシテ、或ハ指勤ノ手當ダトカ、或ハ米價ノ手當ダトカ、或ハ其ノ職業ニ依リマシテ出來高ノ賞與トカ、或ハ增加シテヤルト云フコトガ日本ノ賃金ノ政策デアリマシテ、全然「ヨーロッパ」トハ賃金政策ヲ異ニシテ居リマス、従ツテ前刻ニモ申上ゲマシタ家族制度ノ下ニ起ツタ賃金政策デアリマシテ、「ヨーロッパ」ノヤウニ権利義務ガ起ツタノトハ其ノ出發點ガ違フカラ、従ツテ斯ウ云フ工合ニナツテ來タモノダト思ヒマスガ、サウ云フコトノ爲ニ定額ノ賃金ト云フモノハ一定シタモノデアリマスケレドモ、サウ云フモノヲ色々々ナ手當ヲ附加ヘタリ、又ソレヲ減シタリ色々々ナコトモアリマスガ、兎ニソレヲ附加ヘテ行クト云フヤウナコトノ爲ニ事業主ガ事業上ノ利益デモアリマシテ、都合ノ好イ時ニハ是ガ自然ニ殖エテ參リマス、色々ナ手當ガ自然ニ殖エテ參リマス、殖エテ利益ノ多イ時ニハ何トカカントカ色々ナ名目ノ下デ手當トカ、賞與トカ云フモノガ殖エテ參リマス、或ハ手當ノ名義、或ハ賞與ノ名義、色々ノ名義ニハ致シマスガ、實際ノ實收ト云フモ非常ニ不景氣ノ時ガアリマシテ、事業主モ

非常ニ苦シニ居ルト云フ時ニハ此ノ定額貲
金ト云フモノハ其ノ儘ニナリマスケレドモ、
或ハ賞與ガ減ルトカ、色々ナ手當ガ減ルト
カ云フヤウナコトデ是ガ減ツテ參リマシテ、
サウシテ事業主モ助リ、労働者モ苦痛ヲ覺
エル、苦痛ヲ感ズルコトハ感じテ居リマス
ケレドモ、ソレガ爲ニ事業ノ潰レルノヲ助
ケルト云フヤウナ非常ニ又微妙ノ效果ガア
ルノデアリマス、現ニ井上財政ノ時ニハ整
理緊縮ト云フモノヲ極端ニ實行サレマシテ、
ソレガ爲ニ日本ノ事業ト云フモノガ非常ニ
衰微ニ陥リマシテ、破産及工場閉鎖ナドガ
簇出致シマシタ、其ノ時ニハ事業主ノ方力
ヲ勞働者ニ相談ヲ致シマシテ、其ノ諸手當
トカ、賞與トカ云フヤウナモノヲ減額シタ
ノモアリマスシ、又労働者ノ方カラ自發
的ニ事業主カラ何等ノ相談モシナイケレド
モ、労働者ノ方カラ自發的ニ此ノ工場ノ閉
鎖ヲスルト云フト労働者モ非常ニ難儀スル
カラ工場ノ閉鎖ニハ代ヘラレナイカラ、我
我ノ手當ヤ賞與ヤ其ノ他ノモノヲ減スト云
フコトハ固ヨリ覺悟ノ上ダカラ、何所迄テ
モ減シテ差支ナイカラ、ドウカ事業ノ成立
ツヤウニシテ貴ヒタイト云フヤウナコトヲ
労働者カラ事業主ノ方ヘ申入レテ、事業主
モ涙ヲ流シテ之ヲ受容レテ、ソレデハドウ

カ暫ク辛抱シテ吳レ、何レ良イ時ニ遭ツタ
ラ此ノ御返シハキットスルカラ、ドウゾサウ
シテ貰ヒタイト云フヤウナコトヲ資本、勞
働ノ間ニサウ云フ誠ニ美シイコトガ行ハレ
テ、サウシテソレバカリデハアリマセヌ、
其ノ結果事業主モ亦極端ニ工場内ノ整理ヲ
シテ、サウシテ生産費ノ引下ヲ圖ルト云フ
コトガ、日本ノ今日ノ產業ノ非常ニ隆盛ニ
ナツタ基デアル、其ノ時ニ日本ノ產業ノ根柢
ト云フモノハ固クナツテ、サウシテ今日ノヤ
ウナ景氣ニ向ヒマシタカラ、日本ノ產業ト
モノハ大概承知シテ居ルコトデアル、殆ド
天下ニ隠レナイ事實デアリマス、斯クノ如
キコトハ是ハドウ考ヘテ見テモ日本ノ非常
タリ、賃金ト云フモノハ、手當トカ、
ナ美風デアツテ、附加ヘテ申シマスガ、サウ
云フ工合ニシテ労働者ノ賃金ガ減リマシ
ト同時ニ、總テ復舊シテ、恐ラクハ其ノ
賞與トカサウ云フ種類ノ減リマシタノ
ハ、ソレヲ斯ウ云フ景氣ガ出テ參リマス
ソレハ事業主ノ方モ、労働者ノ好意ニ對シ
復舊以上ニ増加シテ居ルト信ジテ居リマス、
テ報ヒル爲ニ、ソレハ増加シテ大概其ノ減
額シタ以上ニ増額シテ居ルト思ヒマス、是

等ハ其ノ表面ニ現レタ賃金トカ、何トカ云
フモノデナクシテ、手當、賞與ト云フ名義
デ致シテ居ルカラシテ、表面ニハチヨット分
リニクイケレドモ、斯ウ云フコトガ非常ナ
微妙ナ効キデ、日本ノ賃金制度ノ非常ナ美
風ト私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、斯ウ
云フコトノ爲ニ、我ガ國ノ産業ガ「ヨーロッ
パ」「アメリカ」ノヤウナ工合ニ資本、勞働ノ
非常ナ衝突ヲ起サシテ、平和ヲ維持シテ、
サウシテ産業ノ根柢ヲ固クシテ參ッテ居ル
ノデアルト是ハ固ク信ジテ居リマス、サウ
云フ現狀カラ考ヘテ見マスルト云フト、今
其ノ退職手當ノ法制ヲ御立案ナサル時ニ、
資本家ガ儲ル時ニハ餘計ニ積立テルノハ當
前デアルカラ、法律ヲ以テ之ヲ強制シテ、
百分ノ三積立テロトカ是ダケノ利益ガアツ
タ時ニハ是ダケノ割合デ積立テロト云フヤ
ウナ、色々難解ノ法律ヲ御制定ナサルト云
フコトハナサラヌデモ、サウ云フ美風ノ上
ニ成立ッテ居ル所ノ賃金制度デアルト云フ
コトヲ御考ヘニナレバ、斯ウ云フムツカ
シキ法律ノ御規定ヲナサラヌデモ、モウ少
シ御規定ノナサリ方ガアリサウナモノダト
思ヒマス、此ノ法律ノ文面ヲ讀ンデ見マス
レバ、少シモ我ガ國ノ賃金制度ノ上ニアル
サウ云フ溫カイ資本、勞働ノ間ニ情誼ガアツ

テ、賃金ノ制度ガ出来テ居ルト云フコトヲ斟酌ナクシテ、只権利義務デ「ヨーロッパ」ヲ拘ヘテ居ル國ノ標準ヲ、法制デ取締ツテ行カウト云フヤウナ風ト、稍、同ジヤウニ見エル、ソレデ今我々ノ考ヘテ居ル所ト、立法上ニ現レデ居ル所トガ、非常ナ相違ガアルヤウニ思フ、從ツテ此ノ字句ノ點ニ付キマシテ「少クトモ」ト云フヤウナ字ヲ使ツテ、其ノ「少クトモ」ト云フ字ニ付テ説明ヲ承レバ、此ノ「少クトモ」ハ文理上ノ「少クトモ」ト實質上ノ「少クトモ」ト解釋ガ違ツテ、資本家ガ餘計ニ儲ツテ、餘計ニ賞與ヲ給シタモノヲ、此ノ法律ガ出來タ爲ニ、給シナイヤウニナルト云フコトヲ防グ爲デアツテ、ソレデ止ムヲ得ズ「少クトモ」ト付ケタノダト云フヤウナ御説明ヲ、再三繰返シテ承ツテ居リマスガ、ドウモ其ノ根本ノ趣旨ニ於テ日本ノ賃金制度ト云フモノヲ、能ク御了解ニナツテ御立案ニナツタヤウニハ解釋ガ出来マセヌヤウニ思ヒマス、ソレハ私ガサウ云フ風ニ解釋シテ、サウ云フ感ジヲ懷クノハ間違ツテ居リマスカモ知レマセヌガ、ドウモサウ云フ工合ニ感ゼラレマス、就テハ非常ナ根本ノ重大問題ダト思ヒマスカラ、大臣ノ之ニ對シテノ御考ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(潮憲之輔君) 私モ此ノ勞働者ノ賃金政策ノコトニ付キマシテ詳シク承知シテ居ル譯デハゴザイマセヌガ、色々見マシタリ、讀ミマシタリ、聞キマシクリスル所ニ依リマスト、藤原サンノ外國ノガ權利主義ノ關係ニ偏シテ居ルト云フヤウナ御話デアリマシタガ、私共モ變ツタ言葉デアルカモ知レマセヌガ、兎角外國ノハ數學的ト申シマスルカニ偏シテ居ルヤウナ話モ聞クノデアリマシテ、大體同様ナ御趣意デアルカト思フノデアリマス、ソレニ比ベマスレバ我ガ國ノ工場等ニ於ケル勞資ノ關係ハ外國流ノモノトハ違ヒマシテ今御述ベニナリマスルヤウナ定額賃銀ノ外ニ、時ニ依ツテハ或ハ手當トカ、賞與トカ云フ名目デ增加支給モシテ居ル、從ツテ又勞働者ノ方モ事業主ヲ思フ情愛ノ切ナルモノガアリ、大變麗シイ工場モ多々アルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ飽ク迄斯様ナ法制ヲ作リマシテモ、勞資兩方面ノ間ニ相互ノ信賴ナリ情愛ノ關係ト云フモノガ雙方カラ働くト云フコトハ我ガ國ノ美風トシテ是非存續ヲサセタイト思フノデアリマスガ、併シ本案ノコトハ直ニ賃金政策ト云フモノト直接ノ關係ハ如何カトスウ信ズルノデアリマス、勞働者自ラ百分ニヲ出ス、事業主モ賃金ヲ標

準ニハ致シマスガ、其ノ百分ノ二ヲ出ス、サウシテ或程度利益ノアリマシタ場合ニハ是ハ政府委員カラモ申上ゲマシタヤウニ、決シテ其ノ利潤配當ト云フヤウナ意味デハナクシテ負擔ヲ計リマスル標準ノヤウナ積力ガ事業主ニアル場合ニハ百分ノ三以内ニリデ十七條ノ一號ニ二號ノ規定ヲ設ケテ負擔於テ積立テテヤルト云フノデヨザイマスルカラ、私ハヨク御話ノコトヲ了解致シ兼ネルノカモ知レマセヌケレドモサウ云フ趣意デ必ズシモ所謂賃銀政策ト云フモノト關聯ハアルカモ存ジマセヌガ、直接不可分ノ關係ニ立ツモノデモナイヤウニ思フノデアリマス、賃金ニ關スル政策ハ又別個ノ根本問題トシテ考フル必要ガゴザイマスルガ、ソレト又離レテ積立ニ付テハ考ヲ組合セテ見テ宜イモノデハナイカ、斯様ナ考ヲ以テ立案ヲ致シタ趣意ナンデゴザイマス

トモ」ト云フヤウナ文字ヲ入レマシタノハ此ノ在來ノ手當ガナカヽ立派ナ手當ノ制度ヲ持ツテ居リマシテ、相當大キイ手當ノ制度ヲ持ツテ居ルノガ澤山アルノデアリマス、是ハ御承知ノ如ク十二日分トカ、十五日分トカ、或ハ二十五日分ト云フヤウナ手當ノ制度ヲ持ツテ居ルノガアリマス、サウ云フヤウナモノガ下ルカラ「少クトモ」ト云フ文字ヲ以テ上ノ方へ押ヘ付ケテ行カウト云フ意味デハアリマセヌノデ、是ハサウ云フヤウナ場合デモ十二日ダケハ法律デ強制シテ置クト、併シ十二日分以上ヲ積立ツテ手當トシテ下サルモノト、サウ云フヤウナ日本ノ事業主トシテ、手當ヲ下ダケハ又サウシモノト思ヒマシテ、出來ルダケハ又サウシナクチヤナラヌト思ヒマシテ、ソコデサウ云フヤウナ場合ニハ、例ヘバ從來十八日分ト致シテ置キマスト、法律ノ上デ積立金ヲル所ガ少クトモト言フコトガナイト、十二日スル上ニ於テハ、十八日分ニ相當スル積立日分ダケガ本法ノ積立金ニナルト云フ面倒ガルト云フコトヲ防グ意味ヨリモ、從來ノ

ソレニ依ル積立金ナドヲ、本法ニ依ル積立
金トシテ、保護シテ行キタイ精神デ保護シ
ガ入レテアリマスカラ、ソコハ私共ノ説明
ガ十分デアリマセヌノデ、非常ニ面倒ナ法
律關係デゴザイマスカラ、誤解ナサルノモ
御尤モカト思ヒマスガ、サウ云フ精神デヤッ
テ居ルノデアリマス、其ノ點ハ是非誤解ノ
ナイヤウニ致シテ戴キタイト思ヒマス

○藤原銀次郎君 ドウモ私共ノ伺フ方ガ惡
イト思ヒマスガ、イツモ誤解ヲ生ジテ誠ニ
御面倒ヲ生ジテ恐縮デアリマス、併シ今ノ
御説明ヲ進行シテ行ク上ニ於キマシテ、其
ノ上デ社會局長サンノ今ノ御説明ニ對シテ
私ノ所見ヲ述べタイト存ジマスガ、丁度大
臣ガ御出デニナリマシタカラ、大臣ノ方ヲ
先ヘ濟マセタイト思ヒマス、或ハ一緒ニ關
聯シテ居リマスカラ一緒ニ申上ゲマシテ、
其ノ方ガ便利カト思ヒマス、私ガ此ノ條文
ヲ今朝カラシテ色々御説明ヲ承ツテ熟考
職手當以上ノ退職手當支給ノ規則ヲ持ツ
テ居ル事業主モ多カラウト思ヒマス、
本法ヲ實際ニ施行スルニ當リマシテ、

業主ハドウ云フ風ニ之ヲ扱フダラウカ、
斯ウ思ツテ考ヘテ見マスト云フト、只今社會
局長官ノ御説明ノヤウナ工合ニハナラヌト
思ヒマス、實際ニ於キマシテハ三十條ノ規定
ガアツテモナクテモ、例ヘバ本法ニ依ツテ法
律上積立ヲ強要セラレテ居リマスル分ハ、
是ハ法律上ノ退職手當トスウ實際上ハナル
ト思ヒマス、今後之ヲ實際上施行シテ行ク
場合ニハ、今回退職手當金制度ト云フモノ
ガ施行サレタカラト云ツテ、從來例ヘバ二十
日分ノ給與ヲシテ居ツタ工場デハ新シイ退
職手當金ノ制度ガ出來タカラト云ツテ、十二
二日分デ之ヲ知ラヌ顏シテ、今度ノ法律十
二日分ダケノ規定デ宜シイト、斯ウ云フコ
トニナツカラ十二日分ダケ給與スルト、斯
ウ云フヤウナ態度ハ先刻カラ度々申上ゲマ
シタ通り、日本ノ資本ト勞働ノ關係ハサウ
カラ、互ニモウ少シ溫カ味ヲ以テ經營シテ
居ルノデアリマスカラ、法律デ十二日分ダ
ケ給與スレバ宜シイト云フ、先刻ノ御説明
デハ義務ノ額ト義務デナイ額トカ云フコト
ニ色々ノ御説明ガアリマシタガ、ソレハ事
業主ノ方カラハ義務デアツテモ義務デナク
テモ、ソンナコトハ何方デモ關係ガナイノ

日分ト例ヘバ規定シテアツテモ、實際之ヲ給與スル場合ニ於キマシテヘ、是ハ法律ハ御レドモ御前ハ能ク働イテ吳レタカラ其ノ十二日分ノ外ニ是ダケハ特ニ又會社カラ給興スルカラ、ドウゾソレヲ承知シテ貴ヒタイ、是マデ能ク働イテ貰ッタカラ是ダケハ特ニ別ニ法律以外ニ上ゲルカラ、斯ウ云フヤウナコトニ實際上ニ於テハナルノデアラウト思ヒマス、其ノ上ニデスネ、今回ノ此ノ法律ニ依リマシテ見マスト云フト、此ノ積立ヲスレバ租稅ノ免除ガ出來ルトカ何トカ云フ特典ガアル、差押ヲ免レルト云フ特典ガアルト云フヤウナ色々ノ御説明ガアリマシタガ、大概ノ事業主ハ差押ヲ免レルナント云フコトハ考ヘテ居リスママイ、ソレカラ又是ハデスネ、法律ニ於テ十二日分ダケノ準備金ヲ持ッテ居ルノデアッテ、ソレ以上ノ準備金ヲ持ッテ居ル必要モナイトスレバ、法律ニ於テ積立テルヤウナサウ云フヤウナ阿呆ラシイ事業主ハナイト私ヘ思ヒマス、何トナレバ、此ノ法律ニ依ッテ積立テタ時ニハ稅金ハ免レルカモ知レマセヌガ、同時ニ之ヲ運用スル時ニハ國債ヲ以テ擔保ニ入レロトカ、之ヲ運用シタ時ニハ三年以下ノ禁錮

ニ處スルトカ云フヤウナ非常ナ重イ刑罰方付イテ、非常ニ重大ナ關係ガソコニ起ッテ來ルノデアリマスカラ、ソコデズネ、ソコデ是ハ義務額ト仰シヤイマシタガ、法律デ謂フ最低ノ積立ダケヲシテ置イテ、ソレ以上ハ義務ガナインダカラ積立テテ置カヌデモ宜イノデアリマス、ソレ以上ハ所謂先刻ノ御説明ノ義務額ダケノ額ヲ積立テテ置イテ後ハ積立て置カヌデ、而シテ支給スル時ニ經費ノ方カラソレヲ支給シテヤレバ、税金ハ關係ナイノデアリマスカラ、先刻來是ハ大藏省ノ御當局ノ御説明ガアツク時ニ、經費デ拂ツタ時ニハ税金ヲ私ヘナクテモ宜イ、斯ウ云フ譯デアリマス、義務額ダケヲ、是ハ法律ノ義務デアリマスカラ、是ハ本法ノ施行方出來レバ積立テナケレバナラヌ、ソレ以上ノモノヲ積立テ、法律ノ免稅ノ規定ノ恩典ヲ受ケルト云フヤウナコトハ實際ニ於テハ必要ハナイト思フ、更ニ又サウスレバ、其ノノ積立ヲシナイデ置イテ、實際給與スル時ニ於テ、經費カラ出シテ給與スレバ、其ノ特典ハソレト同ジヤウナ風ニナル、サウ云フヤウナ風ニ此ノ法律ヲ實行スル上ニ於テ考ヘマスト云フト、實ニ唯ヤ、コシイバカリデアツテ、實際日本ノ賃金ノ制度トカ、退職手當金制度ノ今日實際ニ行ハレテ居ル

所ノ精神ニ非常ニ矛盾シテ居ル所ガ出來テ
來ハシナイカト思フ、實行ノ上ニ於テ矛盾
シテ來マスケレドモ、精神ニ於テモ矛盾シ
テ居ルシ、又御説明ガ實際ニ篤富ラナイヤ
ウニナル外ナイト思フノデアリマス、是ヘ
寧ロ社會局長官ニ御答辯ヲ願ツタ方ガ宜イ

ノ法律デヘ、其ノ二十日ト云フモノヲ矢張リ此ノ法律ノ上ノ積立金ニ之ヲ準用……、使ツテ行キタイ、即チ二十日ニ對シテ若シ積立ヲ爲サルコトハ當然デアリマスガ、其ノ上ニ事業主ガ強ヒテ二十日ニ對シテ積立ヲ爲サルト云フナラバ、ソレハ矢張リ本法ノ上ノ積立金デアルト斯ウ云フ工合ニシマシテ、差押トカ或ヘ免稅トカ云フコトニ付テモ、同ジヤウニ取ツテ行ツタ方ガ宜イヂヤナイカト云フヤウニ私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレハマア如何ニモ經濟知識ニ疎イ話デ、詰ラヌコトデアルト云フ風ニ御解釋ニナルカモ知レマセヌガ、併シ必ズシモ一律ニサウ迄御解釋ニナリマセヌデモ、進ンデ或ル程度餘計ニ積立テ行カウ、矢張リ義務ノ履行以上ニ積立テ行カウト云フ場合ニハ、矢張リ是ハ本法ノ積立ト見テヤリマシテ、サウシテ差押免稅ノコトニ付テモ、同テモ宜イヂヤナカト云フヤウナ意味デ、「少クトモ」ト云フ文字ヲ入レテ居ルノデアリマシテ、私共モ藤原サンノ御話ノヤウニ、從來ノ相當ナ制度ヲ、本法ガ十二分トシテアルカラ下ゲルト云フヤウナコトニヘ考ヘテ居リマセヌ、併シ此ノ「少クトモ」ト云フ

○藤原銀次郎君　大概ニ私ノ申上ゲタコト
モ御了解ノ出来タヤウニ拜察致シマス、私
ハ十二日以上ノ分ヲ支給致シマス時ニハ、
此ノ先刻申上デマシタ通リニ、我々ハ働イ
テ貰ツタカラ、此法律以外ニ是ダケノモノヲ
ヤルト云ツテ給與シテ行クト云フコトニ實
際上ハナルカラ、少クトモ十二日分以上ノ
モノヲ積立テル場合ノコトヲ豫想シテ、色
色法律ナドニサウ云フ條項ヲ御用ヒニナル
ト云フコトハ、日本ノ實際ノ工場ノ賃金制
度ナドノ實情ニ即シテ居ラスト云フコトヲ
申上ゲタノデアリマス、何モ積立金ヲシテ
置カヌデモ、勞働者ニ其ノ時ニ支給シテヤ
レバ、ソレデ法律ノ免稅ノ取扱ヲ爲サルト
云フノハ同ジコトデアリマス、又差押ナ
ドヲ受ケルカラ、此ノ以上ニ積立テ置カウ
ナント云フヤウナ、ソンナ阿呆ラシイ考ヲ
持ッテ居ル人ハ實際ニナカラウト思フ、サウ
云フコトヲ假定シテ御起草ニナツタカモ知
レマセヌケレドモ、實際上ハサウ云フコト
ハナカラウト私ハ思ツテ居リマス、ケレドモ
是ハ私が思ツテ居ルノダシ、社會局ノ御當局
ハサウ云フコトニナルカモ知レヌカラ、法

律ヲ以テ少クトモト書イタノダトスウ云フ
ヤウナ御説明デアルトスレバ、マア其ノ位
デ止メテ宜イダラウト思ヒマスガ、之ニ付
キマシテサウ云フヤウニ日本ノ賃金制度ト
云フモノハ、サウ云フ複雜ナ、「ヨーロッパ」
「アメリカ」ナドト違ツタヤウナ非常ニ複雜
ナ、而モ温情ノ籠ツタ賃金制度デアリマス
カラ、其ノ運用宜シキヲ得レバ、此ノ法律
ガアルト云フヤウナコトハ却テ今ノ三十條
ノ少クトモ十二日分ト云フヤウナ規定
ハ、此ノ温情ノ籠ツタ賃金制度ニ反スルト
云フ結果ヲ來シハシナイカト、私ハ思フノ
デアリマス、是ハ主義上ノ問題ニナリマス
カラ、内務大臣ノ御答辯ヲ御願ヒ致シマス
○國務大臣(潮憲之輔君) 其ノ點ニ付キマ
シテヘ先刻ノ御尋デ一應御答ヘシマシタ所
ト、大體私ノ考ハ變ラナイノデアリマス、御
意見ノ所ハ誠ニ御尤モノヤウニ拜承ハ致シ
マスケレドモ、此ノ賃金ニ關スル美風温情
ト云フモノハ飽マデモ是ハ貴イテ行カナケ
レバナラヌ、併シナガラ此ノ積立ヲスルト
云フコトハ、矢張リ賃金ニ直接不離ノ關係
ガアル譯デハナイノデアリマシテ、是アル
ガ爲ニ、却テ、法ヲ決メタガ爲ニ事業主ガ
十二日分ナラ十二日分デ宜シイト云フコト
ニ從來多額ヲヤッテ居ツタモノガ切リ下ゲラ

レルコトハ恐ラクナインデハナイカ、少ク
トモ此ノ法案モ從來發達シマシタ慣行ヲ基
礎トシテ、慣行ノ美風ヲ基礎トシテヤッテ來
タノデアルシ、又慣行ハ工場主ノ温情ニ依ツ
テ育ツテ來タノデアリマス、サウ云フ歴史ノ
跡ヲ見テモ亦今後ト雖モ、又事業主ガ勞働者
ニ對スル情愛ト云フモノノ變ルベキ筈ハナ
カラウト思ヒマスカラ、此ノ法ヲ設ケテ置
ケバ、從來二十日分ヤラレタモノハ矢張ニ
十分出シテ下サルデアラウ、斯様ニ考ヘテ
居ルノデアリマス
○藤原銀次郎君 大臣ノ御考ノアル所ハ能
ク分リマシタガ、モウ再び御質問申上ゲル
程ノコトハアリマセヌガ、只今大臣ノ御話
ニナリマシタヤウニ、即チ從來ハ假ニ二十
日分ヲ給與シタモノガ、其ノ法ガアルガ爲
ニソレラ十二日分ニ切り下ゲル、只今大臣ノ
御話ノヤウニ致シマシタナラバ、即チ從來
ト云フヤウナ場合ニハ、矢張リ此ノ二十日
分ト云フ日數ヲ本法ニ依ル日數ニ見マシテ、
サウシテ二十日ニ應ズル所ノ準備積立ノ方
ヲ本法ニ依ル積立ニ見ルト云フコトガ、私
共ノ方カラ考ヘマスト云フト矢張リ妥當デ
ハゲルト云フヤウナコトハナカラウト思フ、
斯ウ云フコトヲ仰セラレマスカラ、私方申
上ゲマスコトト、大臣ノ只今ノ御話トハ全
然一致スルノデアリマス、然ラバ少クトモ
ノ積立金デアルバカリデナク、二十日分ニ
對スル所迄ガ本法ニ依ル積立金ニナル、斯

ナカラウト思ヒマスガ、若シ大臣ノ御説明
ノヤウナラバ斯ウ云フ條文ヲ法律ニ規定シ
テ置クト云フコトハ無用ノコトデアッテ、
單ニ今朝來重ネ、此ノ「少クトモ」ト云フ
テ育ツテ來タノデアリマス、サウ云フ歴史ノ
跡ヲ見テモ亦今後ト雖モ、又事業主ガ勞働者
ニ對スル情愛ト云フモノノ變ルベキ筈ハナ
カラウト思ヒマスカラ、此ノ法ヲ設ケテ置
ケバ、從來二十日分ヤラレタモノハ矢張ニ
一度承リタイ
○政府委員(廣瀬久忠君) 是ハ先程モ申上
ゲマシタヤウニ二十日ノ手當ヲ今迄行ツテ
居ツタ、ソレガ本法ガ施行ニナリマシテ、十
二日分ダケガ義務額デアルト致シマシテモ、
本法ノ施行ニ關シテ十二日分ノ積立ダケデ
ナクテ、尙二十日分ニ對スル積立ヲ爲サル
一度承リタイ
○委員長(伯爵林博太郎君) 他ニ御質問モ
ナイヤウデスカラ、本日ハ是デ散會致シマ
シテ、明日ハ午前十時ニ開會致シマス
○藤原銀次郎君 是レ以上重ネマシテモ何
デスカラ、大分時刻モ移リマシタ……
○委員長(伯爵林博太郎君) 他ニ御質問モ
ナイヤウデスカラ、本日ハ是デ散會致シマ
シテ、明日ハ午前十時ニ開會致シマス
シテ、午後十一時十六分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵林 博太郎君
副委員長 男爵赤松 範一君
委員

公爵鷹司 信輔君
侯爵佐佐木行忠君
子爵野村 益三君
子爵岡部 長景君
子爵増山 正興君
有吉 忠一君
男爵北河原公平君
男爵安場 保健君

國務大臣	小久保喜七君
內務大臣	阿部房次郎君
潮 惠之輔君	藤原銀次郎君
金岡又左衛門君	久恒 貞雄君
大澤徳太郎君	濱口儀兵衛君
國務大臣	松本 學君
政府委員	
法制局長官 次田大三郎君	
内務政務次官 子爵鍋島 直繩君	
内務參與官 男爵肝付 兼英君	
社會局長官 廣瀬 久忠君	
社會局部長 赤松 小寅君	
大藏政務次官 中島彌團次君	
大藏省主稅局長 山田 龍雄君	
大藏書記官 松隈 秀雄君	
司法書記官 斎藤 直一君	
貴族院航路統制法案特別委員 會議事速記錄第二號正誤	
正誤錄第二號正誤	
貴族院豫算委員會議事速記錄	
第四號正誤	
正誤	
二八 三一〇 換言 還元	
正誤	
二八 三一〇 換言 還元	
正誤	
九一七〇男爵橋本正輝君 ○橋本辰二郎君	
貴族院豫算委員會議事速記錄	
第四號正誤	
正誤	

昭和十一年五月二十六日印刷

昭和十一年五月二十七日發行

貴族院事務局

印刷者
內閣印刷局